

‘*Candidatus Liberibacter solanacearum*’及び
そのベクターに関する病害虫リスクアナリシス報告書

令和8年2月24日 改訂

農林水産省横浜植物防疫所

主な改訂履歴及び内容

- | | | |
|--------------|-------------|---|
| 平成 28 (2016) | 年 3 月 25 日 | 作成 |
| 平成 31 (2019) | 年 3 月 25 日 | ' <i>Candidatus Liberibacter solanacearum</i> ' (Lso) の発生国の追加 (イスラエル等 4 か国) 及び宿主植物の追加 (アメリカボウフウ等 3 種)、 <i>Bactericera cockerelli</i> の発生国の追加 (ノーフォーク島) 及び寄主植物の追加 (コダチトマト)、 <i>Trioza apicalis</i> の発生国の追加 (エストニア) |
| 令和 2 (2020) | 年 3 月 25 日 | Lso の発生国の追加 (ベルギー等 4 か国)、 <i>B. cockerelli</i> の発生国の追加 (エクアドル)、 <i>Bactericera trigonica</i> の発生国の追加 (ハンガリー等 4 か国)、 <i>Bactericera nigricornis</i> の発生国の追加 (チュニジア及びベルギー) |
| 令和 2 (2020) | 年 8 月 6 日 | Lso の発生国の追加 (エクアドル)、種子伝搬に関する新たな情報の追加 |
| 令和 3 (2021) | 年 12 月 22 日 | Lso の発生国の追加 (英国等 3 か国) 及び宿主植物の追加 (オオイヌタデ等 9 種)、 <i>B. cockerelli</i> の寄主植物の追加 (オオセンナリ等 2 種)、 <i>T. apicalis</i> の寄主植物の追加 (<i>Heracleum sphondylium</i>)、 <i>B. trigonica</i> の発生国の追加 (セルビア) |
| 令和 4 (2022) | 年 12 月 1 日 | Lso の発生国の追加 (トルコ) |
| 令和 6 (2024) | 年 2 月 19 日 | <i>Bactericera cockerelli</i> の発生国の追加 (コロンビア及びペルー) |
| 令和 8 (2026) | 年 2 月 24 日 | <i>Bactericera cockerelli</i> の発生国の追加 (オーストラリア) |

目次

はじめに.....	1
A. 生物学的情報及び病害虫リスクアナリシス（開始（ステージ1）、病害虫リスク評価（ステージ2））.....	1
I. ‘ <i>Candidatus Liberibacter solanacearum</i> ’ (Lso)	1
I-1. リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報.....	1
1. 学名及び分類.....	1
2. 地理的分布.....	2
3. 宿主植物及びその日本国内での分布.....	4
4. 感染部位及びその症状.....	4
5. 移動分散方法.....	5
6. 生態.....	5
7. 媒介性又は被媒介性.....	6
8. 被害の程度.....	7
9. 防除.....	7
10. 診断、検出及び同定.....	7
11. 日本における輸入検疫措置.....	7
12. 諸外国における輸入検疫措置.....	8
I-2. 病害虫リスクアナリシス.....	9
第1 開始（ステージ1）.....	9
1. 開始.....	9
2. 対象となる有害動植物.....	9
3. 対象となる経路.....	9
4. 対象となる地域.....	9
5. 開始の結論.....	9
第2 病害虫リスク評価（ステージ2）.....	9
1. 有害動植物の類別.....	9
2. 農業生産等への影響の評価.....	10
3. 入り込みの可能性の評価.....	12
4. Lso の病害虫リスク評価の結論.....	13
別紙 I-1 Lso の発生国等の根拠.....	15
別紙 I-2 Lso の宿主植物の根拠.....	17
別紙 I-3 Lso の宿主植物に関連する経路の年間輸入検査量 （発生国からの貨物、郵便物及び携帯品）.....	22
別紙 I-4 日本に分布するキジラミ類.....	23
引用文献.....	29
II. <i>Bactericera cockerelli</i> (Lso のベクター)	37
II-1. リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報.....	37
1. 学名及び分類.....	37
2. 地理的分布.....	37
3. 寄主植物及びその日本国内での分布.....	38
4. 寄生部位及びその症状.....	38
5. 移動分散方法.....	39

6. 有害動物の大きさ及び生態.....	39
7. 媒介性又は被媒介性.....	40
8. 被害の程度.....	40
9. 防除.....	40
10. 日本における輸入検疫措置.....	41
11. 諸外国における輸入検疫措置.....	41
12. 日本の輸入検査における <i>Bactericera cockerelli</i> の発見件数 (2015~2024 年)	41
II-2. 病害虫リスクアナリシス.....	42
第1 開始 (ステージ1)	42
1. 開始.....	42
2. 対象となる有害動植物.....	42
3. 対象となる経路.....	42
4. 対象となる地域.....	42
5. 開始の結論.....	42
第2 病害虫リスク評価 (ステージ2)	42
1. 有害動植物の類別.....	42
2. 農業生産等への影響の評価.....	43
3. 入り込みの可能性の評価.....	45
4. <i>Bactericera cockerelli</i> の病害虫リスク評価の結論.....	47
別紙II-1 <i>Bactericera cockerelli</i> の発生国等の根拠.....	48
別紙II-2 <i>Bactericera cockerelli</i> の寄主植物の根拠.....	49
別紙II-3 <i>Bactericera cockerelli</i> の寄主植物に関連する経路の年間輸入検査量 (発生国からの貨物、郵便物及び携帯品)	53
引用文献.....	55
III. <i>Trioza apicalis</i> (Lso のベクター)	58
III-1. リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報.....	58
1. 学名及び分類.....	58
2. 地理的分布.....	58
3. 寄主植物及びその日本国内での分布.....	59
4. 寄生部位及びその症状.....	59
5. 移動分散方法.....	59
6. 有害動物の大きさ及び生態.....	59
7. 媒介性又は被媒介性.....	60
8. 被害の程度.....	60
9. 防除.....	60
10. 日本における輸入検疫措置.....	60
11. 諸外国における輸入検疫措置.....	61
12. 日本の輸入検査における <i>Trioza apicalis</i> の発見件数 (2015~2024 年)	61
III-2. 病害虫リスクアナリシス.....	62
第1 開始 (ステージ1)	62
1. 開始.....	62
2. 対象となる有害動植物.....	62
3. 対象となる経路.....	62
4. 対象となる地域.....	62

5. 開始の結論.....	62
第2 病害虫リスク評価（ステージ2）.....	62
1. 有害動植物の類別.....	62
2. 農業生産等への影響の評価.....	63
3. 入り込みの可能性の評価.....	65
4. <i>Trioza apicalis</i> の病害虫リスク評価の結論.....	67
別紙Ⅲ－1 <i>Trioza apicalis</i> の発生国等の根拠.....	68
別紙Ⅲ－2 <i>Trioza apicalis</i> の寄主植物の根拠.....	69
別紙Ⅲ－3 <i>Trioza apicalis</i> の寄主植物に関連する経路の年間輸入検査量 （発生国からの貨物、郵便物及び携帯品）.....	71
引用文献.....	72
IV. <i>Bactericera trigonica</i> （Lso のベクター）.....	74
IV－1. リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報.....	74
1. 学名及び分類.....	74
2. 地理的分布.....	74
3. 寄主植物及びその日本国内での分布.....	74
4. 寄生部位及びその症状.....	75
5. 移動分散方法.....	75
6. 有害動物の大きさ及び生態.....	75
7. 媒介性又は被媒介性.....	75
8. 被害の程度.....	76
9. 防除.....	76
10. 日本における輸入検疫措置.....	76
11. 諸外国における輸入検疫措置.....	76
12. 日本の輸入検査における <i>Bactericera trigonica</i> の発見件数（2015～2024年）.....	76
IV－2. 病害虫リスクアナリシス.....	77
第1 開始（ステージ1）.....	77
1. 開始.....	77
2. 対象となる有害動植物.....	77
3. 対象となる経路.....	77
4. 対象となる地域.....	77
5. 開始の結論.....	77
第2 病害虫リスク評価（ステージ2）.....	77
1. 有害動植物の類別.....	77
2. 農業生産等への影響の評価.....	78
3. 入り込みの可能性の評価.....	80
4. <i>Bactericera trigonica</i> の病害虫リスク評価の結論.....	82
別紙Ⅳ－1 <i>Bactericera trigonica</i> の発生国等の根拠.....	83
別紙Ⅳ－2 <i>Bactericera trigonica</i> の寄主植物の根拠.....	84
別紙Ⅳ－3 <i>Bactericera trigonica</i> の寄主植物に関連する経路の年間輸入検査量 （発生国からの貨物、郵便物及び携帯品）.....	85
引用文献.....	86
V. <i>Bactericera nigricomis</i> （Lso のベクター）.....	88
V－1. リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報.....	88

1. 学名及び分類.....	88
2. 地理的分布.....	88
3. 寄主植物及びその日本国内での分布.....	89
4. 寄生部位及びその症状.....	89
5. 移動分散方法.....	89
6. 有害動物の大きさ及び生態.....	89
7. 媒介性又は被媒介性.....	90
8. 被害の程度.....	90
9. 防除.....	90
10. 日本における輸入検疫措置.....	90
11. 諸外国における輸入検疫措置.....	91
12. 日本の輸入検査における <i>Bactericera nigricornis</i> の発見件数 (2015~2024 年)	91
V-2. 病害虫リスクアナリシス.....	92
第1 開始 (ステージ1)	92
1. 開始.....	92
2. 対象となる有害動植物.....	92
3. 対象となる経路.....	92
4. 対象となる地域.....	92
5. 開始の結論.....	92
第2 病害虫リスク評価 (ステージ2)	92
1. 有害動植物の類別.....	92
2. 農業生産等への影響の評価.....	93
3. 入り込みの可能性の評価.....	95
4. <i>Bactericera nigricornis</i> の病害虫リスク評価の結論.....	97
別紙V-1 <i>Bactericera nigricornis</i> の発生国等の根拠.....	98
別紙V-2 <i>Bactericera nigricornis</i> の寄主植物の根拠.....	100
別紙V-3 <i>Bactericera nigricornis</i> の寄主植物に関連する経路の年間輸入検査量 (発生国からの貨物、郵便物及び携帯品)	103
引用文献.....	105
B. 病害虫リスクアナリシス (病害虫リスク管理 (ステージ3))	106
1. Lso 及びそのベクター4種に対するリスク管理措置の選択肢の検討.....	106
2. 経路ごとのLso 及びそのベクター4種に対するリスク管理措置の選択肢の検討.....	113
引用文献.....	117

はじめに

2008年以降、北米やニュージーランドのバレイショ栽培において、難培養の師部局在性細菌の一種である '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' (以下「Lso」という。)のまん延により、収量・品質の低下等の重大な影響をもたらす zebra chip disease と呼ばれる昆虫媒介性の病害が報告されてきた (Munyaneza et al., 2012)。また、Lso は、バレイショ以外のナス科植物にも重大な被害をもたらすことが知られている (Brown et al., 2010; Liefting et al., 2009a; Munyaneza et al., 2009a, 2009b)。

2010年には、ナス科以外の植物ではフィンランドにおいて初めてニンジンから Lso が検出され、carrot yellows disease の原因であることが報告された (Munyaneza et al., 2010)。その後、Lso によるニンジンの被害は地中海沿岸地域に広がるなど、Lso による病害のさらなる拡大が世界的な問題となっている (Holeva et al., 2017; Tahzima et al., 2014)。

日本においては、Lso は植物防疫法施行規則 (農林省, 1950) 別表 1 に規定されている検疫有害植物であり、同施行規則別表 2 の 2 に規定されている国又は地域からの該当する宿主植物の生植物 (栽培の用に供するもの) の輸入については、輸出国での遺伝子診断法による検査が必要とされている。

今般、Lso のベクターとなる *Bactericera cockerelli* について、発生国に関する新たな情報が得られたことから、改めて現行の検疫措置の有効性を検討するため、病害虫リスクアナリシスを実施した。

A. 生物学的情報及び病害虫リスクアナリシス (開始 (ステージ 1)、病害虫リスク評価 (ステージ 2))

I. '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' (Lso)

I-1. リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報

1. 学名及び分類

(1) 学名 (Liefting et al., 2009b)

'*Candidatus Liberibacter solanacearum*'

(2) 英名、和名等 (CABI, 2022)

英名: zebra chip、psyllid yellows、zebra complex

和名: なし

(3) 分類 (CABI, 2022)

種類: 細菌

科: Phyllobacteriaceae

属: '*Candidatus Liberibacter*'

(4) シノニム

Liberibacter psyllaourous

Liberibacter solanacearum

Candidatus Liberibacter psyllaourous Hansen et al., 2008

(CABI, 2014a; EPPO, 2013a; Munyaneza et al., 2010; Munyaneza et al., 2012; Nelson et al., 2011)

(5) 系統等

geographic haplotypes (Bertolini et al., 2015; CABI, 2014a; FERA, 2014; Haapalainen et al., 2020; Mauck et al., 2019; Swisher Grimm and Garczynski, 2019)

- haplotype A
- haplotype B
- haplotype C
- haplotype D
- haplotype E
- haplotype F
- haplotype G
- haplotype H

2. 地理的分布

(1) 国又は地域 (詳細は別紙 I - 1 参照。)

中東：イスラエル、トルコ

欧州：イタリア、英国、エストニア、オーストリア、ギリシャ、スウェーデン、スペイン、セルビア、ドイツ、ノルウェー、フィンランド、フランス、ベルギー、ポルトガル

アフリカ：カナリア諸島、チュニジア、モロッコ

北米：アメリカ合衆国

中南米：エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、ニカラグア、ホンジュラス、メキシコ

大洋州：ニュージーランド、ノーフォーク島

(2) 生物地理区

Lso は、旧北区、新北区、オーストラリア区、新熱帯区及び南極区の計5区に分布する。

(3) 系統等の分布

Lso は、遺伝的に差異のある8種類のハプロタイプが知られている。それぞれの発生地域、宿主植物及びベクターは下表のとおり。

ハプロタイプ	分布地域	宿主植物	ベクター	根拠
A	アメリカ合衆国 (アイダホ州、アリゾナ州、オレゴン州、カリフォルニア州、カンザス州、コロラド州、テキサス州、ニューメキシコ州、ネバダ州、ネブラスカ州、モンタナ州、ワイオミング州、ワシントン州)、エクアドル、グアテマラ、ニカラグア、ホンジュラス、メキシコ、ニュージーランド、ノーフォーク島	バライショ及びその他ナス科植物	<i>Bactericera cockerelli</i>	CABI, 2014a; Caicedo et al., 2020a, 2020b; EPPO, 2013a; MPI, 2018; Thoma et al., 2018
B	アメリカ合衆国 (カンザス州、テキサス州、ネブラスカ州)、メキシコ	バライショ及びその他ナス科植物	<i>Bactericera cockerelli</i>	CABI, 2014a; EPPO, 2013a

C	イタリア、英国、エストニア、オーストリア、スウェーデン、ドイツ、ノルウェー、フィンランド	アメリカボウフウ、オオイヌタデ、オランダゼリ、シヤク、セロリー、ニンジン、ヘラクレウム・スフォンディリウム、 <i>Fallopia convolvulus</i>	<i>Trioza apicalis</i>	CABI, 2014a, c; Catara et al., 2017; EPPO, 2012, 2013a, 2018b; Haapalainen et al., 2020; Ilardi et al., 2016; Lethmayer and Gottsberger, 2020; Munyaneza et al. 2015; Sumner-Kalkun et al., 2020
D	イスラエル、トルコ、イタリア、英国、ギリシャ、スペイン、フランス、ベルギー、カナリア諸島、チュニジア、モロッコ	オランダゼリ、セロリー、ニンジン	<i>Bactericera trigonica</i>	Ben Othmen et al., 2018a, b; CABI, 2014a; EPPO, 2013a, 2017a, c, 2018a, 2019a, b; Hajri et al., 2017; Holeva et al., 2017; Ilardi et al., 2016; Karahan et al., 2022; Monger and Jeffries, 2016; Tahzima et al., 2014, 2017
E	英国、スペイン、フランス、ポルトガル、チュニジア、モロッコ	セロリー、ニンジン	<i>Bactericera trigonica</i>	Ben Othmen et al., 2018a, b; Bertolini et al., 2015; Direção Regional de Agricultura, 2018; EPPO, 2013b, 2019a, b; Hajri et al., 2017; Monger and Jeffries, 2016; Tahzima et al., 2014, 2017
F	アメリカ合衆国	バレイショ	不明	Swisher Grimm and Garczynski, 2019
G	アメリカ合衆国	<i>Solanum umbelliferum</i>	不明	Mauck et al., 2019
H	フィンランド	アメリカボウフウ、オオイヌタデ、ニンジン、 <i>Fallopia</i>	不明	Haapalainen et al., 2020

		<i>convolvulus</i>		
不明	エルサルバドル	トマト	Lso が発生した ほ場に <i>Bactericera cockerelli</i> が同時 に発生	Bextine et al., 2013; EPPO, 2014b

3. 宿主植物及びその日本国内での分布

(1) 宿主植物（詳細は別紙 I - 2 参照）

アカザ科：シロザ (*Chenopodium album*)

アカネ科：ヤエムグラ属の一種 (*Galium* sp.)

イラクサ科：ウルチカ・ディオイカ（セイヨウイラクサ） (*Urtica dioica*)

セリ科：アメリカボウフウ (*Pastinaca sativa*)、エゴポディウム・ポダグラリア（イワミツバ） (*Aegopodium podagraria*)、オランダゼリ (*Petroselinum crispum* (= *P. hortense*, *P. sativum*))、シャク (*Anthriscus sylvestris*)、セロリー (*Apium graveolens*)、チャービル (*Anthriscus cerefolium*)、ニンジン (*Daucus carota*)、ヘラクレウム・スフォンディリウム (*Heracleum sphondylium*)

タデ科：オオイヌタデ (*Persicaria lapathifolia* (= *Polygonum lapathifolium*))、ファロピア・コンウォルウルス（ソバカズラ） (*Fallopia convolvulus*)

ナス科：オオブドウホオズキ (*Physalis ixocarpa*)、キダチトウガラシ (*Capsicum frutescens*)、コダチトマト (*Cyphomandra betacea* (= *Pionandra betacea*, *Solanum betaceum*, *S. insigne*))、シマホオズキ (*Physalis peruviana*)、ソラヌム・ウンベリフェルム (*Solanum umbelliferum*)、ソラヌム・エラエアグニフォリウム（ラシヤナス） (*Solanum elaeagnifolium*)、ソラヌム・ドウルカマラ (*Solanum dulcamara*)、タバコ (*Nicotiana tabacum*)、トウガラシ (*Capsicum annum*)、トマト (*Lycopersicon esculentum* (= *Solanum lycopersicum*))、ナガバクコ (*Lycium barbarum*)、ナス (*Solanum melongena*)、バレイショ (*Solanum tuberosum*)

(2) 日本国内における宿主植物の分布及び栽培状況

Lso の宿主植物であるニンジン、バレイショ等は 47 都道府県で栽培されている。

4. 感染部位及びその症状

(1) 感染部位

Lso はグラム陰性の難培養性細菌で宿主植物の師部に局在し、キジラミ類によって伝搬されることが知られている (CABI, 2014a; EPPO, 2012h, 2013a; Munyaneza et al., 2010, 2012)。

(2) 症状

ナス科植物の地上部における Lso の特徴的な症状としては、生育不良、新葉の直立、葉の萎黄及び紫色化、葉の基部のカップ状の変形、葉の巻き上がり、末端部の節間短縮による植物体のロゼット化、節の肥大、側枝の発生、気中塊茎 (aerial tuber) の発生、葉やけ症状、着果

期の不揃い、過剰着果、果実の小型化、奇形等があり、宿主植物の品質の低下が見られる (EPPO, 2021)。

特にバレイショの地下部では、ほふく茎のえ死や塊茎全体に及ぶ内部組織のえそ斑及び放射状組織の条斑を伴う維管束組織の褐変が見られる。被害塊茎をポテトチップスやフライなどに加工した場合、暗色斑、縞及び条斑が現れるため、商品価値を失う。この症状が英名の zebra chip の由来となっている (EPPO, 2021)。

ニンジンでは、ヨコバイが媒介するファイトプラズマ病やスピロプラズマ病に類似した症状を呈し、葉巻、葉の黄化、銅色化、紫化、茎根の成長阻害、二次根の異常増殖、種子の発芽率の低下等が見られる (EPPO, 2021)。

しかし、症状を現していないバレイショやニンジンからリアルタイム PCR 法によって Lso が検出された事例がある (Li et al., 2009; SPHDS, 2012)。

シマホオズキでは、葉が変色する (Caicedo et al., 2020b)。

5. 移動分散方法

(1) 自然分散

Lso は、ベクターにより伝搬される (経卵伝搬、摂食時の伝搬) (EPPO, 2021)。感染したバレイショは、まれに増殖するが通常発芽しない。感染植物は、生育不良を起こし、短命であるため、病気のまん延にはあまり寄与しない (EPPO, 2021)。

(2) 人為分散

Lso は、感染植物の移動によって分散する可能性があり、また、実験では感染穂の接ぎ枝、接ぎ穂により伝搬することが確認されている (EPPO, 2013a)。Lso は難培養性であり、一般に、生きた植物体内でのみ生存でき、植物残さや土壌中に生息することはないため、輸送機器、こん包材等に付着し移動することはない。

Bertolini et al. (2015) は、Lso がニンジン種子において伝搬することを報告したが、これ以降、種子伝搬を支持する報告はない。一方、種子伝搬する可能性が低いことを裏付ける報告が複数ある (Loiseau et al., 2017a, b; 大石ら, 2017; Haapalainen et al., 2018; Fujikawa et al., 2020)。Fujikawa et al. (2020) によると、Lso 汚染種子の実生苗 1,809 株 (3 ロット、各約 600 株) について検定を行ったが、Lso は検出されなかった。また、この結果をもとに種子伝搬が起こりうる可能性の上限を統計的に推定したところ、0.28% と極めて低い結果であり、同様に Loiseau et al. (2017b) のデータに基づき推定した可能性の上限も 0.23% と近い値であった。以上から、ニンジン種子が Lso の伝搬経路となる可能性は極めて低いと考えられる。

6. 生態

(1) 中間宿主及びその必要性
情報なし。

(2) 伝染環

Lso は、ベクターによる伝搬が最も重要な分散手段であるが、Lso を媒介するベクターは日本には存在しない (詳細は別紙 I - 4 参照)。

(3) 植物残さ中での生存
情報なし。

- (4) 耐久生存態
情報なし。

7. 媒介性又は被媒介性

(1) ベクター

Lso は、キジラミ類によって媒介されることが知られている。Lso を媒介し得るベクターとして以下の3種のトガリキジラミが知られている。

ア *Bactericera cockerelli* : 日本未発生

バレイショ、トマト等ナス科に寄生し、ハプロタイプ A 及び B を媒介することが知られている。風を利用して1年間に数百 km 移動する (EPPO, 2012h)。Lso を永続伝搬し、摂食時の伝搬及び経卵伝搬する (Bertolini et al., 2015; CABI, 2014b)。

イ *Trioza apicalis* : 日本未発生

ニンジン等セリ科に寄生し、ハプロタイプ C を媒介することが知られている。長距離飛翔 (5km 以上) が可能である (Láska, 2011)。伝搬様式の情報は何もない。

ウ *Bactericera trigonica* : 日本未発生

ニンジン、セロリー等セリ科に寄生し、ハプロタイプ D 及び E を媒介することが知られている。飛翔距離及び伝搬様式に関する情報は得られていない。ただし、飛翔距離に関しては同属他種と同様に風により長距離飛翔するものと考えられる。

(2) ベクターとして疑われるキジラミ類

ア *Bactericera nigricornis* : 日本未発生

イランにおいて、本種のまん延するバレイショほ場で zebra chip と示唆される症状が確認され、本種が Lso のベクターとして疑われている (Fathi, 2011; Halbert and Munyaneza, 2012)。飛翔距離及び伝搬様式に関する情報は得られていない。ただし、飛翔距離に関しては同属他種と同様に風により長距離飛翔するものと考えられる。

イ *Trioza* sp. 及び *Accizia* sp. : 両属の一部は日本既発生

アカシア属及びトベラ属から採取されたキジラミ類 *Trioza* sp. 及び *Accizia* sp. から Lso が検出されたとする報告がある (Bertolini et al., 2015; FERA, 2014)。

(3) 国内に分布する上記3属 (*Bactericera*、*Trioza* 及び *Accizia*) のキジラミ類 (詳細は別紙 I-4 参照)

国内には *Bactericera* 属、*Trioza* 属、*Accizia* 属複数種分布しており、その内 *Bactericera petiolata* がナス科クコ属を寄主植物とするとの報告があった (Ouvrard, 2014)。なお、Lso の宿主植物でクコ属に含まれるのはナガバクコのみ。

B. petiolata

分布：日本、中華人民共和国、モンゴル、イラン、イエメン、アルメニア、カザフスタン、キルギス、トルクメニスタン

寄主植物：クコ属、*Lycium depressum*

その他：生態に関する情報は不明。

8. 被害の程度

Lso とそのベクターとなるキジラミ類により、アメリカ合衆国、中米及びニュージーランドでは、トマト及びバレイショ、欧州ではニンジンに対し、数百万ドルの損失が生じている（CABI, 2014a, b; FERA, 2014; Munyaneza et al., 2010, 2014a）。

ニュージーランドでは、温室トマトとトウガラシの Lso による被害が 100 万ドルと推定されている（FERA, 2014）。

フランスのある採種ほ場では、50%のニンジンで感染が確認され、収穫された種子の発芽率が 10~77%に低下したことから市場価値を失った（Loiseau et al., 2014）。

ノルウェーでは、ニンジンの商用栽培ほ場の 70~80%で Lso が発生（発生ほ場における発芽率：10~100%）したとの報告もある（EPPO, 2012f）。

9. 防除

Lso の効果的な防除方法は、ベクターをほ場に侵入をさせないこと、あるいはベクターがほ場に侵入してしまった場合には薬剤散布である（CABI, 2022）。キジラミ類は葉の裏で見つかるため、植物の成長に合わせた殺虫剤の選択が重要である。また、成虫には効果があっても、幼虫や卵には効果がない場合があるため、数種類の薬剤を態に合わせて使用する等の注意が必要である（EPPO, 2017b）。欧州では、バレイショ、トマト、ナス、トウガラシ等にエスフェンバレレート（Esfenvalerate）、ラムダ-シハロトリン（Lambda-cyhalothrin）、アセタミプリド（Acetamiprid）、チアクロプリド（Thiacloprid）、チアメトキサム（Thiamethoxam）、スピノサド（Spinosad）、アバメクチン（Abamectin）、ピメトロジン（Pymetrozine）、スピロメシフェン（Spiromesifen）が使用されている（EPPO, 2017b）。

Lso は熱に弱く、32°C より高い温度では増殖が抑制され、また、32~35°C 及び 35~40°C の実験環境下では、バレイショへのベクターによる Lso の接種によって、症状が現れることがなかったとの調査結果も報告されている（Australian Government, 2017; Munyaneza, 2012）。

10. 診断、検出及び同定

Lso に特異的なリアルタイム PCR 法等の遺伝子診断法が有効である。

PCR 法は、症状を現している部位の師部を含むサンプルからの検出が有効であるが、症状を現していない場合でも、地上部、根、塊茎等の師部からまんべんなくサンプリングすることで、検出は可能となる（Li et al., 2009; SPHDS, 2012）。

なお、植物検疫措置に関する国際基準（以下「ISPM」という。）No. 27 Annex 21 DP 21 では、リアルタイム PCR 法、Conventional PCR 法といった検出方法や、ハプロタイプの同定方法等を記載した Lso の診断マニュアルが報告されている（IPPC, 2017）。

11. 日本における輸入検疫措置

Lso は、植物防疫法施行規則（農林省, 1950）別表 1 に規定された検疫有害植物で、同施行規則別表 2 の 2 に規定された国又は地域から輸入される宿主植物であって栽培の用に供するもの（種子及び果実を除く。）については、遺伝子診断法による検査を実施し、Lso に感染していないことを検査証明書へ追記することを求めている。

なお、バレイショ生塊茎は、隔離栽培運用基準（農林省, 1968）に基づき国内の施設において一定期間の隔離栽培中の検査を行う。

1 2. 諸外国における輸入検疫措置

- (1) ユーラシア経済同盟 (Eurasian Economic Union : EAEU) (EAEU, 2022)
以下の措置を要求している。
 - ・ 栽植用ニンジン種子に対し、Lso の無発生地域、生産地又は生産用地で生産されていること。
 - ・ 栽植用バレイショ塊茎 (マイクロチューバー及びミニチューバーを除く。) に対し、Lso の無発生生産用地で生産されていること。
 - ・ 消費用バレイショ塊茎に対し、Lso の無発生地域で生産されていること。

- (2) 欧州連合 (European Union : EU) 及び英国
規制非検疫有害動植物に指定されており、域内移動及び輸入規制の対象となっている。栽植用バレイショ塊茎に対し、Lso の無発生地域で生産されたものであること、又は生産地において公的な栽培地検査を実施することを要求している。さらに原原種用バレイショ塊茎に対しては公的検査した母株に由来することを要求している (EU, 2025)。
英国も栽植用バレイショ塊茎、栽植用トマトに対して同様の措置をとっている (Legislation.gov.uk, 2025)。

- (3) スイス (NPPO of Switzerland, 2025)
栽植用バレイショ塊茎について、Lso の無発生地域で生産されたこと、又は直近の栽培期間において公的機関が実施した栽培地検査で Lso の症状が確認されなかったことを要求している。

- (4) ニュージーランド (MPI, 2025)
バレイショの組織培養体の輸入要件は、*Candidatus Liberibacter solanacearum* haplotype B を含むバレイショの病原体に対する隔離検疫、PCR 等の実施。

- (5) 大韓民国
Lso 及びそのベクター (*Trioza apicalis*、*Bactericera trigonica* 及び *B. cockerelli*) を禁止対象病害虫とし、発生国からのトマト、トウガラシ、バレイショ等については、茎葉、地下部及び栽植用植物の輸入を禁止し、ニンジン及びセロリーについては茎葉及び栽植用植物の輸入を禁止している (APQA, 2023)。

- (6) チリ (SAG, 2025)
アメリカ合衆国産の栽植用バレイショ塊茎 (ミニチューバーに限る。) について、チリの国家植物防疫機関 (SAG : Servicio Agrícola y Ganadero) に認証された施設において、Lso を含む病害虫に対し二国間で合意された検疫措置が行われることを要求している。

I-2. 病害虫リスクアナリシス

第1 開始 (ステージ1)

1. 開始

‘*Candidatus Liberibacter solanacearum*’ (Lso) に対する現行の検疫措置の有効性を検討するため、病害虫リスクアナリシスを実施する。

2. 対象となる有害動植物

‘*Candidatus Liberibacter solanacearum*’ (Lso) を対象とする。

3. 対象となる経路

リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報の「2. 地理的分布」に示す「国又は地域」からの「3. 寄主植物及びその日本国内での分布」に示す「宿主植物」であって、「4. 感染部位及びその症状」に示す「感染部位」を含む植物を対象とする。なお、種子からLsoが検出される事例はあるものの、近年の調査で種子伝搬は否定されているので、対象経路から除外した。

4. 対象となる地域

日本全域を対象とする。

5. 開始の結論

Lso を開始点とし、その発生地域から輸入される植物を経路とした日本全域を対象とする病害虫リスクアナリシスを開始する。

第2 病害虫リスク評価 (ステージ2)

1. 有害動植物の類別

ステージ1で特定された有害動植物について、国内における発生及び公的防除の有無、定着及びまん延の潜在性並びに経済的影響を及ぼす潜在性について調査し、検疫有害動植物となる潜在性を有するかを検討する。なお、以下の(1)～(3)の評価項目を満たしていない場合は、それが判明した時点で評価を中止できるものとする。

(1) 有害動植物の国内での発生の有無及び公的防除の有無等

‘*Candidatus Liberibacter solanacearum*’ (Lso) は国内未発生である。

(2) 定着及びまん延の潜在性

Lso の宿主植物は、47 都道府県で栽培されていることから、本種が国内に入り込んだ場合、国内に定着及びまん延するおそれがある。

(3) 経済的影響を及ぼす潜在性

Lso の感染により、ナス科植物では生育不良、葉の萎黄及び紫色化並びに変形、過剰着果、果実の小型化、奇形等があり、宿主植物の品質の低下が見られる。バレイショの地下部では、ほふく茎のえ死や塊茎全体に及ぶ内部組織のえそ斑及び放射状組織の条斑を伴う維管束組織の褐変が見られ、被害塊茎をポテトチップスやフライなどに加工した場合、暗色斑、縞及び条斑が現れるため、商品価値を失う。ニンジンでは、ヨコバイが媒介するファイトプラズマ病やスピロプラズマ病に類似した症状を呈し、葉巻、葉の変色、茎根の成長阻害、二次根の異常増殖等が見られる。Lso とそのベクターとなるキジラミ類により、アメリカ合衆国、中米及びニュージーランドではトマト及びバレイショ、欧州ではニンジンに対し、数百万ドルの損失が生じ

ている。

したがって、Lso は国内未発生であるが、Lso が国内に入り込み、定着及びまん延した場合、経済的影響を及ぼすおそれがある。

(4) 評価にあたっての不確実性

特になし。

(5) 有害動植物の類別の結論

Lso は国内未発生であるが、Lso の宿主植物は47 都道府県で栽培される。このことから、Lso が国内に入り込んだ場合、定着及びまん延するおそれがある。また、Lso とそのベクターとなるキジラミ類により、アメリカ合衆国、中米及びニュージーランドではトマト及びバレイショ、欧州ではニンジンに対し、数百万ドルの損失が生じているとの被害報告があることから、Lso が国内に入り込み、定着及びまん延した場合、国内においても経済的影響を及ぼすことは否定できない。

したがって、Lso は検疫有害動植物となる潜在性を有することから、引き続き「2. 農業生産等への影響の評価」で評価を行う。

2. 農業生産等への影響の評価

(1) 定着の可能性の評価

ア リスクアナリシスを実施する地域における潜在的検疫有害動植物の生存の可能性

(ア) 潜在的検疫有害動植物の生存の可能性

Lso は難培養性であり、一般に、生きた植物体内でのみ生存できると考えられる。Lso の主要な宿主植物であるニンジン、バレイショ等は47 都道府県で栽培されており、施設栽培を含めて周年存在する。よって、Lso が我が国に入り込んだ場合、生活環を維持できると考える。

(イ) リスクアナリシスを実施する地域における中間宿主の利用可能性

中間宿主は必須でないため評価しない。

(ウ) 潜在的検疫有害動植物の繁殖戦略

Lso は細菌のため、評価基準に基づき5点と評価した。

イ リスクアナリシスを実施する地域における寄主又は宿主植物の利用可能性及び環境の好適性

(ア) 寄主又は宿主植物の利用可能性及び環境の好適性

Lso の主要な宿主植物であるニンジン、バレイショ等は、47 都道府県で栽培されており、Lso にとって好適な環境が日本全域に存在することから、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 潜在的検疫有害動植物の寄主又は宿主範囲の広さ

Lso の宿主植物は、アカザ科、アカネ科、イラクサ科、セリ科、タデ科及びナス科の6科で報告がある。

(ウ) 有害動植物の侵入歴

Lso は、旧北区、新北区、オーストラリア区、新熱帯区及び南極区の5区に分布する。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

ウ 定着の可能性の評価結果

評価した項目の評価点の平均から、定着の可能性の評価点は5点満点中の5点となった。

(2) まん延の可能性の評価

ア 自然分散（自然条件における潜在的検疫有害動植物の分散）

(ア) ベクター以外による伝搬

ベクター以外の自然分散は情報がなため、評価しない。

(イ) ベクターによる伝搬

Lsoのベクターとなるキジラミ類は、日本には分布していないため、評価しない。

イ 人為分散

(ア) 農作物を介した分散

Lsoの主要な宿主植物であるニンジン、バレイショ等は、47都道府県で栽培されているため、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 非農作物を介した分散

Lsoは難培養性であり、一般に、生きた植物体内でのみ生存でき、植物残さや土壌中に生息するとの情報はなく、輸送機器、こん包材等の非農産物を介した分散は知られていない。よって、評価しない。

ウ まん延の可能性の評価結果

評価した項目の評価点の平均から、まん延の可能性の評価点は5点満点中の5点となった。

(3) 経済的重要性の評価

ア 直接的影響

(ア) 影響を受ける農作物又は森林資源

Lsoの宿主植物には、トマト、ニンジン、バレイショ等が含まれ、影響を受ける農作物の産出額の合計は5,814.8億円であることから、評価基準に基づき4点と評価した。

(イ) 生産への影響

Lsoの主要な宿主植物であるニンジン、バレイショ等が47都道府県で栽培されている。これらの植物は生産農業所得統計の対象とされており、Lsoの発生国では、商品生産に大きな支障を来す経済的被害（商品部位への直接的被害又は1年生作物の高頻度の枯死）が報告されている。よって、評価基準に基づき4点と評価した。

(ウ) 防除の困難さ

公的防除の情報はない。Lsoを防除する効果的な方法は、ベクターをほ場に侵入させないこと、あるいはベクターがほ場に侵入した場合には薬剤散布である。キジラミ類は葉の裏で見つかるため、植物の成長に合わせた殺虫剤の選択が重要である。また、成虫には効果があっても幼虫や卵には効果がない場合があるため、数種類の薬剤を態に合わせて使用する等の注意が必要である。

(エ) 直接的影響の評価結果

上記（ア）及び（イ）の評価点の積は16点となり、評価基準に基づき直接的影響の評価点は4点と評価した。

イ 間接的影響

(ア) 農作物の政策上の重要性

Lso の宿主植物は「農業保険法」及び「同法施行令」、及び「野菜生産出荷安定法施行令」において定める農作物に該当する。よって、評価基準に基づき1点と評価した。

(イ) 輸出への影響

大韓民国では、Lso の発生国からのバレイシヨ塊茎、セリ科植物の種子等の輸入を禁止している。よって、評価基準に基づき1点と評価した。

ウ 経済的重要性の評価結果

直接的影響の評価点と間接的影響の評価点の和から、経済的重要性の評価点は5点満点中の5点となった。

(4) 評価における不確実性

特になし。

(5) 農業生産等への影響評価の結果（病害虫固有のリスク）

定着及びまん延の可能性並びに経済的重要性の各項目の評価点の積は125点となり、Lso の農業生産等への影響の評価を「高い」と結論付けた。

3. 入り込みの可能性の評価

項目	評価における判断の根拠等		
(1) 感染部位	Lso は感染植物の師部に存在する。		
(2) 国内に入り込む可能性のある経路	入り込む可能性のある経路は、〔栽植用植物〕、〔栽植用球根類〕及び〔消費生植物〕が考えられる。		
	用途	部位	経路となる可能性
	ア 栽植用植物	植物体全体	○
	イ 栽植用球根類（バレイシヨ塊茎）	塊茎	○
ウ 消費生植物	植物体全体	○	
(3) 宿主植物の輸入検査量	別紙 I - 3 参照		

※ 塊茎等が栄養繁殖体となる場合、用途としての分類上「球根類」と表記する。以下同様。

※ 本来の用途ではない目的に利用されることが想定される場合は、その想定される用途の評価結果を適用する（例えば、消費用途の植物が栽植用として利用される場合など）。

(4) 入り込みの可能性の評価

ア 栽植用植物及びイ 栽植用球根類（バレイシヨ塊茎）

(ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）

栽植用植物及び栽植用球根類（バレイシヨ塊茎）は、輸送中及び貯蔵中に生存率に影響を与えるような加工は実施されない。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ

有害植物（細菌）、特にLso は感染植物の植物体内の師部に存在するため、症状が出

なければ感染の有無が判断できない。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性

栽植用植物及び栽植用球根類は、栽培施設、ほ場等へ直接持ち込まれる。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(エ) 輸入品目からの自然分散の可能性

栽植用植物及び栽植用球根類（バレイショ塊茎）は、栽植用として利用されることで入り込みが完了する。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(オ) 評価における不確実性

Lsoに感染した宿主植物は、衰弱又は枯死し、バレイショでは通常発芽しない（栽植用として利用できない）。また、ベクターが存在しない状況において、Lsoに感染した栽植用植物及び栽植用球根類（バレイショ塊茎）は病原体の分散にはあまり寄与しない可能性があることから、評価の結論には不確実性が伴う。

栽植用植物及び栽植用球根類（バレイショ塊茎）からの入り込みの可能性の評価の結論
評価を行った項目の評価点の平均値は5点であり、栽植用植物及び栽植用球根類（バレイショ塊茎）を経路とした場合のLsoの入り込みの可能性の評価を「高い」と結論付けた。

ウ 消費生植物

(ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）

輸送中及び貯蔵中に生存率に影響を与えるような加工は実施されない。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ

有害植物（細菌）、特にLsoは感染植物の植物体内の師部に存在するため、症状がでなければ感染の有無を判断できない。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性

主要な宿主であるバレイショ、ニンジン等は、47都道府県で生産されているため、評価基準に基づき4点と評価した。

(エ) 輸入品目からの自然分散の可能性

Lsoはベクターにより媒介されるが、ベクターは日本未発生であるため、評価基準に基づき評価中止とする。

(オ) 評価における不確実性

Lsoに感染した宿主植物は、衰弱又は枯死し、バレイショでは通常発芽せず、ベクターが存在しない状況においては病原体の分散にはあまり寄与しない可能性があることから、評価の結論には不確実性が伴う。

消費生植物からの入り込みの可能性の評価の結論

消費生植物を経路とした場合のLsoの入り込みの可能性の評価の結論を「無視できる」と結論付けた。

4. Lsoの病害虫リスク評価の結論

Lsoは検疫有害植物であり、栽植用植物及び栽植用球根類を経路として入り込み、農業生産等へ影響を及ぼす可能性があるとして評価した。

農業生産等への影響評価の結論 (病害虫固有のリスク)	入り込みの可能性の評価		病害虫リスク評価の結論
	用途	結論	
高い	ア 栽植用植物	高い	高い
	イ 栽植用球根類 (バレイショ塊茎)	高い	高い
	ウ 消費用生植物	無視できる	無視できる

Lso の発生国等の根拠

国又は地域	ステータス	根拠文献	備考
中東			
イスラエル	発生	EPPO, 2017c; Mawassi et al., 2018;	
トルコ	発生	Karahan et al., 2022	
欧州			
イタリア	発生	Catara, et al., 2017	
英国	発生	EPPO, 2021; Monger and Jeffries, 2016; Sumner-Kalkun et al., 2020	
エストニア	発生	EPPO, 2018b	
オーストリア	発生	EPPO, 2021; Lethmayer and Gottsberger, 2020	
ギリシャ	発生	Holeva et al., 2017	
スウェーデン	発生	Bertolini et al., 2015; CABI, 2014a; EPPO, 2012g, h, 2013a, b; FERA, 2014; Munyaneza et al., 2014b	
スペイン	発生	Bertolini et al., 2015; CABI, 2014a; EPPO, 2012c, h, 2013a, b; FERA, 2014	
セルビア	発生	Trkulja et al., 2021	
ドイツ	発生	Munyaneza et al., 2015	
ノルウェー	発生	Bertolini et al., 2015; CABI, 2014a; EPPO, 2012f, h, 2013a, b; FERA, 2014; Munyaneza et al., 2014b	
フィンランド	発生	Bertolini et al., 2015; CABI, 2014a; EPPO, 2012d, h, 2013a, b, 2019c, d; FERA, 2014; Haapalainen et al., 2018; Haapalainen et al., 2020; Munyaneza et al., 2012, 2014b; Nelson et al., 2011	
フランス	発生	Bertolini et al., 2015; CABI, 2014a; EPPO, 2012e, 2013a; FERA, 2014; Hajri et al., 2017; Loiseau et al., 2014	
ベルギー	一部発生	EPPO, 2018a, 2019b	
ポルトガル	一部発生	Direção Regional de Agricultura, 2018; EPPO, 2018c, 2019b	
アフリカ			
カナリア諸島	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2012c, 2013a, b; FERA, 2014; Munyaneza et al., 2014b	
チュニジア	発生	Ben Othmen et al., 2018a, b; EPPO, 2019a, b	
モロッコ	発生	Tahzima et al., 2014	
北米			
アメリカ合衆国	発生	Bertolini et al., 2015; CABI, 2014a; EPPO, 2013b; Liefing et al., 2009b; Mauck et al., 2019; Munyaneza et al., 2012, 2014b; Sengoda et al., 2014	
アイダホ	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2012a, 2013a; FERA, 2014	

アリゾナ	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2012h, 2013a; FERA, 2014	
オレゴン	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2012a, h, 2013a; FERA, 2014; Murphy et al., 2014	
カリフォルニア	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2012h, 2013a; FERA, 2014	
カンザス	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2012h, 2013a; FERA, 2014	
コロラド	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2012h, 2013a; FERA, 2014	
テキサス	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2012h, 2013a; FERA, 2014	
ニューメキシコ	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2012h, 2013a; FERA, 2014	
ネバダ	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2012h, 2013a; FERA, 2014	
ネブラスカ	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2012h, 2013a; FERA, 2014	
モンタナ	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2013a; FERA, 2014	
ワイオミング	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2012h, 2013a; FERA, 2014	
ワシントン	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2012a, h, 2013a; FERA, 2014	
中南米			
エクアドル	発生	Caicedo et al., 2020a, 2020b	
エルサルバドル	発生	Bextine et al., 2013; CABI, 2014a; EPPO, 2014b; FERA, 2014	
グアテマラ	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2012h, 2013a; FERA, 2014	
ニカラグア	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2013a, 2013c, 2014a; FERA, 2014	
ホンジュラス	発生	CABI, 2014a; EPPO, 2012b, h, 2013a, 2014a; FERA, 2014; Munyaneza et al., 2014a	
メキシコ	発生	Bertolini et al., 2015; CABI, 2014a, b; EPPO, 2012h, 2013a; Munyaneza et al., 2012, 2014b; FERA, 2014; Liefing et al., 2009b	
大洋州			
ニュージーランド	発生	Bertolini et al., 2015; CABI, 2014a; EPPO, 2012h, 2013a, b; FERA, 2014; Munyaneza et al., 2012, 2014b; Nelson et al., 2011; Liefing et al., 2009b	
ノーフォーク島	発生	EPPO, 2019b; Thoma et al., 2018	

Lso の宿主植物の根拠

科名	学名	シノニム	和名		英名	根拠文献	備考
			属名	種名			
アカザ科 (Chenopodiaceae)	<i>Chenopodium album</i>		アカザ属	シロザ		Sumner-Kalkun et al., 2020	
アカネ科 (Rubiaceae)	<i>Galium sp.</i>		ヤエムグラ属			Sumner-Kalkun et al., 2020	
イラクサ科 (Urticaceae)	<i>Urtica dioica</i>		イラクサ属	ウルチカ・デ イオイカ (セ イヨウイラク サ)		Sumner-Kalkun et al., 2020	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Aegopodium podagraria</i>		エゾボウフウ属	エゴポディウ ム・ポダグラ リア (イワミ ツバ)		Sumner-Kalkun et al., 2020	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Anthriscus cerefolium</i>		シャク属	チャービル	chervil	Hajri et al., 2017	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Anthriscus sylvestris</i>		シャク属	シャク		Sumner-Kalkun et al., 2020	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Apium graveolens</i>		オランダミツバ属	セロリー	celery	Bertolini et al., 2015; EPPO, 2012h, 2013a; FERA, 2014; Hajri et al., 2017; Lethmayer and Gottsberger, 2020; Munyaneza et al., 2014b	

セリ科 (Umbelliferae)	<i>Daucus carota</i>		ニンジン 属	ニンジン	carrot	Bertolini et al., 2015; CABI, 2014a; EPPO, 2012c, d, e, f, g, h, 2013a, b; FERA, 2014; Haapalainen et al., 2020; Hajri et al., 2017; Lethmayer and Gottsberger, 2020; Loiseau et al., 2014; Munyaneza et al., 2014b; Murphy et al., 2014; Nelson et al., 2011; Tahzima et al., 2014	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Heracleum sphondylium</i>		ハナウド 属	ヘラクレウム ・スフォンデ ィリウム		Lethmayer and Gottsberger, 2020	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Pastinaca sativa</i>		アメリカ ボウフウ 属	アメリカボウ フウ	parsnip	Hajri et al., 2017; Lethmayer and Gottsberger, 2020; SASA, 2014	Hajri et al. (2017)によると、ほ場から採取したアメリカボウフウの植物体の5サンプルの検定の結果、4サンプルが陽性を示した。しかし、植物体に症状は示されなかった。
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Petroselinum crispum</i>	<i>P. hortense</i> , <i>P. sativum</i>	オランダ ゼリ属	オランダゼリ	parsley	Hajri et al., 2017; Lethmayer and Gottsberger, 2020; Monger and Jeffries, 2016	Hajri et al. (2017)によると、ほ場から採取したオランダゼリの植物体の5サンプルのリアルタイムPCRによ

							る検定の結果、4サンプルが陽性を示し、植物体に症状が示されていた。
タデ科 (Polygonaceae)	<i>Fallopia convolvulus</i>		ソバカズラ属	ファロピア・コンウォルウルス (ソバカズラ)		Haapalainen et al., 2020	
タデ科 (Polygonaceae)	<i>Persicaria lapathifolia</i>	<i>Polygonum lapathifolium</i>	イヌタデ属	オオイヌタデ		Haapalainen et al., 2020	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Capsicum annuum</i>		トウガラシ属	トウガラシ	chili pepper, sweet pepper	CABI, 2014a; CABI, 2014b; EPPO, 2012h, 2013a; FERA, 2014; Munyaneza et al., 2014a	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Capsicum frutescens</i>		トウガラシ属	キダチトウガラシ		EPPO, 2012h	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Lycium barbarum</i>		クコ属	ナガバクコ		EPPO, 2012h	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Lycopersicon esculentum</i>	<i>Solanum lycopersicum</i>	トマト属	トマト	tomato	Bextine et al., 2013; CABI, 2014a, b; EPPO, 2012h, 2013a, b, 2014b; FERA, 2014; Sengoda et al., 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Nicotiana tabacum</i>		タバコ属	タバコ	tobacco	CABI, 2014a; EPPO, 2013a, 2014a; FERA, 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Physalis ixocarpa</i>		ホオズキ属	オオブドウホオズキ	tomatillo	FERA, 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Physalis peruviana</i>		ホオズキ属	シマホオズキ	cape gooseberry	Caicedo et al., 2020b; EPPO, 2013a; FERA, 2014	

ナス科 (Solanaceae)	<i>Cyphomandra betacea</i>	<i>Pionandra betacea, Solanum betaceum, S. insigne</i>	キフォマ ンドラ属	コダチトマト	tamarillo	Caicedo et al., 2020b; EPPO, 2012h, 2013a	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Solanum dulcamara</i>		ナス属	ソラヌム・ド ウルカマラ		Tahzima et al., 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Solanum elaeagnifolium</i>		ナス属	ソラヌム・エ ラエアグニフ オリウム (ラ シャナス)		EPPO, 2012h	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Solanum melongena</i>		ナス属	ナス	eggplant	CABI, 2014a; EPPO, 2013a; FERA, 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Solanum tuberosum</i>		ナス属	バレイショ	potato	CABI, 2014a; CABI, 2014b; Caicedo et al., 2020a; EPPO, 2012a, b, h, 2013a, b, c; FERA, 2014; Munyaneza et al., 2014b; Nelson et al., 2011; Sengoda et al., 2014; Swisher Grimm and Garczynski, 2019	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Solanum umbelliferum</i>		ナス属	ソラヌム・ウ ンベリフェル ム		Mauck et al., 2019	

以下の植物については、宿主植物としての根拠が不明のため、継続調査とする。

科名	学名	シノニム	和名		英名	根拠文献	備考
			属名	種名			
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Foeniculum vulgare</i>		ウイキョウ 属	ウイキョウ	fennel	Hajri et al., 2017	Hajri et al. (2017) は、ほ場から採取した植物体5サンプル検定の結果、1サンプルが陽性を示したが、Lso と関連のある症状は示していなかった。検定の供試サンプル数が少なく、これ以外の情報がないため、継続的に調査を実施していくこととする。
ナス科 (Solanaceae)	ナス科雑草				several weeds in the family Solanaceae	EPPO, 2013a; FERA, 2014	種が特定できない。

**Lso の宿主植物に関連する経路の年間輸入検査量
(発生国からの貨物、郵便物及び携帯品)**

(1) 栽植用植物

実績なし

(2) 栽植用球根類

実績なし

日本に分布するキジラミ類

	学名	科名	和名	寄主植物	分布	根拠文献	備考
1	<i>Bactericera calcarata</i> (Schaefer, 1949)	トガリキジラミ科	-	ヨモギ属 (ニガヨモギなど)	日本 (北海道、本州)、大韓民国、モンゴル、イタリア、オーストリア、スイス、スロバキア、モンテネグロ、ロシア、コーカサス地方	Ouvrard, 2014	
2	<i>Bactericera curvatinervis</i> (Förster, 1848)	トガリキジラミ科	-	ヤナギ属	日本 (本州)、欧州 (アイルランド、英国、グルジア、スウェーデン、スロベニア、ノルウェー、ハンガリー、レバノン、ロシア、コーカサス地方)	Ouvrard, 2014; Sasaki, 1954	
3	<i>Bactericera distinctissima</i> Kwon & Lee, 1981	トガリキジラミ科	-	シダレヤナギ	日本、大韓民国	Ouvrard, 2014	
4	<i>Bactericera nigriceps</i> (Kuwayama, 1910)	トガリキジラミ科	クロツトガリキジラミ	不明	日本 (本州)	平嶋ら, 1989; Sasaki, 1954	
5	<i>Bactericera petiolate</i> (Loginova, 1960)	トガリキジラミ科	-	ナス科クコ属 (<i>Lycium depressum</i>)	日本、中華人民共和国、モンゴル、イエメン、イラン、アルメニア、カザフスタン、キルギス、トルクメニスタン	Ouvrard, 2014	
6	<i>Bactericera salicivora</i>	トガリキジラミ科	ヤナギトガリキジラミ	イヌコリヤナギ、ヤナギ、シダレヤナギ	日本 (北海道、本州、四国、九州)、欧州	平嶋ら, 1989; 宮武, 1988; 日本応用動物	

	(Reuter, 1876)					昆虫学会編, 2006; Sasaki, 1954	
7	<i>Bactericera striola</i> (Flor, 1861)	トガリキジラミ科	-	ヤナギ属	日本、モンゴル、イラン、イタリア、エストニア、オーストリア、スイス、スウェーデン、スロバキア、スロベニア、チェコ、ノルウェー、ハンガリー、フランス、ブルガリア、ポーランド、ラトビア、ロシア	Ouvrard, 2014; Sasaki, 1954	
8	<i>Bactericera</i> sp.	トガリキジラミ科	ヤナギトガリキジラミ属の一種	ヤマウコギ	鳥取県大山山麓、島根県雲南時大東町	林・門脇, 2012	
9	<i>Trioza alacris</i> (Foerster, 1848)	トガリキジラミ科	ゲッケイジュトガリキジラミ	ゲッケイジュ	日本（本州）、欧州	宮武ら, 2014	
10	<i>Trioza amamosimensis</i>	トガリキジラミ科	アマミトガリキジラミ	ハイノキ科	奄美大島、琉球列島	松本, 1994; Miyatake, 1965; Sasaki, 1954	
11	<i>Trioza berchemiae</i> (Shinji, 1938)	トガリキジラミ科	クマヤナギトガリキジラミ	クマヤナギ	日本（本州）	平嶋ら, 1989; 宮武ら, 2014; Sasaki, 1954	
12	<i>Trioza brevifrons</i> (Kuwayama, 1910)	トガリキジラミ科	エノキトガリキジラミ	エノキ	日本（本州、四国、九州）、大韓民国、台湾	平嶋ら, 1989; 宮武ら, 2014; Ouvrard, 2014	
13	<i>Trioza camphorae</i> (Sasaki, 1910)	トガリキジラミ科	クストガリキジラミ 英名 : camphor sucker	クスノキ	日本（本州、四国、九州）、台湾、中華人民共和国	平嶋ら, 1989; 平嶋・森本, 2008; 宮武ら, 2014; 日本応用動物昆虫学会編, 2006; Sasaki, 1954; 奥野ら, 1977	

14	<i>Trioza chenopodii</i> Reuter, 1848	トガリキジラミ科	アカザトガリキ ジラミ	シロザ、アカザ属、 ハマアカザ属、ハリ ミオネ属、フダンソ ウ属、ホウレンソウ 属	日本（本州、四国、九州）、 欧州、旧北区	平嶋ら, 1989; 宮武 ら, 2014; Ouvrard, 2014; Sasaki, 1954	
15	<i>Trioza cinnamomi</i> (Boselli, 1930)	トガリキジラミ科	ニッケイトガリ キジラミ	ニッケイ、ヤブニッ ケイ	本州、四国、九州、沖縄、奄 美大島、伊豆八丈島、西表 島、種子島、対馬、台湾	平嶋ら, 1989; 平嶋 ・森本, 2008; Miyatake, 1965; 宮 武ら, 2014; 奥野ら, 1977; 齋藤・チッ テンデン, 2006	
16	<i>Trioza divisa</i> Crawford, 1917	トガリキジラミ科	-	ツゲモチ	石垣島、西表島、フィリピン	Miyatake, 1965	
17	<i>Trioza esakii</i> (Miyatake, 1975)	トガリキジラミ科	クロバイトガリ キジラミ	クロバイ	日本（本州、九州）、西表 島、南西諸島	平嶋ら, 1989; 宮武 ら, 2014; Ouvrard, 2014	
18	<i>Trioza euphorbiae</i> (Shinji, 1942)	トガリキジラミ科	タカトウダイト ガリキジラミ	タカトウダイ	本州、東京都府中市	平嶋ら, 1989; 宮武 ら, 2014; Sasaki, 1954	
19	<i>Trioza formosana</i> (Kuwayama, 1910)	トガリキジラミ科	タイワントガリ キジラミ	モチノキ属（クロガ ネモチ・モチノキ、 印旛地域で発生報告 あり）、オオシイバ モチ、ツゲモチ（石 垣島、西表島）	日本（本州～琉球列島）、印 旛地域（千葉県）、石垣島、 西表島、台湾	Miyatake, 1965; 宮 武ら, 2014; 富里市, 2009	
20	<i>Trioza galii</i> (Foerster, 1848)	トガリキジラミ科	コトガリキジラ ミ	ブタクサ、アカネ 属、 <i>Scherardia</i> 属、 ヤエムグラ属など	日本（北海道、本州、四 国）、旧北区	平嶋ら, 1989; 宮武 ら, 2014; Ouvrard, 2014; Sasaki, 1954	
21	<i>Trioza horii</i>	トガリキジラミ科	コハクウンボク	コハクウンボク	日本（本州、四国）、三重	Miyatake, 1991; 宮	

	(Miyatake, 1987)		トガリキジラミ			武ら, 2014	
22	<i>Trioza insulicola</i> (Matsumoto, 1995)	トガリキジラミ科	スダジイトガリ キジラミ	スダジイ	奄美群島	宮武ら, 2014	
23	<i>Trioza kasugaensis</i> (Miyatake, 1975)	トガリキジラミ科	シロバイトガリ キジラミ	シロバイ	本州、奈良 (春日山)	平嶋ら, 1989; 宮武 ら, 2014	
24	<i>Trioza kuwayamai</i> (Enderlein, 1914)	トガリキジラミ科	アカテツトガリ キジラミ	アカテツ	沖縄、奄美大島、西表島、台 湾	平嶋ら, 1989; Miyatake, 1965; 宮 武ら, 2014; Ouvrard, 2014	
25	<i>Trioza machilicola</i> (Miyatake, 1968)	トガリキジラミ科	タブトガリキジ ラミ	タブノキ、ホソバタ ブ	日本 (本州、四国、九州)、 福岡	Miyatake, 1968; 宮 武ら, 2014; Ouvrard, 2014	
26	<i>Trioza magna</i> (Kuwayama, 1910)	トガリキジラミ科	ミドリトガリキ ジラミ	タンナサワフタギ	日本 (本州、四国、九州)、 フィリピン	宮武ら, 2014; Ouvrard, 2014; Sasaki, 1954	
27	<i>Trioza malloticola</i> (Crawford, 1928) (<i>MegaTrioza malloticola</i> Crawford, 1929)	トガリキジラミ科	クスノハガシワ トガリキジラミ	クスノハガシワ、ア カメガシワ	沖縄、琉球列島、インド、ス マトラ、台湾	平嶋ら, 1989; 宮武 ら, 2014; Ouvrard, 2014	
28	<i>Trioza munda</i> (Foerster, 1848)	トガリキジラミ科	マツムシソウト ガリキジラミ	キジムシロ属、 <i>Succisa</i> 属、 <i>Knautia</i> 属、マツムシソウ属	日本 (北海道、本州)、モン ゴル、欧州	平嶋ら, 1989; 宮武 ら, 2014; Ouvrard, 2014; Sasaki, 1954	
29	<i>Trioza neolitseae</i> Miyatake, 1965	トガリキジラミ科	イヌガシトガリ キジラミ	イヌガシ、クスノハ ガシワ	沖縄、台湾	Miyatake, 1965; Ouvrard, 2014	
30	<i>Trioza nigra</i> (Kuwayama, 1910)	トガリキジラミ科	クロトガリキジ ラミ	主にエゴノキ、高標 高地の場合はタンナ サワフタギ	日本 (北海道、本州、四国、 九州、沖縄)、奄美大島、石 垣島、伊豆八丈島、西表島、	平嶋ら, 1989; 平嶋 ・森本, 2008; 松本, 1995; Miyatake,	

					沖永部島、台湾、朝鮮半島	1965; 宮武ら, 2014; Sasaki, 1954	
31	<i>Trioza okinawae</i> Matsumoto, 1999	トガリキジラミ科	ホルトノキトガ リキジラミ	ホルトノキ	沖縄、琉球列島	Matsumoto, 1999; 宮武ら, 2014; Ouvrard, 2014	
32	<i>Trioza pentaspina</i> (Matsumoto, 1995)	トガリキジラミ科	ケブカトガリキ ジラミ	フトモモ	琉球列島	宮武ら, 2014	
33	<i>Trioza quercicola</i> (Shinji, 1952)	トガリキジラミ科	クリトガリキジ ラミ 英名 : quercus sucker	アベマキ、クヌギ、 クリ、コナラ、落葉 カシ類	日本 (本州、四国、九州)	平嶋ら, 1989; 平嶋・ 森本, 2008; 宮武ら, 2014; 日本応用動物 昆虫学会編, 2006; Sasaki, 1954	
34	<i>Trioza remota</i> (Foster, 1848)	トガリキジラミ科	カシトガリキジ ラミ 英名 : oak sucker	アラカシ、カシ類、 常緑カシ類	日本 (本州、四国、九州) 、 欧州	宮武ら, 2014; 宗林, 1959; 宗林, 1959; 宗林, 1959; 奥野ら, 1977; Sasaki, 1954; 梅谷・岡田, 2003	
35	<i>Trioza silvestris</i> (Matsumoto, 1995)	トガリキジラミ科	アマミカシトガ リキジラミ	オキナワウラジロガ シ	奄美群島	宮武ら, 2014	
36	<i>Trioza swezeyi</i> (Crawford, 1927)	トガリキジラミ科	コクタントガリ キジラミ	ヤエヤマコクタン	小笠原諸島、琉球列島、太平 洋	宮武ら, 2014	
37	<i>Trioza temstroemiae</i> (Matsumoto, 1993)	トガリキジラミ科	モッコクトガリ キジラミ 英名 : temstroemia sucker	モッコク	本州、琉球列島、東京、千 葉、神奈川、沖縄	Matsumoto, 1993; 宮武ら, 2014; 日本 応用動物昆虫学会編, 2006	
38	<i>Trioza ukogi</i> (Shinji, 1940)	トガリキジラミ科	ウコギトガリキ ジラミ	ウコギ、ヤマウコギ	本州、岩手、大韓民国	宮武ら, 2014; Ouvrard, 2014;	

						Sasaki, 1954; Shinji, 1940	
39	<i>Trioza urticae</i> (Linné, 1758)	トガリキジラミ科	-	ブタクサ、イラクサ 属、トウヒ属、ブナ 属	アジア（日本を含む。）、中 東、欧州、北アフリカ	Ouvrard, 2014	
40	<i>Trioza usubai</i> (Matsumoto, 1996)	トガリキジラミ科	ムクノキトガリ キジラミ	ムクノキ	日本（本州、四国、九州）、 千葉	Matsumoto, 1996; 宮武ら, 2014	
41	<i>Trioza yakusimesis</i> (Kuwayama, 1943)	トガリキジラミ科	ヤクトガリキジ ラミ	不明	屋久島	平嶋ら, 1989; Kuwayama, 1943; 宮武ら, 2014; Sasaki, 1954	
42	<i>Trioza</i> sp.	トガリキジラミ科	-	ブナ科	奄美大島	松本, 1994	
43	<i>Trioza</i> sp.	トガリキジラミ科	-	サガリバナ	奄美大島	松本, 1994	
44	<i>Trioza</i> sp.	トガリキジラミ科	シラカシトガリ キジラミ	シラカシ	日本（本州）	宮武ら, 2014	
45	<i>Trioza</i> sp.	トガリキジラミ科	ウラジログシト ガリキジラミ	ウラジログシ	日本（本州）	宮武ら, 2014	
46	<i>Accizia jamatonica</i> (Kuwayama, 1908)	キジラミ科	ヤマトキジラミ	ネムノキ	日本（北海道、本州、四国、 九州）、対馬、中華人民共和 国、朝鮮半島	平嶋ら, 1989; 平嶋 ・森本, 2008; 日本 応用動物昆虫学会編, 2006	
47	<i>Accizia sasakii</i> (Miyatake, 1963)	キジラミ科	ネムノヒゲナガ キジラミ	ネムノキ	日本（本州、四国）	平嶋ら, 1989	

引用文献

- APQA (2023) Animal and Plant Quarantine Agency: Plant import prohibition list. (online), available from <https://www.qia.go.kr/plant/imQua/plant_no_imp.jsp>, (accessed 2025-09-30).
- Australian Government (2017) Final pest risk analysis for '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' associated with apiaceous crops. (online), available from <<http://www.agriculture.gov.au/biosecurity/risk-analysis/plant/candidatus-liberibacter-solanacearum/final-report>>, (accessed 2022-11-17).
- Ben Othmen, S., F. E. Morán, I. Navarro, S. Barbé, C. Martínez, E. Marco-Noales and M. M. López (2018a) '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' haplotypes D and E in carrot plants and seeds in Tunisia. *Journal of Plant Pathology* 100: 197-207.
- Ben Othmen, S., K. Abbes, M. El Imem, D. Ouvrard, C. Rapisarda and B. Chermiti (2018b) *Bactericera trigonica* and *B. nigricornis* (Hemiptera: Psylloidea) in Tunisia as potential vectors of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on Apiaceae. *Oriental Insects* 53: 497-509.
- Bertolini, E., G. R. Teresani, M. Loiseau, F. A. O. Tanaka, S. Barbé, C. Martínez, P. Gentit, M. M. López and M. Cambra (2015) Transmission of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in carrot seeds. *Plant Pathology* 64: 276-285.
- Bextine, B., E. Aguilar, A. Rueda, O. Caceres, V. G. Sengoda, K. F. McCue and J. E. Munyaneza (2013) First report of "*Candidatus Liberibacter solanacearum*" on tomato in El Salvador. *Plant Disease* 97: 1245.
- Brown, J. K., M. Rehman, D. Rogan, R. R. Martin and A. M. Idris (2010) First report of "*Candidatus Liberibacter psyllauros*" (syn. "*Ca. L. solanacearum*") associated with the 'tomato vein-greening' and 'tomato psyllid yellows' diseases in commercial greenhouse in Arizona. *Plant Disease* 94: 376.
- CABI (2014a) *Candidatus Liberibacter solanacearum*. Crop Protection Compendium. (online), available from <<http://www.cabi.org/cpc/>>, (accessed 2014-08-25).
- CABI (2014b) *Bactericera cockerelli*. Crop Protection Compendium. (online), available from <<http://www.cabi.org/cpc/>>, (accessed 2014-08-25).
- CABI (2014c) *Trioza apicalis*. Crop Protection Compendium. (online), available from <<http://www.cabi.org/cpc/>>, (accessed 2014-08-25).
- CABI (2022) *Candidatus Liberibacter solanacearum*. Crop Protection Compendium. (online), available from <<http://www.cabi.org/cpc/>>, (accessed 2022-11-28).
- Caicedo, J. D., L. L. Simbaña, D. A. Calderón, K. P. Lalangui and L. I. Rivera-Vargas (2020a) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in Ecuador and in South America. *Australasian Plant Disease Notes* 15: 6.
- Caicedo, J., M. Vallejo, L. Simbaña and L. I. Rivera (2020b) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' causing leaf discoloration and wilting in tamarillo and cape gooseberry in Ecuador. *New Disease Reports* 41: 30.
- Catara, V., G. Licciardello, M. Linguaglossa, F. Salonia, C. Rapisarda, R. La Rosa and G. E. Cocuzza Massimino (2017) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in carrot in Italy. *Phytopathologia Mediterranea* 56: 296.
- Direção Regional de Agricultura (2018) Detecção de *Candidatus Liberibacter solanacearum* (CLsol) em cenoura, em Portugal.
- EAEU (2022) Единые карантинные фитосанитарные требования, предъявляемые к подкарантинной продукции и подкарантинным объектам на таможенной границе

и на таможенной территории Евразийского экономического союза (Unified phytosanitary quarantine requirements to quarantinable products and quarantinable items at the customs border and customs territory of the Eurasian economic union). (online), available from

<<http://www.eurasiancommission.org/ru/act/tehnreg/depsanmer/regulation/Pages/%d0%a4%d0%b8%d1%82%d0%be%d1%81%d0%b0%d0%bd%d0%b8%d1%82%d0%b0%d1%80%d0%bd%d1%8b%d0%b5-%d0%bc%d0%b5%d1%80%d1%8b.aspx>>, (accessed 2022-10-12).

- EPPO (2012a) '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' detected on potatoes in Idaho, Oregon and Washington (US). EPPO Reporting Service 6: 2.
- EPPO (2012b) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in Honduras. EPPO Reporting Service 6: 2.
- EPPO (2012c) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on carrots and celery in Spain, in association with *Bactericera trigonica*. EPPO Reporting Service 6: 4-5.
- EPPO (2012d) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on carrots in Finland, in association with *Trioza apicalis*. EPPO Reporting Service 6: 3.
- EPPO (2012e) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on carrots in France, in association with *Trioza apicalis*. EPPO Reporting Service 10: 9.
- EPPO (2012f) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on carrots in Norway, in association with *Trioza apicalis*. EPPO Reporting Service 6: 4.
- EPPO (2012g) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on carrots in Sweden, in association with *Trioza apicalis*. EPPO Reporting Service 6: 3.
- EPPO (2012h) Report of a Pest Risk Analysis for *Candidatus Liberibacter solanacearum* in Solanaceae and its vector *Bactericera cockerelli*. European and Mediterranean Plant Protection Organization 12-18190: 11 pp.
- EPPO (2013a) '*Candidatus Liberibacter solanacearum*'. EPPO Bulletin 43: 197-201.
- EPPO (2013b) A new haplotype of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' identified in Spain. EPPO Reporting Service 2: 8.
- EPPO (2013c) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' and *Bactericera cockerelli* on potatoes in Nicaragua. EPPO Reporting Service 1: 2.
- EPPO (2014a) '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' found on tobacco (*Nicotiana tabacum*) in Honduras and Nicaragua. EPPO Reporting Service 2: 7.
- EPPO (2014b) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in El Salvador. EPPO Reporting Service 2: 7.
- EPPO (2017a) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in Greece. EPPO Reporting Service (2017/198).
- EPPO (2017b) PM 9/25 (1) *Bactericera cockerelli* and '*Candidatus Liberibacter solanacearum*'. Bulletin OEPP/EPPO Bulletin 47: 513-523.
- EPPO (2017c) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on carrots in Israel. EPPO Reporting Service (2017/020).
- EPPO (2018a) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on carrot crops in Belgium. EPPO Reporting Service (2018/034).
- EPPO (2018b) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on carrot crops in Estonia. EPPO Reporting Service (2018/035).
- EPPO (2018c) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in Portugal. EPPO Reporting Service (2018/008).

- EPPO (2019a) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' and its vectors *Bactericera trigonica* and *B. nigricornis* in Tunisia. EPPO Reporting Service (2019/020).
- EPPO (2019b) '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' EPPO Global Database (online), available from <<https://gd.eppo.int/taxon/LIBEPS/>>, (accessed 2019-11-25).
- EPPO (2019c) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' haplotype C in a symptomless potato plant in Finland. EPPO Reporting Service (2019/021).
- EPPO (2019d) New data on quarantine pests and pests of the EPPO Alert List (A new haplotype of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' (haplotype U)). EPPO Reporting Service (2019/027).
- EPPO (2021) '*Candidatus Liberibacter solanacearum*'. EPPO Global Database. (online), available from <<https://gd.eppo.int/taxon/LIBEPS/>>, (accessed 2021-05-06).
- EU (2025) COMMISSION IMPLEMENTING REGULATION (EU) 2019/2072. (online), available from <<https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/?uri=CELEX%3A02019R2072-20250723>>, (accessed 2025-09-25).
- Fathi, S. A. A. (2011) Population density and life-history parameters of the psyllid *Bactericera nigricornis* (Förster) on four commercial cultivars of potato. Crop Protection 30: 844-848.
- FERA (2014) Rapid pest risk analysis for *Candidatus Liberibacter solanacearum*. The Food and Environment Research Agency.
- Fujikawa, T., K. Yamamura, K. Osaki, N. Onozuka, M. Taguchi, A. Sasaki and M. Sato (2020) Seed transmission of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' is unlikely in carrot. Journal of General Plant Pathology 86: 266-273.
- Haapalainen, M., J. Wang, S. Latvala, M. T. Lehtonen, M. Pirhonen and A. I. Nissinen (2018) Genetic variation of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' Haplotype C and identification of a novel haplotype from *Trioza urticae* and stinging nettle. Phytopathology 108: 925-934.
- Haapalainen, M., S. Latvala, A. Wickström, J. Wang, M. Pirhonen and A. I. Nissinen (2020) A novel haplotype of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' found in Apiaceae and Polygonaceae family plants. European Journal of Plant Pathology 156: 413-423.
- Hajri, A., M. Loiseau, P. Cousseau-Suhard, I. Renaudin and P. Gentit (2017) Genetic characterization of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' haplotypes associated with apiaceous crops in France. Plant Disease 101: 1383-1390.
- Halbert, S. and J. E. Munyaneza (2012) Potato psyllids and their associated pathogens: a diagnostic aid. (online), available from <http://www.fsca-dpi.org/Homoptera_Hemiptera/Potato_psyllids_and_associated_pathogens.pdf>, (accessed 2022-11-17).
- Holeva, M. C., P. E. Glynos and C. D. Karafla (2017) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on carrot in Greece. Plant Disease 101: 1819.
- 林成多・門脇久志 (2012) 鳥取県大山山麓と島根県雲南市大東町で確認されたヤマウコギを寄主とするヤナギトガリキジラミ属の一種について (鳥取県大山の昆虫調査). ホシザキグリーン財団研究報告特別号 7: 11-15.
- 平嶋義宏 (監修) ・九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター (編集) (1989) 日本産昆虫総目録. 九州大学農学部昆虫学教室. 福岡. 日本: 767 pp.
- 平嶋義宏・森本桂 (2008) 新訂 原色昆虫大図鑑第 III 巻 (トンボ目・カワゲラ目・バッ

- タ目・カメムシ目・ハエ目・ハチ目他) . 北隆館, 東京, 日本: 654 pp.
- Ilardi, V., E. Di Nicola and M. Tavazza (2016) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in commercial carrot seeds in Italy. *Journal of Plant Pathology* 98: 374.
- IPPC (2017) ISPM 27 Diagnostic protocols for regulated pests DP 21: '*Candidatus Liberibacter solanacearum*'. (online), available from <<http://www.fao.org/3/cb4693en/cb4693en.pdf>>, (accessed 2021-12-17).
- Karahan, A., S. Altundag, M. Saracoglu, K. Duman, I. Ozdemir, A. Ozdem, S. Umar and E. D. Ozden (2022) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on carrot and parsley in Turkey. *New Disease Reports* 45: e12095.
- Kuwayama, S. (1910) Die Psylliden Japans. II. *Transactions of the Sapporo Natural History Society* 3: 53-66.
- Kuwayama, S. (1943) On some species of Psyllidae from Amami-Osima and Yakusima. *Transactions of the Natural History Society of Taiwan* 33: 504-511.
- Láska, P. (2011) Biology of *Trioza apicalis*-a review. *Plant Protection Science* 47: 68-77.
- Legislation. gov. uk. (2025) The Plant Health (Phytosanitary Conditions) (Amendment) (EU Exit) Regulations 2020. (online), available from <<https://www.legislation.gov.uk/ukxi/2020/1527/contents/made>>, (accessed 2025-09-30).
- Lethmayer, C. and R. A. Gottsberger (2020) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in common hogweed (*Heracleum sphondylium*) in Austria. *New Disease Reports* 42: 17.
- Li, W., J.A. Abad, R.D. French-Monar, J. Rascoe, A. Wen, N. C. Gudmestad, G. A. Secor, I-M. Lee, Y. Duan and L. Levy (2009) Multiplex real-time PCR for detection, identification and quantification of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in potato plants with zebra chip. *Journal of Microbiological Methods* 78: 59-65.
- Liefting, L. W., P. W. Sutherland, L. I. Ward, K. L. Paice, B. S. Weir and G. R. G. Clover (2009a) A new '*Candidatus Liberibacter*' species associated with diseases of solanaceous crops. *Plant Disease* 93: 208-214.
- Liefting, L. W., B. S. Weir, S. R. Pennycook and G. R. Clover (2009b) '*Candidatus Liberibacter solanacearum*', associated with plants in the family Solanaceae. *International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology* 59: 2274-2276.
- Loiseau, M., S. Garnier, V. Boirin, M. Merieau, A. Leguay, I. Renaudin, J. P. Renvoisé and P. Gentit (2014) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in carrot in France. *Plant Disease* 98: 839.
- Loiseau, M., I. Renaudin, P. Cousseau-Suhard, F. Poliakoff and P. Gentit (2017a) Transmission tests of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' by carrot seeds. *Acta Horticulturae* 1153: 41-46.
- Loiseau, M., I. Renaudin, P. Cousseau-Suhard, P. M. Lucas, A. Forveille and P. Gentit (2017b) Lack of evidence of vertical transmission of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' by carrot seeds suggests that seed is not a major transmission pathway. *Plant Disease* 101: 2104-2109.
- 松本浩一 (1995) B210 クロトガリキジラミ種群 (半翅目, トガリキジラミ科) に関する分類学的研究. *日本応用動物昆虫学会大会講演要旨*. 39: 46.
<<http://ci.nii.ac.jp/naid/110001087624>>, (accessed 2022-11-17).
- 松本浩一 (1994) G107 奄美群島のトガリキジラミ (*Trioza*) 属 (半翅目, キジラミ上科) .

日本応用動物昆虫学会大会講演要旨 38: 156.

- Matsumoto, K. (1993) A new species of the genus *Trioza* (Homoptera, Psylloidea) feeding on *Ternstroemia gymnanthera* from Japan. Japanese Journal of Entomology 61: 183-186.
- Matsumoto, K. (1996) A new species of the genus *Trioza* (Homoptera, Psylloidea), gall-maker on *Aphananthe aspera* (Ulmaceae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology 2: 39-43.
- Matsumoto, K. (1999) A taxonomic study of the *Trioza maculata* Group, the jumping plant-lice feeding on the plants of *Elaeocarpus*. Entomological Science 2: 439-445.
- Mauck, K. E., P. Sun, V. R. Meduri and A. K. Hansen (2019) New *Ca. Liberibacter psyllaourous* haplotype resurrected from a 49-year-old specimen of *Solanum umbelliferum*: A native host of the psyllid vector. Scientific Reports 9: 9530.
- Mawassi, M., O. Dror, M. Bar-Joseph, A. Piasezky, J. M. Sjölund, N. Levitzky, N. Shoshana, L. Meslenin, S. Haviv, C. Porat, L. Katsir, S. Kontsedalov, M. Ghanim, E. Zelinger-Reichert, Y. M. Arnsdorf, A. Gera and O. Bahar (2018) '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' is tightly associated with carrot yellows symptoms in Israel and transmitted by the prevalent psyllid vector *Bactericera trigonica*. Phytopathology 108: 1056-1066.
- Ministry for Primary Industries of New Zealand (MPI) (2018) Country freedom status. (online), available from <<http://mpi.govt.nz/news-and-resources/resources/registers-and-lists/country-freedom-status/>>, (accessed 2022-11-17).
- Ministry for Primary Industries of New Zealand (MPI) (2025) Import Health Standard: Plants for Planting. (online), available from <<https://www.mpi.govt.nz/dmsdocument/1152-Plants-for-planting-Import-Health-Standard-2025>>, (accessed 2025-10-15).
- Monger, W. A. and C. J. Jeffries (2016) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in parsley (*Petroselinum crispum*) seed. New Disease Reports 34: 31.
- 宮武頼夫 (1988) 農林害虫としてのキジラミ類の見分け方-1- (植物防疫基礎講座). 植物防疫 42: 603-610.
- 宮武頼夫・松本浩一・井上広光 (2014) キジラミ類 (カメムシ目) の絵解き検索. 環境アセスメント動物調査手法 24 (日本環境動物昆虫学会 第 24 回講演会テキスト): 15-59.
- Miyatake, Y. (1965) Notes on Psyllidae from the Ryukyu Islands (Hemiptera: Homoptera). Kontyu 33: 171-189.
- Miyatake, Y. (1968) A new Japanese species of *Trioza* from *Machilus thunbergii*, with descriptions of the immature stages and notes on biology (Hemiptera: Psyllidae). Transactions of the Shikoku Entomological Society 10: 1-10.
- Miyatake, Y. (1991) A new species of *Trioza* from the western Japan. Bulletin of the Osaka Museum of Natural History 45: 17-21.
- Munyaneza, J. E., V. G. Sengoda, J. M. Crosslin, J. Garzon-Tiznado and O. Cardenas-Valenzuela (2009a) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in tomato plants in Mexico. Plant Disease 93: 1076.
- Munyaneza, J. E., V. G. Sengoda, J. M. Crosslin, J. Garzon-Tiznado and O. Cardenas-Valenzuela (2009b) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in pepper in Mexico. Plant Disease 93: 1076.
- Munyaneza, J. E. (2012) Zebra chip disease of potato: biology, epidemiology, and

- management. American Journal of Potato Research 89: 329-350.
- Munyaneza, J. E., K. D. Swisher, M. Hommes, A. Willhauck, H. Buck and R. Meadow (2015) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' associated with psyllid-infested carrots in Germany. Plant Disease 99: 1269.
- Munyaneza, J. E., T. W. Fisher, V. G. Sengoda, S. F. Garczynski, A. Nissinen and A. Lemmetty (2010) Association of "*Candidatus Liberibacter solanacearum*" with the psyllid, *Trioza apicalis* (Hemiptera: Triozidae) in Europe. Journal of Economic Entomology 103: 1060-1070.
- Munyaneza, J. E., V. G. Sengoda, E. Aguilar, B. Bextine and K. F. McCue (2014a) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on pepper in Honduras. Plant Disease 98: 154.
- Munyaneza, J. E., V. G. Sengoda, J. L. Buchman and T. W. Fisher (2012) Effects of temperature on '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' and zebra chip potato disease symptom development. Plant Disease 96: 18-23.
- Munyaneza, J. E., V. G. Sengoda, L. Sundheim and R. Meadow (2014b) Survey of "*Candidatus Liberibacter solanacearum*" in carrot crops affected by the psyllid *Trioza apicalis* (Hemiptera: Triozidae) in Norway. Journal of Plant Pathology 96: 397-402.
- Murphy, A. F., R. A. Cating, A. Goyer, P. B. Hamm and S. I. Rondon (2014) First report of natural infection by '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in bittersweet nightshade (*Solanum dulcamara*) in the Columbia Basin of Eastern Oregon. Plant Disease 98: 1425.
- Nelson, W. R., T. W. Fisher and J. E. Munyaneza (2011) Haplotypes of "*Candidatus Liberibacter solanacearum*" suggest long-standing separation. European Journal of Plant Pathology 130: 5-12.
- 日本応用動物昆虫学会編 (2006) 農林有害動物・昆虫名鑑 増補改訂版. 日本応用動物昆虫学会, 東京, 日本: 387 pp.
- 農林省 (1950) 植物防疫法施行規則 (昭和 25 年農林省令第 73 号) .
- 農林省 (1968) 隔離栽培運用基準 (昭和 43 年 5 月 20 日付け 43 農政 B 第 916 号農政局長通達) .
- NPPO of Switzerland (2025) Ordonnance du DEFR et du DETEC relative à l'ordonnance sur la santé des végétaux. (online), available from <<https://www.fedlex.admin.ch/eli/cc/2019/787/fr>>, (accessed 2025-10-25).
- 大石盛伝・星野智士・藤原裕治・牛久修一・小林慶範・難波一郎 (2017) リアルタイム PCR 法を用いたニンジン種子からの *Candidatus Liberibacter solanacearum* 検出プロトコルの検証, Propidium monoazide 処理の有効性及び種子伝染性調査. 植物防疫所調査研究報告 53: 111-117.
- 奥野孝夫・田中寛・木村裕 (1977) 原色樹木病害虫図鑑. 保育社, 東京, 日本: 365 pp.
- Ouvrard, D. (2014) Psyllid - The World Psylloidea Database. Natural History Museum. (online), available from <<https://data.nhm.ac.uk/dataset/psyl-list/resource/8746ceec-4846-4899-b607-9ba603002033>>, (accessed 2014-08-26).
- Potatoes New Zealand Growing together (2011) Psyllid News. (online), available from <<http://www.potatoesnz.co.nz/users/Image/Downloads/PDFs/Psyllid%20News%20September%202011.pdf>>, (accessed 2022-11-17).
- 齋藤裕・アンソニー R. チッテンデン (2006) ヤブニッケイトガリキジラミのゴール内に寄生するハダニについて. 日本ダニ学会誌 15: 83.
- SASA (2014) Report of Euphresco PHYLIB end of project meeting 1-2nd October 2014 at

- SASA. Science and Advice for Scottish Agriculture (SASA), Edinburgh, UK. (online), available from
<https://www.sasa.gov.uk/sites/default/files/Phylib_End_of_Project_Meeting_Report_Final_version_150811.pdf>, (accessed 2022-11-17).
- Sasaki, K. (1954) A list of the known species and their host-plants of the Psyllidae of Japan Homoptera. The scientific reports of the Matsuyama Agricultural College 14: 29-39.
- SAG (2025) RESOLUCIÓN EXENTA N°: 844/2025, PRORROGA VIGENCIA RESOLUCIÓN N°1.159 DE 2023 QUE RECONOCE CENTRO DE PRODUCCIÓN SKLARCZYK SEED FARM LLC. PARA EL ENVÍO DE MINITUBÉRCULOS DE PAPA (SOLANUM TUBEROSUM) DESDE EL ESTADO DE MICHIGAN DE ESTADOS UNIDOS DE NORTEAMÉRICA A CHILE (online), available from
<<https://www.sag.cl/sites/default/files/Resoluci%C3%B3n%20N%C2%B0844%20de%202025.pdf>>, (accessed 2025-10-15).
- Sengoda, V. G., W. R. Cooper, K. D. Swisher, D. C. Henne and J. E. Munyaneza (2014) Latent period and transmission of “*Candidatus Liberibacter solanacearum*” by the potato psyllid *Bactericera cockerelli* (Hemiptera: Triozidae). PLOS One 9: e93475.
- Shinji, O. (1940) A new species of Japanese Psyllidae (Hemip.). Konchū Sekai [Insect World] 44: 66-67.
- 宗林正人 (1959) カシトガリキジラミの生活史及び幼虫について. 昆虫 27: 181-187.
- SPHDS (2012) Diagnostic protocol for the identification and detection of *Candidatus Liberibacter solanacearum*, the causal agent of zebra chip of potatoes. Subcommittee on Plant Health Diagnostic Standards (SPHDS), Australia: 41 pp.
- Sumner-Kalkun, J. C., F. Highet, Y. M. Arnsdorf, E. Back, M. Carnegie, S. Madden, S. Carboni, W. Billaud, Z. Lawrence and D. Kenyon (2020) ‘*Candidatus Liberibacter solanacearum*’ distribution and diversity in Scotland and the characterisation of novel haplotypes from *Craspedolepta* spp. (Psyllidae: Aphalaridae). Scientific Reports 10: 1-11.
- Swisher Grimm, K. D. and S. F. Garczynski (2019) Identification of a New haplotype of ‘*Candidatus Liberibacter solanacearum*’ in *Solanum tuberosum*. Plant Disease 103: 468-474.
- Tahzima, R., M. Maes, E. H. Achbani, K. D. Swisher, J. E. Munyaneza and K. De Jonghe (2014) First report of ‘*Candidatus Liberibacter solanacearum*’ on carrot in Africa. Plant Disease 98: 1426.
- Tahzima, R., S. Massart, E. H. Achban, J. E. Munyaneza and D. Ouvrard (2017) First report of ‘*Candidatus Liberibacter solanacearum*’ associated with the psyllid *Bactericera trigonica* on carrots in Northern Africa. Plant Disease 101: 242-243.
- Thoma, J. E., A. D. W. Geering and G. Maynard (2018) Detection of “*Candidatus Liberibacter solanacearum*” in tomato on Norfolk Island, Australia. Australasian Plant Disease Notes 13: 7.
- 富里市 (2009) モチノキの葉が黒くなっていませんか? 「タイワントガリキジラミ」が原因です. 富里市農業指導連絡協議会, 富里市植物防疫協会. 千葉県.
- Trkulja, V., P. Mitrovic, J. M. Salapura, R. Iličić, B. Ćurković, I. Djalovic and T. Popović (2021) First report of ‘*Candidatus Liberibacter solanacearum*’ on carrot in Serbia. Plant Disease 105: 1188.
- 梅谷献二・岡田利承編 (2003) 日本農業害虫大事典: Agricultural Insect Pests in Japan. 全

国農村教育協会, 東京, 日本: 1203 pp.

II. *Bactericera cockerelli* (Lso のベクター)

II-1. リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報

1. 学名及び分類

(1) 学名

Bactericera cockerelli (Šulc, 1909)

(2) 英名、和名等 (Bob et al., 2013; CABI, 2014b; EPPO, 2012; FERA, 2014; Munyaneza, 2014; Liefting et al., 2009; Nelson et al., 2011; Potatoes New Zealand Growing together, 2011)

英名 : potato psyllid、tomato psyllid

和名 : ジャガイモトガリキジラミ

(3) 分類 (CABI, 2014b; Halbert and Munyaneza, 2012; Ouvrard, 2014)

種類 : 節足動物

目 : Hemiptera (カメムシ目)

科 : Triozidae (トガリキジラミ科)

属 : *Bactericera*

(4) シノニム

Paratrioza cockerelli (Bob et al., 2013; CABI, 2014b; EPPO, 2012; Munyaneza, 2014; Ouvrard, 2014)

Trioza cockerelli (Bob et al., 2013; CABI, 2014b; Ouvrard, 2014)

(5) 系統等

アメリカ合衆国では、分布の違いによって、四つのハプロタイプに分類される。

北西アメリカ型は、アイダホ州、オハイオ州、オレゴン州、ワシントン州に分布し、2011年に zebra chip の激発を起こしたものだと言われている。

同国中部や中南米に分布する中央アメリカ型並びにアリゾナ州及びカリフォルニア州に分布する西アメリカ型は、春にロッキー山脈とカリフォルニアそれぞれに沿って緩やかに北方へ分散することがある (FERA, 2014; Munyaneza, 2014)。

また、コロラド州やニューメキシコ州に分布する南東型も存在するが、他の型との差異については不明である (Munyaneza, 2014)。

2. 地理的分布

(1) 国又は地域 (詳細は別紙 II-1 参照。下線部は令和 8 (2026) 年 2 月 24 日改訂時に追加。)

北米 : アメリカ合衆国、カナダ

中南米 : エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、コロンビア、ニカラグア、ペルー、ホンジュラス、メキシコ

大洋州 : オーストラリア、ニュージーランド、ノーフォーク島

(2) 生物地理区

本種は、新北区、新熱帯区、オーストラリア区及び南極区の 4 区に分布する。

(3) 本種及び Lso が共に存在する国又は地域

アメリカ合衆国、エクアドル、エルサルバドル^{*}、グアテマラ、ニカラグア、ホンジュラス、メキシコ、ニュージーランド及びノーフォーク島

※ ハプロタイプ不明の Lso が発生しているが (Bextine et al., 2013; EPPO, 2014)、本種がこれを媒介するかどうかは確認されていない。

3. 寄主植物及びその日本国内での分布

(1) 寄主植物 (詳細は別紙Ⅱ-2 参照)

アカザ科: テンサイ (*Beta vulgaris*)

アブラナ科: ハツカダイコン (*Raphanus sativus* var. *sativus*)

イネ科: トウモロコシ (*Zea mays*)

キク科: ヒマワリ (*Helianthus annuus*)、レタス (*Lactuca sativa*)

ナス科: オオセンナリ (*Nicandra physalodes*)、コダチトマト (*Cyphomandra betacea* (= *Pisonandra betacea*, *Solanum betaceum*, *S. insigne*))、シロバナヨウシュチヨウセンアサガオ (*Datura stramonium*)、タバコ (*Nicotiana tabacum*)、トマト

(*Lycopersicon esculentum* (= *Solanum lycopersicum*))、クコ属 (*Lycium* spp.)、トウガラシ属 (*Capsicum* spp.)、ナス属 (*Solanum* spp.)、ホオズキ属 (*Physalis* spp.)

ヒノキ科: ニオイヒバ (*Thuja occidentalis*)

ヒルガオ科: サツマイモ (*Ipomoea batatas*)、セイヨウヒルガオ (*Convolvulus arvensis*)

マメ科: アルファルファ (*Medicago sativa*)、ソラマメ (*Vicia faba*)

他にも 20 科の植物から記録されており、シソ科、ナス科、ヒルガオ科のいくつかでは世代交代を完了させることができる。また、羽化後は様々な植物に移動する (EPPO, 2012; Liefing et al., 2009)。

(2) Lso の宿主植物と共通の本種の寄主植物

ナス科: オオブドウホオズキ、コダチトマト、シマホオズキ、ソラヌム・ウンベリフェルム (*Solanum umbelliferum*)、ソラヌム・エラエアグニフォルウム (ラシャナス)、ソラヌム・ドウルカマラ (*Solanum dulcamara*)、タバコ、トウガラシ、トマト、ナガバクコ、ナス及びバレイショ

(3) 日本国内における寄主植物の分布及び栽培状況

本種の寄主植物であるトマト、ナス及びバレイショは、47 都道府県で栽培されている。

4. 寄生部位及びその症状

本種は、果実、莖葉、花等の地上部に寄生し、塊茎、根等の地下部には寄生しない (Bob et al., 2013; CABI, 2014a; CABI, 2014b; EPPO, 2012)。また、種子も加害しない (EPPO, 2012)。

成虫は、主に葉の表裏面に卵を 1 個ずつ、合計で約 500 個産み付ける (CABI, 2014b; EPPO, 2020)。成虫や幼虫は、葉全体や果実を吸汁し、粘着性の白い排せつ物を多量に排出する (CABI, 2014b)。

本種の加害により寄主植物の様々な部位に影響が現れる。具体的には、果実 (形の異常、サイズの減少)、生長点 (わい化、しおれ)、葉 (変形、黄化、葉巻き、壊死、しおれ、早期落

葉)、茎(黄化、内部の変色、しおれ、てんぐ巣)、根(毛状根)、栄養器官(内部の腐敗、変色、ひび割れ)及び全身(変色、変形、わい化、早期の枯死、枝枯れ、生長不良)などで報告されている。しかし、これらの影響は、本種単独によるものなのか、本種が媒介するLsoによるものか、はっきりしていない(CABI, 2014b; EPPO, 2012)。

5. 移動分散方法

(1) 自然分散

本種は、北米では、季節移動、すなわち成虫が越冬地から季節風や気流を利用し、数百 km の長距離を飛行することが知られている(CABI, 2017; EPPO, 2012)。幼虫はほとんど動かず活発に分散しない(CABI, 2017)。しかし、ニュージーランドでは通常、3日で100 m 程度移動する(Martin, 2016)。

(2) 人為分散

情報なし。

6. 有害動物の大きさ及び生態

(1) 有害動物の大きさ

卵：長さ約0.32~0.34 mm、幅0.13~0.15 mm (CABI, 2014b)

幼虫：5 齢あり、体幅は0.23~1.60 mm (CABI, 2014b)

成虫：全長約2.5~3.0 mm (CABI, 2014b; EPPO, 2012)

(2) 繁殖様式

両性生殖(CABI, 2017)。なお、単為生殖についての情報はない。

(3) 年間世代数

本種は、年間3世代以上発生する(Hodkinson, 2009)。ふ化した幼虫は完全に発育するまではほとんど動かず下方の葉の表面に留まり続ける。幼虫の成育は12~14 日間で温度や寄主植物によって決まる。

性的誘引については、雌の生産する性フェロモンが雄を誘引する。本種は羽化後48 時間で成熟し、雌は羽化した当日、雄は羽化1 日後に成熟する。産卵は通常交尾の2 日後だが、羽化して2 日以内で交尾すると産卵が遅れる。産卵期間は通常10 日で最高50 日間持続する。成虫の寿命は20~60 日で、雌は通常雄より2~3 倍長く生きる。雌は死ぬまでに300~500 個産卵する。

本種の発育最適温度は約27°C で、32°C では産卵、ふ化や生存率が悪化し、35°C で生育できなくなる。温度にもよるが1 世代は3~5 週間で完了する。年間世代数は地域によって変化するが3~7 世代である。産卵が長引くことによって世代が重複した集団内では世代を区別することは難しい(CABI, 2014b)。

好適な条件下では、卵期間が約1 週間、幼虫期間が2~3 週間、成虫期間が約2 週間で、約1 か月で1 世代が完了する。産卵期間は平均21 日で、1 頭当たり36~75 個産卵する。雌は羽化2~3 日後には交尾が可能である(Bob et al., 2013)。越冬成虫の雌は最高189 日間生存し、1,000 個以上産卵することもある(Bob et al., 2013)。

(4) 植物残さ中での生存

情報なし。

(5) 休眠性（越冬性）

本種の成虫、幼虫及び卵は、強い耐寒性をもち越冬可能である（Hodkinson, 2009）。幼虫は -15°C 下でも生存し、成虫も24時間以上 -10°C 下にあっても50%は生存可能である（CABI, 2014b）。成虫は針葉樹の樹皮のすき間で越冬することができる（Bob et al., 2013; FERA, 2014; Hodkinson, 2009）。

アメリカ合衆国に分布する北西型ハプロタイプは、ナス属のソラヌム・ドゥルカマラを越冬場所とし 12.2°C の冬の気温でも生存可能である。また、ハプロタイプは不明であるが、テキサス個体群では 5.1°C の環境下で生存が確認されている（FERA, 2014）。

ニュージーランドでは、 7.1°C の環境下で生存する個体が確認されている（FERA, 2014）。

7. 媒介性又は被媒介性

本種は、Lsoのベクターである（Bob et al., 2013; EPPO, 2012; EPPO, 2013; FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Loeffing et al., 2009; Munyaneza et al., 2009; Munyaneza et al., 2012; Nelson et al., 2011; Sengoda et al., 2014）。Lsoを保毒した本種数頭により、短期間でバレイショほ場にLsoをまん延させることができる。伝搬様式は、増殖・循環型であり経卵伝搬する（Bertolini et al., 2015; CABI, 2014b; FERA, 2014; Hansen et al., 2008; Sengoda et al., 2014）。

本種は、Lsoを吸汁により獲得すると1～3週間消化管の中で一定期間留まり、唾液腺で増殖する。 $24\sim 28^{\circ}\text{C}$ の条件下では、本種におけるLso増殖数は最初の病原の獲得から2週間後にピークを迎える。そして、2週間の潜伏期間後に未感染の宿主植物にLsoを感染させることができるようになる。本種の媒介能力はLsoが唾液腺に定着し、1万回以上増殖することに起因する（Sengoda et al., 2014）。

なお、本種が媒介するLsoにはA・Bの二つのハプロタイプが存在する（Bertolini et al., 2015; CABI, 2014a; EPPO, 2013; FERA, 2014; Nelson et al., 2011; Sengoda et al., 2014）。

Lsoの媒介は5分以内に完了するが、発病を引き起こすには、保毒虫1頭当たり約3～6時間の吸汁が必要となる。バレイショはLsoに感染すると約3週間後にzebra chip症状を発症する（Munyaneza, 2014）。

8. 被害の程度

本種により、果実、葉、茎等の生長不良、黄化、枯死等が報告されているが、これらの症状は本種が媒介するLsoによるものか明確になっていない（CABI, 2014b）。

近年は本種やLsoの急激な発生により、多くの地域でバレイショ、トマト等のナス科植物が大きな経済的損失を被った。本種が媒介するLsoによりzebra chip症状を呈したバレイショは市場に出荷できなくなることから数百万ドルの被害が生じ、アメリカ合衆国のテキサス州では、バレイショ作付面積の35%以上に影響を与える可能性があるかと推定されている（CABI, 2014b; Munyaneza et al., 2009, 2012）。

ニュージーランドでは、本種とLsoがバレイショ生産に1億NZドル以上の被害をもたらした（2008～09年に4,700～5,600万NZドル、次の栽培時期には2,800万NZドル）（Potatoes New Zealand Growing together, 2011）。

9. 防除

本種の管理には一般的に殺虫剤が使用される。キジラミ類に対しては、イミダクロプリドやア

バメクチン剤が成虫の活動を抑制し、Lso の伝搬を大きく抑制することができる (Potatoes New Zealand Growing together, 2011)。しかし、キジラミ類は非常に多産かつ世代間が短いため殺虫剤に対して抵抗性を持つものが現れる。したがって、本種の影響範囲と病害に関連した代替策を検討する必要があり、適切なほ場管理を加えた総合的な対策が求められる (CABI, 2014b)。

10. 日本における輸入検疫措置

本種は、植物防疫法施行規則 (農林省, 1950) 別表 1 に規定された検疫有害動物であり、同施行規則 2 の 2 に規定された国又は地域からの該当する寄主植物の生茎葉及び生果実については、本種を発見するために適切と認められる方法による検査が行われ、かつ、本種に侵されていない旨 (本種について消毒を行った場合は、その旨を含む。) を検査証明書に特記することを要求している。

11. 諸外国における輸入検疫措置

大韓民国は、本種を禁止対象病害虫に指定しており、発生国からのトマト、トウガラシ、パレイショ等の茎葉、地下部及び栽植用植物の輸入を禁止している (APQA, 2023)。

EU は、オーストラリア、ニュージーランド、北米及び中南米産のナス科植物の果実に対し、以下のいずれかの措置をとることを要求している (EU, 2025)。

- ・ ISPM に従って認められた本種の無発生国で生産されたこと
- ・ ISPM に従って設定された本種の無発生地域で生産されたこと
- ・ 輸出前の 3 か月間、栽培地において本種に関する公的な検査と、本種の不在を維持するための効果的な措置が行われ、その旨が植物のトレース情報とともに検査証明書に追記されていること
- ・ 原産国の国家植物防疫機関によって設定された本種の無発生生産用地で栽培され、輸出前の 3 か月間、本種に関して公的に検査され、その旨が植物のトレース情報とともに検査証明書に追記されていること

また、スイスも EU と同様の措置を要求している (NPPO of Switzerland, 2025)。

12. 日本の輸入検査における *Bactericera cockerelli* の発見件数 (2015~2024 年)

植物	国	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
セロリー	メキシコ							1			
ハボタン	米国				2						
コリアンダー	米国	1									
ピーマン	ニュージーランド										2
ロメインレタス	米国	1	2								

単位：件数

II-2. 病害虫リスクアナリシス

第1 開始（ステージ1）

1. 開始

Bactericera cockerelli に対する現行の検疫措置の有効性を検討するため、病害虫リスクアナリシスを実施する。

2. 対象となる有害動植物

Bactericera cockerelli を対象とする。

3. 対象となる経路

リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報の「2. 地理的分布」に示す「国又は地域」からの「3. 寄主植物及びその日本国内での分布」に示す「寄主植物」であって、「4. 寄生部位及びその症状」に示す「寄生部位」を含む植物を対象とする。

4. 対象となる地域

日本全域を対象とする。

5. 開始の結論

本種を開始点とし、その発生地域から輸入される植物を経路とした日本全域を対象とする病害虫リスクアナリシスを開始する。

第2 病害虫リスク評価（ステージ2）

1. 有害動植物の類別

ステージ1で特定された有害動植物について、国内における発生及び公的防除の有無、定着及びまん延の潜在性並びに経済的影響を及ぼす潜在性について調査し、検疫有害動植物となる潜在性を有するかを検討する。なお、以下の（1）～（3）の評価項目を満たしていない場合は、それが判明した時点で評価を中止できるものとする。

（1）有害動植物の国内での発生の有無及び公的防除の有無等

Bactericera cockerelli は国内未発生である。

（2）定着及びまん延の潜在性

本種の寄主植物であるトマト、バレイショ、レタス等は、47 都道府県で栽培されていることから、本種が国内に入り込んだ場合、定着及びまん延するおそれがある。

（3）経済的影響を及ぼす潜在性

本種はLso のベクターであり、本種やLso の急激な発生によって多くの地域でバレイショ、トマト等のナス科植物が大きな経済的損失を被っている。本種が媒介するLso により zebra chip 症状を呈したバレイショは、市場に出荷できず数百万ドルの被害を及ぼし、アメリカ合衆国のテキサス州では、バレイショ作付面積の35%以上に影響を与える可能性があると推定されている。また、ニュージーランドでは、本種とLso がバレイショ生産に1億ドル以上の被害をもたらしたとの情報がある。

したがって、本種は国内未発生であるが、本種が国内に入り込み、定着及びまん延した場合、経済的影響を及ぼすおそれがある。

(4) 評価にあたっての不確実性
特になし。

(5) 有害動植物の類別の結論

本種は国内未発生であるが、本種の寄主植物は47都道府県で栽培される。このことから、本種が国内に入り込んだ場合、定着及びまん延するおそれがある。また、本種はLsoのベクターであり、本種やLsoの急激な発生によって多くの地域でバレイショ、トマト等のナス科植物が大きな経済的損失を被っているとの報告があることから、本種が国内に入り込み、定着及びまん延した場合、国内においても経済的影響を及ぼすことは否定できない。

したがって、本種は検疫有害動植物となる潜在性を有することから、引き続き「2. 農業生産等への影響の評価」で評価を行う。

2. 農業生産等への影響の評価

(1) 定着の可能性の評価

ア リスクアナリシスを実施する地域における潜在的検疫有害動植物の生存の可能性

(ア) 潜在的検疫有害動植物の生存の可能性

本種の寄主植物であるトマト、バレイショ、レタス等は47都道府県で栽培されており、トマト、ナス、レタスは施設栽培含め寄生部位は周年存在する。また、樹皮のすき間で越冬することができる。よって、本種が我が国に入り込んだ場合、生活環の維持が可能であり、国内に定着できると判断した。

(イ) リスクアナリシスを実施する地域における中間宿主の利用可能性

本種は有害動物なので評価しない。

(ウ) 潜在的検疫有害動植物の繁殖戦略

両性生殖。なお、単為生殖についての情報はない。よって、評価基準に基づき2点と評価した。

イ リスクアナリシスを実施する地域における寄主又は寄主植物の利用可能性及び環境の好適性

(ア) 寄主又は宿主植物の利用可能性及び環境の好適性

本種の寄主植物であるトマト、バレイショ、レタス等は47都道府県で栽培されており、本種にとって好適な環境が日本全域に存在することから、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 潜在的検疫有害動植物の寄主又は宿主範囲の広さ

本種は、アカザ科、アブラナ科、イネ科、キク科、ナス科、ヒノキ科、ヒルガオ科及びマメ科の8科の植物に寄生することが知られている。

(ウ) 有害動植物の侵入歴

本種は、新北区、新熱帯区、オーストラリア区及び南極区の4区に分布する。よって、評価基準に基づき4点と評価した。

ウ 定着の可能性の評価結果

評価した項目の評価点の平均から、定着の可能性の評価点は5点満点中の3.7点（小数第二位を四捨五入）となった。

(2) まん延の可能性の評価

ア 自然分散

(ア) 移動距離

通常は、3日で100m程度飛翔するが、北米では、季節移動、すなわち成虫が越冬地から季節風や気流を利用して数百kmの長距離飛翔をすることが知られている。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 年間世代数

発生地域によっては3世代以上を経過することが知られている。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

イ 人為分散

(ア) 農作物を介した分散

本種の寄主植物であるトマト、バレイショ、レタス等は47都道府県で栽培されている。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 非農作物を介した分散

情報なし。

ウ まん延の可能性の評価結果

評価した項目の評価点の平均から、まん延の可能性の評価点は5点満点中の5点となった。

(3) 経済的重要性の評価

ア 直接的影響

(ア) 影響を受ける農作物又は森林資源

Lsoの宿主植物と重複する本種の寄主植物である、バレイショ、トマト等の農産物産出額の合計額は5,148.6億円であることから、評価基準に基づき4点と評価した。

(イ) 生産への影響

本種の寄主植物であるトマト、バレイショ、レタス等は47都道府県で栽培されている。これらの植物は生産農業所得統計の対象であり、発生国では、商品生産に大きな支障を来す経済的被害（商品部位への直接的被害又は1年生作物の高頻度の枯死）が報告されている。よって、評価基準に基づき4点と評価した。

(ウ) 防除の困難さ

公的防除の情報はない。Lsoの効果的な防除方法は、ベクターをほ場に侵入をさせないこと、あるいはベクターがほ場に侵入してしまった場合には薬剤散布である。キジラミ類は葉の裏で見つかるため、植物の成長に合わせた殺虫剤の選択が重要である。また、成虫には効果があっても、幼虫や卵には効果がない場合があるため、数種類の薬剤を態に合わせて使用する等の注意が必要である。

(エ) 直接的影響の評価結果

上記（ア）及び（イ）の評価点の積は16点となり、評価基準に基づき直接的影響の評価点は4点と評価した。

イ 間接的影響

(ア) 農作物の政策上の重要性

本種の寄主植物は「農業保険法」及び「同法施行令」、「野菜生産出荷安定法施行令」

で定める農作物に該当する。よって、評価基準に基づき1点と評価した。

(イ) 輸出への影響

大韓民国は、本種を禁止対象病害虫に指定しており、発生国からのトマト、トウガラシ、バレイショ等の茎葉及び栽植用植物の輸入を禁止している。また、EU及びスイスは、本種の発生国からのナス科植物の果実に対して、栽培地検査等の措置を要求している。よって、評価基準に基づき1点と評価した。

ウ 経済的重要性の評価結果

直接的影響の評価点と間接的影響の評価点の和から、経済的重要性の評価点は5点満点中の5点となった。

(4) 評価における不確実性

特になし。

(5) 農業生産等への影響評価の結果（病害虫固有のリスク）

定着及びまん延の可能性並びに経済的重要性の各項目の評価点の積は91.7点（小数第二位を四捨五入）となり、本種の農業生産等への影響の評価を「高い」と結論付けた。

3. 入り込みの可能性の評価

項目	評価における判断の根拠等		
(1) 寄生部位	本種は幼虫・成虫共に果実、茎葉、花等の地上部に寄生し（外部寄生性）、葉の表面に卵を1個ずつ産み付ける（外部寄生性）。また、成虫が越冬時に針葉樹の樹皮のすき間に入り込むこともある。		
(2) 国内に入り込む可能性のある経路	入り込む可能性のある経路は、〔栽植用植物〕、〔消費用生植物〕及び〔消費用木材（樹皮付き）・樹皮〕が考えられる。		
	用途	部位	経路となる可能性
	ア 栽植用植物	果実、茎葉、針葉樹の樹皮のすき間	○
	イ 消費用生植物	果実、茎葉、針葉樹の樹皮のすき間	○
ウ 消費用木材（樹皮付き）・樹皮	針葉樹の樹皮のすき間	○	
(3) 寄主植物の輸入検査量	別紙Ⅱ－3参照		

(4) 入り込みの可能性の評価

ア 栽植用植物

(ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）

輸送中及び貯蔵中に生存率に影響を与えるような加工は実施されない。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ

本種は外部寄生で、成虫の大きさは全長約2.5～3.0 mm。葉の表面に産み付けられる卵

の大きさは長さ約 0.32~0.34 mm、幅 0.13~0.15 mm。よって、評価基準に基づき 2 点と評価した。

- (ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性
栽植用植物は、栽培施設、ほ場等へ直接持ち込まれる。よって、評価基準に基づき 5 点と評価した。
- (エ) 輸入品目からの自然分散の可能性
栽植用植物は、栽植用として利用されることで入り込みが完了する。よって、評価基準に基づき 5 点と評価した。
- (オ) 評価における不確実性
特になし。

栽植用植物からの入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の評価点の平均値は 4.3 点（小数第二位を四捨五入）であり、栽植用植物を経路とした場合の本種の入り込みの可能性の評価を「高い」と結論付けた。

イ 消費生植物

- (ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）
輸送中及び貯蔵中に生存率に影響を与えるような加工は実施されない。よって、評価基準に基づき 5 点と評価した。
- (イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ
本種は外部寄生で、成虫の大きさは全長約 2.5~3.0 mm。葉の表面に産み付けられる卵の大きさは長さ約 0.32~0.34 mm、幅 0.13~0.15 mm。よって、評価基準に基づき 2 点と評価した。
- (ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性
本種の主要な寄主植物であるレタス、トマト、パレイシヨ等は、47 都道府県で生産されている。よって、評価基準に基づき 4 点と評価した。
- (エ) 輸入品目からの自然分散の可能性
本種の成虫は通常から飛翔により移動し、また、越冬地から季節風や気流を利用し長距離を飛翔することが知られている。よって、評価基準に基づき 3 点と評価した。
- (オ) 評価における不確実性
特になし。

消費生植物からの入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の評価点の平均値は 3.5 点であり、消費生植物を経路とした場合の本種の入り込みの可能性の評価を「中程度」と結論付けた。

ウ 消費木材（樹皮付き）・樹皮

- (ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）
輸送中及び貯蔵中に生存率に影響を与えるような加工は実施されない。よって、評価基準に基づき 5 点と評価した。
- (イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ
本種の成虫は樹皮のすき間で越冬するため、成虫が対象となり、成虫の体長は約 2.5~3.0 mm。よって、評価基準に基づき 4 点と評価した。
- (ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性

本種の主要な寄主植物であるレタス、トマト、バレイショ等は、47 都道府県で生産されている。よって、評価基準に基づき4点と評価した。

(エ) 輸入品目からの自然分散の可能性

対象は越冬中の成虫の自然分散であるが、越冬中又は越冬明け直後の成虫が長距離飛翔を行うか不明であるため、評価基準に基づき2点と評価した。

(オ) 評価における不確実性

越冬中の成虫の飛翔に関する情報はないため、短距離飛翔として評価を行ったことから、自然分散の可能性の評価については不確実性が伴う。

消費用木材（樹皮付き）・樹皮からの入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の評価点の平均値は3.8点（小数第二位を四捨五入）であり、消費用木材（樹皮付き）・樹皮を経路とした場合の本種の入り込みの可能性の評価を「中程度」と結論付けた。

4. *Bactericera cockerelli* の病害虫リスク評価の結論

本種は検疫有害動物であり、栽植用植物、消費用生植物及び消費用木材（樹皮付き）・樹皮を経路として入り込み、農業生産等へ影響を及ぼす可能性があるとして評価した。

農業生産等への影響評価の結論 (病害虫固有のリスク)	入り込みの可能性の評価		病害虫リスク評価の結論
	用途	結論	
高い	栽植用植物	高い	高い
	消費用生植物	中程度	中程度（農業生産等への影響が高い）
	消費用木材（樹皮付き） ・樹皮	中程度	中程度（農業生産等への影響が高い）

Bactericera cockerelli の発生国等の根拠

国又は地域	ステータス	根拠文献	備考
北米			
アメリカ合衆国※	発生	CABI, 2014a; b; EPPO, 2012; FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Munyaneza, 2014; Munyaneza et al., 2009; Nelson et al., 2011; Ouvrard, 2014; Sengoda et al., 2014	
カナダ	発生	EPPO, 2012; FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Nelson et al., 2011; Ouvrard, 2014; Sengoda et al., 2014	
中南米			
エクアドル※	発生	Castillo Carrillo et al., 2019; EPPO, 2019; IPPC/FAO, 2019; Caicedo et al., 2020a, 2020b	
エルサルバドル※	発生	CABI, 2014b; FERA, 2014	
グアテマラ※	発生	CABI, 2014b; EPPO, 2012; FERA, 2014; Ouvrard, 2014	
コロンビア	発生	CABI, 2022; EPPO, 2023	
ニカラグア※	発生	CABI, 2014b; FERA, 2014	
ペルー	発生	CABI, 2022; EPPO, 2023	
ホンジュラス※	発生	CABI, 2014b; EPPO, 2012; FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Munyaneza, 2014; Ouvrard, 2014	
メキシコ※	発生	CABI, 2014b; EPPO, 2012; FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Munyaneza, 2014; Ouvrard, 2014; Potatoes New Zealand Growing together, 2011	
大洋州			
オーストラリア	発生	<u>Agriculture Victoria, 2025; EPPO, 2017, 2025; Sarkar et al., 2023</u>	追加
ニュージーランド※	発生	CABI, 2014a, b; EPPO, 2012; FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Munyaneza, 2014; Munyaneza et al., 2009; Nelson et al., 2011; Ouvrard, 2014; Potatoes New Zealand Growing together, 2011; Sengoda et al., 2014	
ノーフォーク島※	発生	CABI, 2017; EPPO, 2015; Maynard et al., 2018	

※ 'Candidatus Liberibacter solanacearum' の発生国

注) 備考欄の「追加」は、文献情報等に基づき令和8（2026）年2月24日改訂時に追加した国又は地域。

Bactericera cockerelli の寄主植物の根拠

科名	学名	シノニム	和名		英名	根拠文献	備考
			属名	種名			
アカザ科 (Chenopodiaceae)	<i>Beta vulgaris</i> var. <i>altissima</i>	<i>B. vulgaris</i> var. <i>rapa</i>	フダンソ ウ属	テンサイ	sugarbeet	EPPO, 2012	
アブラナ科 (Cruciferae)	<i>Raphanus sativus</i> var. <i>sativus</i>		ダイコン 属	ハツカダイコン		EPPO, 2012	
イネ科 (Gramineae)	<i>Zea mays</i>		トウモロ コシ属	トウモロコシ	corn	EPPO, 2012	
キク科 (Compositae)	<i>Helianthus annuus</i>		ヒマワリ 属	ヒマワリ	sunflower	EPPO, 2012	
キク科 (Compositae)	<i>Lactuca sativa</i>		アキノノ ゲシ属	レタス	lettuce	EPPO, 2012	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Capsicum</i> spp.		トウガラ シ属			EPPO, 2012; FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Ouvrard, 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Capsicum annuum</i> [*]		トウガラ シ属	トウガラシ	chili pepper, sweet pepper	CABI, 2014a, b; FERA, 2014; Liefting et al., 2009; Ouvrard, 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Datura stramonium</i>		ダツラ属	シロバナヨウシ ユチヨウセンア サガオ	jimsonweed	Martin, 2008; Vereijssen et al., 2015; Vereijssen and Weintraub, 2018	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Lycium</i> spp. [*]		クコ属			CABI, 2014b; Ouvrard, 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Lycium barbarum</i> [*]		クコ属	ナガバクコ		CABI, 2014b; Ouvrard, 2014	

ナス科 (Solanaceae)	<i>Lycopersicon esculentum</i> *	<i>Solanum lycopersicum</i>	トマト属	トマト	tomato	CABI, 2014a; CABI, 2014b; EPPO, 2012; FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Liefting et al., 2009; Ouvrard, 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Nicandra physalodes</i>		オオセン ナリ属	オオセンナリ	apple of Peru	Martin, 2008; Vereijssen and Weintraub, 2018	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Nicotiana tabacum</i> **		タバコ属	タバコ	tobacco	CABI, 2014a; CABI, 2014b; FERA, 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Physalis</i> spp.		ホオズキ 属			CABI, 2014b	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Physalis ixocarpa</i> **		ホオズキ 属	オオブドウホオ ズキ	tomatillo	CABI, 2014a; FERA, 2014; Ouvrard, 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Physalis peruviana</i> **		ホオズキ 属	シマホオズキ	cape gooseberry	EPPO, 2012; FERA, 2014; Liefting et al., 2009; Caicedo et al., 2020b	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Solanum</i> spp.		ナス属			CABI, 2014b; Ouvrard, 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Cyphomandra betacea</i> **	<i>Pionandra betacea</i> , <i>Solanum betaceum</i> , <i>S. insigne</i>	キフォマ ンドラ属	コダチトマト	tamarillo	CABI, 2014a; Caicedo et al., 2020b; EPPO, 2012; FERA, 2014; Liefting et al., 2009; Vereijssen and Weintraub, 2018	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Solanum dulcamara</i> **		ナス属	ソラヌム・ドゥ ルカマラ		FERA, 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Solanum elaeagnifolium</i> **		ナス属	ソラヌム・エラ エアグニフォリ ウム (ラシャナ ス)		CABI, 2020	

ナス科 (Solanaceae)	<i>Solanum melongena</i> ※		ナス属	ナス	eggplant	CABI, 2014a, b; EPPO, 2012; FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Ouvrard, 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Solanum tuberosum</i> ※		ナス属	バレイシヨ	potato	CABI, 2014a, b; EPPO, 2012; FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Liefting et al., 2009; Munyaneza et al., 2014b; Ouvrard, 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Solanum umbelliferum</i> ※		ナス属	ソラヌム・ウン ベリフェルム		Mauck et al., 2019	
ヒノキ科 (Cupressaceae)	<i>Thuja occidentalis</i>		クロベ属	ニオイヒバ		CABI, 2014b	
ヒルガオ科 (Convolvulaceae)	<i>Convolvulus arvensis</i>		セイヨウ ヒルガオ 属	セイヨウヒルガ オ	field bindweed	CABI, 2014b	
ヒルガオ科 (Convolvulaceae)	<i>Ipomoea batatas</i>		サツマイ モ属	サツマイモ	sweet potato	CABI, 2014b	
マメ科 (Leguminosae)	<i>Medicago sativa</i>		ウマゴヤ シ属	アルファルファ	alfalfa	CABI, 2014b	
マメ科 (Leguminosae)	<i>Vicia faba</i>		ソラマメ 属	ソラマメ	broad bean	EPPO, 2012	

※ 'Candidatus Liberibacter solanacearum'の宿主植物

以下の植物については、寄主植物としての根拠が不明のため、継続調査とする。

科名	学名	シノニム	和名		英名	根拠文献（情報）	備考
			属名	種名			
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Daucus carota</i> [※]		ニンジン属	ニンジン	carrot	EPPO, 2012	

※ '*Candidatus Liberibacter solanacearum*'の宿主植物

***Bactericera cockerelli* の寄主植物に関連する経路の年間輸入検査量
(発生国からの貨物、郵便物及び携帯品)**

(1) 栽植用植物

単位(数量): 本

植物名	生産国	2022		2023		2024	
		件数	数量	件数	数量	件数	数量
Thuja occidentalis(=Thuja canadensis)(ニオイヒバ)	米国					1	32

(2) 消費生植物(切り花)

単位(数量): 本

植物名	生産国	2022		2023		2024	
		件数	数量	件数	数量	件数	数量
Helianthus annuus(ヒマワリ)	オーストラリア			1	2	1	3
	コロンビア					3	150
	ペルー			1	1	1	85

(3) 消費生植物(果実)

単位(数量): kg

植物名	生産国	2022		2023		2024	
		件数	数量	件数	数量	件数	数量
Capsicum annuum var. grossum (PIMENTO)(ピペロン)	カナダ	217	221,685	245	334,350	494	302,908
	ニューゼーランド	813	1,621,574	1,127	2,223,302	1,544	2,852,834
Capsicum annuum(トウガラシ)	ニューゼーランド	39	1,320	37	1,680	27	990
Lycopersicon esculentum var. cerasiforme(チェリートマト)	カナダ	182	665,571	167	561,102	90	253,578
	ニューゼーランド					13	18,516
	メキシコ	161	535,191	75	284,221	99	202,176
	米国	87	166,209	94	200,360	195	451,543

Lycopersicon esculentum(=So lanum lycopersicum)(ト マト)	カナダ	46	35,617	39	19,517	66	269,156
	ニュージー ランド	42	297,340	125	496,292	266	967,558
	メキシコ	53	111,012	59	134,261	43	87,262
	米国	19	15,094	95	346,497	43	86,207
Zea mays var. rugosa(スイートコー ン)	メキシコ	1	1,440	3	5,939		
	米国	12	28,440	6	5,394		
Zea mays(トウモロ コシ)	ペルー	7	13	6	9	5	18

(4) 消費生植物 (茎葉)

単位 (数量) : kg

植物名	生産国	2022		2023		2024	
		件数	数量	件数	数量	件数	数量
Lactuca sativa var. capitata(レタ 加工)	オーストラ リア	3	3	3	3	19	19
	メキシコ	15	1,581	5	303	5	560
	米国	292	22,149	310	22,165	304	21,703
Lactuca sativa var. capitata(レタ ス)	オーストラ リア	1	1	20	20	12	12
	カナダ			1	1		
	ペルー	1	1	1	1		
	米国	14	70,099	47	252,911	64	221,909
Lactuca sativa var. longifolia(好 チシャ(ロメインレタス) 加 工)	メキシコ	17	5,043	25	5,851	14	2,927
	米国	116	44,696	108	38,526	131	40,056
Lactuca sativa var. longifolia(好 チシャ(ロメインレタス))	米国	3	1,931	2	1,972	2	1,144
Lactuca sativa(好 チシャ)	米国	1	113			2	445
Zea mays(トウモロ コシ)	ペルー	1	1				

(5) 木材寄主植物として特定されたニオイヒバについては、輸入検査実績 (2022~2024年) はなし。その他の針葉樹については、寄主植物として特定された植物はないため、輸入検査実績は記載しない。

引用文献

- Agriculture Victoria (2025) Tomato potato psyllid. (online), available from <<https://agriculture.vic.gov.au/biosecurity/pest-insects-and-mites/priority-pest-insects-and-mites/tomato-potato-psyllid>>, (accessed 2025-10-01).
- APQA (2023) Animal and Plant Quarantine Agency: Plant import prohibition list. (online), available from <https://www.qia.go.kr/plant/imQua/plant_no_imp.jsp>, (accessed 2025-09-30).
- Bertolini, E., G. R. Teresani, M. Loiseau, F. A. O. Tanaka, S. Barbé, C. Martínez, P. Gentit, M. M. López and M. Cambra (2015) Transmission of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in carrot seeds. *Plant Pathology* 64: 276-285.
- Bextine, B., E. Aguilar, A. Rueda, O. Caceres, V. G. Sengoda, K. F. McCue and J. E. Munyaneza (2013) First report of "*Candidatus Liberibacter solanacearum*" on tomato in El Salvador. *Plant Disease* 97: 1245.
- Bob, F., S. Ian, P. Andy, S. Grant, D. V. Jessica, G. G. Robin, T. Natasha and W. Graham (2013) TPP/Lso Supporting Research. The New Zealand Institute for Plant & Food Research Limited. (online), available from <<http://www.potatoesnz.co.nz/users/Image/Downloads/PDFs/Appdx-7-PNZ-Agronomists-Forum-13-TPP-Liberibacter.pdf>>, (accessed 2022-11-17).
- CABI (2014a) *Candidatus Liberibacter solanacearum*. Crop Protection Compendium. (online), available from <<http://www.cabi.org/cpc/>>, (accessed 2014-08-25).
- CABI (2014b) *Bactericera cockerelli*. Crop Protection Compendium. (online), available from <<http://www.cabi.org/cpc/>>, (accessed 2014-08-25).
- CABI (2017) *Bactericera cockerelli*. Crop Protection Compendium. (online), available from <<http://www.cabi.org/cpc/>>, (accessed 2017-11-22).
- CABI (2020) *Bactericera cockerelli*. Crop Protection Compendium. (online), available from <<https://www.cabi.org/cpc/datasheet/45643>>, (accessed 2020-09-09).
- CABI (2022) *Bactericera cockerelli*. Crop Protection Compendium. (online), available from <<https://www.cabi.org/cpc/datasheet/45643>>, (Last modified 2022-06-09).
- Caicedo, J. D., L. L. Simbaña, D. A. Calderón, K. P. Lalangui and L. I. Rivera-Vargas (2020a) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in Ecuador and in South America. *Australasian Plant Disease Notes* 15: 6.
- Caicedo, J., M. Vallejo, L. Simbaña and L. I. Rivera (2020b) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' causing leaf discoloration and wilting in tamarillo and cape gooseberry in Ecuador. *New Disease Reports* 41: 30.
- Castillo Carrillo, C., F. Zhen and B. Burckhardt (2019) First record of the tomato potato psyllid *Bactericera cockerelli* from South America. *Bulletin of Insectology* 72: 85-91.
- EPPO (2012) Report of a pest risk analysis for *Candidatus Liberibacter solanacearum* in Solanaceae and its vector *Bactericera cockerelli*. European and Mediterranean Plant Protection Organization 12-18190.
- EPPO (2013) '*Candidatus Liberibacter solanacearum*'. *EPPO Bulletin* 43: 197-201.
- EPPO (2014) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in El Salvador. *EPPO Reporting Service* 2: 7.
- EPPO (2015) New data on quarantine pests and pests of the EPPO Alert List. *EPPO Reporting Service* (2015/079) No. 04.

- EPPO (2017) First report of *Bactericera cockerelli* in Australia. EPPO Reporting Service 2017/034.
- EPPO (2019) New data on quarantine pests and pests of the EPPO Alert List. EPPO Reporting Service (2019/092).
- EPPO (2020) *Bactericera cockerelli*. EPPO Global Database. (online), available from <<https://gd.eppo.int/taxon/PARZCO/>>, (accessed 2020-10-08).
- EPPO (2023) *Bactericera cockerelli*. EPPO Global Database. (online), available from <<https://gd.eppo.int/taxon/PARZCO/>>, (accessed 2023-03-09).
- EPPO (2025) New data on quarantine pests and pests of the EPPO Alert List. EPPO Reporting Service 2025/055.
- EU (2025) COMMISSION IMPLEMENTING REGULATION (EU) 2019/2072. (online), available from <<https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/?uri=CELEX%3A02019R2072-20250723>>, (accessed 2025-10-16).
- FERA (2014) Rapid pest risk analysis for *Candidatus Liberibacter solanacearum*. The Food and Environment Research Agency.
- Halbert, S. and J. E. Munyaneza (2012) Potato psyllids and their associated pathogens: A diagnostic aid. (online), available from <http://www.fsca-dpi.org/Homoptera_Hemiptera/Potato_psyllids_and_associated_pathogens.pdf>, (accessed 2022-11-17).
- Hansen, A. K., J. T. Trumble, R. Stouthamer and T. D. Paine (2008). A new huanglongbing species, "*Candidatus Liberibacter psyllaurosus*" found to infect tomato and potato, is vectored by the psyllid *Bactericera cockerelli* (Sulc). *Applied and Environmental Microbiology* 74: 5862-5865.
- Hodkinson, I. D. (2009) Life cycle variation and adaptation in jumping plant lice (Insecta: Hemiptera: Psylloidea): a global synthesis. *Journal of Natural History* 43: 65-179.
- IPPC/FAO (2019) Presencia de *Bactericera cockerelli* en Ecuador. (online), available from <<https://www.ippc.int/en/countries/ecuador/pestreports/2019/03/presencia-de-bactericera-cockerelli-en-ecuador/>>, (accessed 2019-11-25).
- Liefting, L. W., B. S. Weir, S. R. Pennycook and G. R. Clover (2009) '*Candidatus Liberibacter solanacearum*', associated with plants in the family Solanaceae. *International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology* 59: 2274-2276.
- Martin, N. A. (2008) Host plants of the potato/tomato psyllid: a cautionary tale. *The Weta* 35: 12-16.
- Martin, N. A. (2016) Tomato potato psyllid - *Bactericera cockerelli*. New Zealand Arthropod Collection Factsheet Series (ISSN 1179-643X). (online), available from <<https://interestinginsects.landcareresearch.co.nz/taxa/57c9a6fd-2c93-4e07-bc0c-9c0ea1e6c679>>, (accessed 2026-01-26).
- Mauck, K. E., P. Sun, V. R. Meduri and A. K. Hansen (2019) New *Ca. Liberibacter psyllaurosus* haplotype resurrected from a 49-year-old specimen of *Solanum umbelliferum*: A native host of the psyllid vector. *Scientific Reports* 9: 9530.
- Maynard, G. V., B. J. Lepschi and S. F. Malfroy (2018) Norfolk Island Quarantine Survey 2012-2014, A Comprehensive Assessment of an Isolated Subtropical Island, *Proceedings of the Linnean Society of New South Wales* 140: 7-243.
- Munyaneza, J. E., T. W. Fisher, V. G. Sengoda, S. F. Garczynski, A. Nissinen and A.

- Lemmetty (2010) Association of “*Candidatus Liberibacter solanacearum*” with the psyllid, *Trioza apicalis* (Hemiptera: Triozidae) in Europe. *Journal of Economic Entomology* 103: 1060-1070.
- Munyaneza, J. E., V. G. Sengoda, J. L. Buchman and T. W. Fisher (2012) Effects of temperature on ‘*Candidatus Liberibacter solanacearum*’ and zebra chip potato disease symptom development. *Plant Disease* 96: 18-23.
- Munyaneza, J. E., V. G. Sengoda, L. Sundheim and R. Meadow (2014) Survey of “*Candidatus Liberibacter solanacearum*” in carrot crops affected by the psyllid *Trioza apicalis* (Hemiptera: Triozidae) in Norway. *Journal of Plant Pathology* 96: 397-402.
- Munyaneza, J. E. (2014) Biology and management of ‘*Candidatus Liberibacter solanacearum*’ in Solanaceous crops: Case of zebra chip disease of potato. USDA. (online), available from <http://www.symphosiumbacterias.mx/files/magistrales/biology_of_zebra_chip.pdf>, (accessed 2018-02-06).
- Nelson, W. R., T. W. Fisher and J. E. Munyaneza (2011) Haplotypes of “*Candidatus Liberibacter solanacearum*” suggest long-standing separation. *European Journal of Plant Pathology* 130: 5-12.
- 農林省 (1950) 植物防疫法施行規則 (昭和 25 年農林省令第 73 号) .
- NPPO of Switzerland (2025) Ordonnance du DEFR et du DETEC relative à l’ordonnance sur la santé des végétaux. (online), available from <<https://www.fedlex.admin.ch/eli/cc/2019/787/fr>>, (accessed 2025-10-25).
- Ouvrard, D. (2014) Psyllid - The World Psylloidea Database. Natural History Museum. (online), available from <<https://data.nhm.ac.uk/dataset/psyll-list/resource/8746ceec-4846-4899-b607-9ba603002033>>, (accessed 2014-08-26).
- Potatoes New Zealand Growing together (2011) Psyllid News. (online), available from <<http://www.potatoesnz.co.nz/users/Image/Downloads/PDFs/Psyllid%20News%20September%202011.pdf>>, (accessed 2022-11-17).
- Sarkar, S. C., S. Hatt, A. Philips, M. Akter, S. P. Milroy and W. Xu (2023) Tomato potato psyllid *Bactericera cockerelli* (Hemiptera: Triozidae) in Australia: incursion, potential impact and opportunities for biological control. *Insects* 14: 263.
- Sengoda, V. G., W. R. Cooper, K. D. Swisher, D. C. Henne and J. E. Munyaneza (2014) Latent period and transmission of “*Candidatus Liberibacter solanacearum*” by the potato psyllid *Bactericera cockerelli* (Hemiptera: Triozidae). *PLOS One* 9: e93475.
- Vereijssen, J., N. M. Taylor, A. M. Barnes, S.E. Thompson, D.P. Logan, R.C. Butler, A.L. Yen and K.J. Finlay (2015) First report of ‘*Candidatus Liberibacter solanacearum*’ in Jerusalem cherry (*Solanum pseudocapsicum*) and thorn-apple (*Datura stramonium*) in New Zealand. *New Disease Reports* 32: 1.
- Vereijssen, J., G. R. Smith and P. G. Weintraub (2018) *Bactericera cockerelli* (Hemiptera: Triozidae) and *Candidatus Liberibacter solanacearum* in potatoes in New Zealand: Biology, transmission, and implications for management. *Journal of Integrated Pest Management* 9: 1-21.

Ⅲ. *Trioza apicalis* (Lso のベクター)

Ⅲ-1. リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報

1. 学名及び分類

(1) 学名

Trioza apicalis Förster

(2) 英名、和名等

英名 : carrot psyllid (EPPO, 2013; FERA, 2014; Kristoffersen and Anderbrant, 2007; Láska, 2011; Munyaneza et al., 2010, 2014; Nelson et al., 2011; Meadow, 2010) 、
carrot sucker (CABI, 2019; Meadow, 2010)

和名 : なし

(3) 分類

種類 : 節足動物

目 : Hemiptera (カメムシ目)

科 : Triozidae (トガリキジラミ科)

属 : *Trioza*

(4) シノニム

Heterotrioza(Dyspersa) apicalis (Burckhardt, 1985)

Trioza viridula (Burckhardt, 1985; Kuwayama, 1910; Miyatake, 1964; Sasaki, 1954)

Trioza flavescens (Burckhardt, 1985)

2. 地理的分布

(1) 国又は地域 (詳細は別紙Ⅲ-1 参照)

本種の分布地域は広く、ユーラシア広域 (英国からモンゴル) に分布する (Munyaneza et al., 2010) 。

アジア : モンゴル

欧州 : イタリア、ウクライナ、英国、エストニア、オーストリア、スイス、スウェーデン、スペイン、チェコ、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、フィンランド、フランス※、ベラルーシ、ポーランド、ラトビア、ロシア

※ Lso のハプロタイプ D 及び E が発生していることが報告されているが (Hajri et al., 2017) 、本種がこれらのハプロタイプを媒介するという情報はない。

(注) 本種は、*T. viridula* (シノニム名) として北海道、本州 (岐阜県、富山県及び京都府) での採集記録がある (Kuwayama, 1910; Sasaki, 1954; Miyatake, 1964) 。

しかし、当該記録はいずれも古く、現在の発生状況は不明である。さらに、記録された寄主植物が本来の寄主であるセリ科植物ではなく、モミ属 (マツ科) から採集されていることを理由に、誤同定の可能性が高いとする専門家の指摘もある。

以上から、本報告書では本種を日本未発生として取り扱う。

(2) 生物地理区

本種は、旧北区のみに分布する。

(3) 本種及びLso が共に存在する国又は地域

イタリア、英国、エストニア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ、ノルウェー、フィンランド及びフランス※

※ Lso のハプロタイプD及びEが発生していることが報告されているが (Hajri et al., 2017)、本種がこれらのハプロタイプを媒介するという情報は無い。

3. 寄主植物及びその日本国内での分布

(1) 寄主植物 (詳細は別紙Ⅲ-2 参照)

セリ科：イノンド (*Anethum graveolens*)、オランダゼリ (*Petroselinum crispum* (= *P. hortense*, *P. sativum*))、クミン (*Cuminum cyminum*)、コエンドロ (*Coriandrum sativum*)、セロリー (*Apium graveolens*)、ニンジン (*Daucus carota*)、ヒメウイキョウ (*Carum carvi*)、ヘラクレウム・スフォンディリウム (*Heracleum sphondylium*)

(2) Lso の宿主植物と共通の本種の寄主植物

オランダゼリ、セロリー、ニンジン及びヘラクレウム・スフォンディリウム

(3) 日本国内における寄主植物の分布及び栽培状況

本種の寄主植物であるセロリーは45都道府県、ニンジンは47都道府県で栽培されている。

4. 寄生部位及びその症状

本種は、葉に産卵し、幼虫及び成虫が葉を吸汁する (FERA, 2014; Meadow, 2010)。成虫は葉や葉柄に産卵する (Meadow, 2010)。展開した葉を加害し、変形を伴う虫こぶを形成する (Hodkinson, 2009)。ニンジンでは、葉の変形及び黄化により根の肥大化が阻害され、変形等が起こる (FERA, 2014)。

5. 移動分散方法

(1) 自然分散

本種は、通常、ほ場内・ほ場間の短距離を飛翔して移動する。欧州において、越冬地のトウヒ属から5km離れた地域で見ついている報告もあり、数日かけて長距離飛翔も可能であると考えられる (Láska, 2011)。気温が高く、日照時間が多いほど飛翔する割合が高い (Meadow, 2010)。

(2) 人為分散

本種は、寄主植物 (茎葉を含む苗、切葉、野菜等) に付着し、人為的に分散する可能性がある。

6. 有害動物の大きさ及び生態

(1) 有害動物の大きさ

卵：長さ0.34~0.39 mm、幅0.10~0.13 mm、僅かに黄色を呈した白色 (Láska, 2011)

幼虫（5 齢）：長さ 1.75~2.15 mm、幅 0.89~1.07 mm（Láska, 2011）

成虫：正確な情報は得られなかったが、体長の大部分を占める前翅長が 1.96~2.35 mm であることから（Burckhardt, 1985）、3mm 未満と考えられる。

(2) 繁殖様式

両性生殖。なお、単為生殖についての情報はない。

(3) 年間世代数

年 1 世代。越冬成虫が夏季に産卵する（Hodkinson, 2009; Meadow, 2010; Láska, 2011）。

(4) 植物残さ中での生存

情報なし。

(5) 休眠性（越冬部位）

本種の成虫は、針葉樹（エゾマツ・トウヒ）の樹皮のすき間で越冬する（Kristoffersen and Anderbrant, 2007; Láska, 2011）。雌雄によって越冬方法や場所に差はない（Kristoffersen and Anderbrant, 2007）。

7. 媒介性又は被媒介性

本種は、Lso のハプロタイプ C（Bertolini et al., 2015; EPPO, 2013; Loiseau et al., 2014）をニンジンに媒介することが知られている。同じ Lso のベクターとして知られている *Bactericera cockerelli* では垂直伝搬することが知られているが、本種でも垂直伝搬するかどうかは分かっていない（EPPO, 2013）。

8. 被害の程度

本種の吸汁加害により寄主植物に葉巻が起こることが示唆されている（Nissinen, 2014）。また、本種が媒介する Lso により、ニンジンの葉の変色や根の重量減少が起こる。北欧地域では、収量が減少し、食味不良やニンジンが固くなる等の影響が報告されている（Kristoffersen and Anderbrant, 2007; Láska, 2011; Loiseau et al., 2014; Munyaneza et al., 2010, 2012, 2014; Meadow, 2010）。

ノルウェーでは、ニンジンの商用栽培ほ場の 70~80% で Lso が発生（発生ほ場における発症率：10~100%）したとの報告がある（EPPO, 2012）。

9. 防除

ノルウェーにおいて、本種に対する殺虫剤による防除は困難であることが報告されている。登録されている殺虫剤は、いずれも効果が乏しく、殺虫剤に対して抵抗性を持つことが示唆されている。経済的に問題があるが、効果が見られる管理方法は、作物をマルチで覆って本種の飛来を防ぐことである（Meadow, 2010; Munyaneza et al., 2014）。

10. 日本における輸入検疫措置

本種は、植物防疫法施行規則（農林省, 1950）別表 1 に規定された検疫有害動物であり、同施行規則 1 の 2 に規定された国又は地域からの該当する寄主植物の生茎葉については、本種を発見するために適切と認められる方法による検査が行われ、かつ、本種に侵されていない旨（本種について消毒を行った場合は、その旨を含む。）を検査証明書に特記することを要求している。

1 1. 諸外国における輸入検疫措置

大韓民国は、本種を禁止対象病害虫に指定しており、発生国からのニンジン及びセロリーの茎葉及び栽植用植物の輸入を禁止している（APQA, 2023）。

1 2. 日本の輸入検査における *Trioza apicalis* の発見件数（2015～2024 年）

発見事例はなし。

Ⅲ-2. 病害虫リスクアナリシス

第1 開始（ステージ1）

1. 開始

Trioza apicalis に対する現行の検疫措置の有効性を検討するため、病害虫リスクアナリシスを実施する。

2. 対象となる有害動植物

Trioza apicalis を対象とする。

3. 対象となる経路

リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報の「2. 地理的分布」に示す「国又は地域」からの「3. 寄主植物及びその日本国内での分布」に示す「寄主植物」であって、「4. 寄生部位及びその症状」に示す「寄生部位」を含む植物を対象とする。

4. 対象となる地域

日本全域を対象とする。

5. 開始の結論

本種を開始点とし、その発生地域から輸入される植物を経路とした日本全域を対象とする病害虫リスクアナリシスを開始する。

第2 病害虫リスク評価（ステージ2）

1. 有害動植物の類別

ステージ1で特定された有害動植物について、国内における発生及び公的防除の有無、定着及びまん延の潜在性並びに経済的影響を及ぼす潜在性について調査し、検疫有害動植物となる潜在性を有するかを検討する。なお、以下の（1）～（3）の評価項目を満たしていない場合は、それが判明した時点で評価を中止できるものとする。

（1）有害動植物の国内での発生の有無及び公的防除の有無等

Trioza apicalis は国内未発生である。

（2）定着及びまん延の潜在性

本種の寄主植物であるニンジン、47都道府県で栽培されていることから、本種が国内に入り込んだ場合、国内に定着及びまん延するおそれがある。

（3）経済的影響を及ぼす潜在性

本種はLsoのベクターであり、媒介するLsoによってニンジンの葉の変色や根の重量減少が起こる。北欧地域では、収量が減少し、食味不良やニンジンが固くなる等の経済的損失が報告されている。

したがって、本種は国内未発生であるが、本種が国内に入り込み、定着及びまん延した場合、経済的影響を及ぼすおそれがある。

（4）評価にあたっての不確実性

特になし。

(5) 有害動植物の類別の結論

本種は国内未発生であるが、本種の寄主植物が47都道府県で栽培される。このことから、本種が国内に入り込んだ場合、定着及びまん延するおそれがある。また、本種はLsoのベクターであり、媒介するLsoによってニンジンの葉の変色、収量の減少、食味不良等の被害が報告されていることから、本種が国内に入り込み、定着及びまん延した場合、国内においても経済的影響を及ぼすことは否定できない。

したがって、本種は検疫有害動植物となる潜在性を有することから、引き続き「2. 農業生産等への影響の評価」で評価を行う。

2. 農業生産等への影響の評価

(1) 定着の可能性の評価

ア リスクアナリシスを実施する地域における潜在的検疫有害動植物の生存の可能性

(ア) 潜在的検疫有害動植物の生存の可能性

本種の寄主植物であるセロリーは45都道府県、ニンジンは47都道府県で栽培されている。施設栽培含め寄生部位は周年存在する。また、樹皮のすき間で越冬することができる。よって、本種が我が国に入り込んだ場合、生活環の維持が可能であり、国内に定着できると判断した。

(イ) リスクアナリシスを実施する地域における中間宿主の利用可能性

本種は有害動物なので評価しない。

(ウ) 潜在的検疫有害動植物の繁殖戦略

両性生殖。なお、単為生殖についての情報はない。よって、評価基準に基づき2点と評価した。

イ リスクアナリシスを実施する地域における寄主又は寄主植物の利用可能性及び環境の好適性

(ア) 寄主又は宿主植物の利用可能性及び環境の好適性

本種の寄主植物であるセロリーは45都道府県、ニンジンは47都道府県で栽培されており、本種にとって好適な環境が日本全域に存在することから、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 潜在的検疫有害動植物の寄主又は宿主範囲の広さ

本種はセリ科1科のみに寄生することが知られている。

(ウ) 有害動植物の侵入歴

本種は旧北区のみに分布する。よって、評価基準に基づき1点と評価した。

ウ 定着の可能性の評価結果

評価した項目の評価点の平均から、定着の可能性の評価点は5点満点中の2.7点（小数第二位を四捨五入）となった。

(2) まん延の可能性の評価

ア 自然分散

(ア) 移動距離

本種は、通常、ほ場内・ほ場間の短距離を飛翔して移動するが、越冬地から5km離れた地域で見つかっている報告もあり、数日かけて長距離飛翔も可能であると考え。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 年間世代数

年1世代である。よって、評価基準に基づき3点と評価した。

イ 人為分散

(ア) 農作物を介した分散

本種の寄主植物であるセロリーは45都道府県、ニンジンが47都道府県で栽培されている。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 非農作物を介した分散

情報なし。

ウ まん延の可能性の評価結果

評価した項目の評価点の平均から、まん延の可能性の評価点は5点満点中の4.3点（小数第二位を四捨五入）となった。

(3) 経済的重要性の評価

ア 直接的影響

(ア) 影響を受ける農作物又は森林資源

Lsoの宿主植物と重複する本種の寄主植物である、ニンジン及びセロリーの農産物産出額の合計額は、666.2億円であることから、評価基準に基づき2点と評価した。

(イ) 生産への影響

本種の寄主植物であるセロリーは45都道府県、ニンジンが47都道府県で栽培されている。これらの植物は生産農業所得統計の対象であり、発生国では、当該作期の商品生産に大きな支障を来す経済的被害や商品部位が直接的に被害を受けるもの又は1年生作物の高頻度の枯死が報告されている。よって、評価基準に基づき4点と評価した。

(ウ) 防除の困難さ

公的防除の情報はない。ノルウェーにおいて、本種に対する殺虫剤による防除が困難であることが報告されている。登録されている殺虫剤は、いずれも効果が乏しく、殺虫剤に対して抵抗性を持つことが示唆されている。経済的に問題があるが、効果が見られる管理方法は、作物をマルチで覆って本種の飛来を防ぐことである。

(エ) 直接的影響の評価結果

上記(ア)及び(イ)の評価点の積は8点となり、評価基準に基づき直接的影響の評価点は2点と評価した。

イ 間接的影響

(ア) 農作物の政策上の重要性

本種の寄主植物であるニンジンは「野菜生産出荷安定法施行令」で定める農作物に該当する。よって、評価基準に基づき1点と評価した。

(イ) 輸出への影響

大韓民国は、本種を禁止対象病害虫に指定しており、発生国からのニンジン、セロリー等の茎葉、栽植用植物及び栽植用種子の輸入を禁止している。よって、日本で本種が発生した場合、輸出の制限を受けることから評価基準に基づき1点と評価した。

ウ 経済的重要性の評価結果

直接的影響の評価点と間接的影響の評価点の和から、経済的重要性の評価点は5点満点中の4点となった。

(4) 評価における不確実性
特になし。

(5) 農業生産等への影響評価の結果（病害虫固有のリスク）

定着及びまん延の可能性並びに経済的重要性の各項目の評価点の積は46.2点（小数第二位を四捨五入）となり、本種の農業生産等への影響の評価を「中程度」と結論付けた。

3. 入り込みの可能性の評価

項目	評価における判断の根拠等		
(1) 寄生部位	本種は幼虫・成虫共に葉に寄生し（外部寄生性）、葉や葉柄に卵を産み付ける（外部寄生性）。また、成虫が越冬時に針葉樹の樹皮のすき間に入り込むこともある。		
(2) 国内に入り込む可能性のある経路	入り込む可能性のある経路は、〔栽植用植物〕、〔消費用生植物〕及び〔消費用木材（樹皮付き）・樹皮〕が考えられる。		
	用途	部位	経路となる可能性
	ア 栽植用植物	葉、針葉樹の樹皮のすき間	○
	イ 消費用生植物	葉、針葉樹の樹皮のすき間	○
ウ 消費用木材（樹皮付き）・樹皮	針葉樹の樹皮のすき間	○	
(3) 寄主植物の輸入検査量	別紙Ⅲ－3参照		

(4) 入り込みの可能性の評価

ア 栽植用植物

(ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）

輸送中及び貯蔵中に生存率に影響を与えるような加工は実施されない。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ

本種は外部寄生で、成虫の体長は3mm未満、幼虫（1～5齢幼虫）の体長は1.75～2.15mm、体幅0.89～1.07mm。葉や葉柄に産み付けられる卵の大きさは長さ0.34～0.39mm、幅0.10～0.13mm。よって、評価基準に基づき2点と評価した。

(ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性

栽植用植物は、栽培施設、ほ場等へ直接持ち込まれる。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(エ) 輸入品目からの自然分散の可能性

栽植用として利用されることで入り込みが完了する。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

- (オ) 評価における不確実性
特になし。

栽植用植物からの入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の評価点の平均値は4.3点（小数第二位を四捨五入）であり、栽植用植物を経路とした場合の本種の入り込みの可能性の評価を「高い」と結論付けた。

イ 消費用生植物

- (ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）
輸送中及び貯蔵中に生存率に影響を与えるような加工は実施されない。よって、評価基準に基づき5点と評価した。
- (イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ
本種は外部寄生で、成虫の体長は3mm未満、幼虫（1～5齢幼虫）の長さ1.75～2.15mm、体幅0.89～1.07mm。葉や葉柄に産み付けられる卵の大きさは長さ0.34～0.39mm、幅0.10～0.13mm。よって、評価基準に基づき2点と評価した。
- (ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性
本種の主要な寄主植物であるセロリーは45都道府県、ニンジンも47都道府県で生産されている。よって、評価基準に基づき4点と評価した。
- (エ) 輸入品目からの自然分散の可能性
本種は、通常、ほ場内・ほ場間の短距離を飛翔して移動するが、越冬地から5km離れた地域で見ついている報告もあり、数日かけて長距離飛翔も可能であると考えられる。よって、評価基準に基づき3点と評価した。
- (オ) 評価における不確実性
特になし。

消費用生植物からの入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の評価点の平均値は3.5点であり、消費用生植物を経路とした場合の本種の入り込みの可能性の評価を「中程度」と結論付けた。

ウ 消費用木材（樹皮付き）・樹皮

- (ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）
輸送中及び貯蔵中に生存率に影響を与えるような加工は実施されない。よって、評価基準に基づき5点と評価した。
- (イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ
本種の成虫は樹皮のすき間で越冬するため、成虫が対象となり、成虫の体長は3mm未満。よって、評価基準に基づき4点と評価した。
- (ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性
本種の主要な寄主植物であるセロリーは45都道府県、ニンジンも47都道府県で生産されている。よって、評価基準に基づき4点と評価した。
- (エ) 輸入品目からの自然分散の可能性
対象は越冬中の成虫の自然分散であるが、越冬中又は越冬明け直後の成虫が長距離飛翔を行うか不明であるため、評価基準に基づき2点と評価した。
- (オ) 評価における不確実性

越冬中の成虫の飛翔に関する情報はないため、短距離飛翔として評価を行ったことから、自然分散の可能性の評価については不確実性が伴う。

消費用木材（樹皮付き）・樹皮からの入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の評価点の平均値は3.8点（小数第二位を四捨五入）であり、消費用木材（樹皮付き）・樹皮を経路とした場合の本種の入り込みの可能性の評価を「中程度」と結論付けた。

4. *Trioza apicalis* の病害虫リスク評価の結論

本種は検疫有害動物であり、栽植用植物、消費用生植物及び消費用木材（樹皮付き）・樹皮を経路として入り込み、農業生産等へ影響を及ぼす可能性があるとして評価した。

農業生産等への影響評価の結論 (病害虫固有のリスク)	入り込みの可能性の評価		病害虫リスク評価の結論
	用途	結論	
中程度	栽植用植物	高い	中程度（入り込みの可能性が高い）
	消費用生植物	中程度	低い
	消費用木材（樹皮付き）・樹皮	中程度	低い

Trioza apicalis の発生国等の根拠

国又は地域	ステータス	根拠文献	備考
アジア			
モンゴル	発生	CABI, 2019; Munyaneza et al., 2010	
欧州			
イタリア※	発生	CABI, 2019	
ウクライナ	発生	CABI, 2019	
英国※	発生	CABI, 2019; FERA, 2014; Munyaneza et al., 2010	
エストニア※	発生	EPPO, 2018	
オーストリア※	発生	CABI, 2019	
スイス	発生	CABI, 2019; Meadow, 2010	
スウェーデン※	発生	Bob et al., 2013; CABI, 2019; EPPO, 2013; FERA, 2014; Loiseau et al., 2014; Meadow, 2010; Munyaneza et al., 2010, 2014	
スペイン※	発生	FERA, 2014	
チェコ	発生	CABI, 2019	
デンマーク	発生	CABI, 2019	
ドイツ※	発生	CABI, 2019; Láska, 2011	
ノルウェー※	発生	Bob et al., 2013; CABI, 2019; EPPO, 2013; FERA, 2014; Láska, 2011; Loiseau et al., 2014; Meadow, 2010; Munyaneza et al., 2010, 2014	
フィンランド※	発生	Bob et al., 2013; CABI, 2019; EPPO, 2013; FERA, 2014; Loiseau et al., 2014; Meadow, 2010; Munyaneza et al., 2010, 2012, 2014; Nelson et al., 2011	
フランス※	発生	CABI, 2019; EPPO, 2013; Munyaneza et al., 2014	
ベラルーシ	発生	CABI, 2019	
ポーランド	発生	CABI, 2019	
ラトビア	発生	CABI, 2019; Láska, 2011	
ロシア	発生	CABI, 2019	

※ 'Candidatus Liberibacter solanacearum' の発生国

Trioza apicalis の寄主植物の根拠

科名	学名	シノニム	和名		英名	根拠文献	備考
			属名	種名			
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Anethum graveolens</i>		イノンド属	イノンド	dill	CABI, 2019	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Apium graveolens</i> ※		オランダミツバ 属	セロリー	celery	FERA, 2014; Láska, 2011	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Carum carvi</i>		イブキゼリ属	ヒメウイキョウ	caraway	CABI, 2019	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Coriandrum sativum</i>		コエンドロ属	コエンドロ	coriander	CABI, 2019	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Cuminum cyminum</i>		クミヌム属	クミン	cumin	Burckhardt, 1985; Láska, 2011	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Daucus carota</i> ※		ニンジン属	ニンジン	carrot	Bertolini et al., 2015; Bob et al., 2013; CABI, 2019; EPPO, 2013; FERA, 2014; Hodkinson, 1981; Kristoffersen and Anderbrant, 2007; Láska, 2011; Munyaneza et al., 2010; Nelson et al., 2011	

セリ科 (Umbelliferae)	<i>Heracleum sphondylium</i> ※		ハナウド属	ヘラクレウム・ス フォンディリウム		Ellis, 2021; Hodkinson and White, 1979; Lethmayer and Gottsberger, 2020; New Zealand Government, 2015; Ouvrard, 2021	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Petroselinum crispum</i> ※	<i>P. hortense</i> , <i>P. sativum</i>	オランダゼリ属	オランダゼリ	parsley	Láska, 2011	

※ 'Candidatus Liberibacter solanacearum'の宿主植物

***Trioza apicalis* の寄主植物に関連する経路の年間輸入検査量**
(発生国からの貨物、郵便物及び携帯品)

(1) 栽植用植物

実績なし

(2) 消費生植物 (切り花)

実績なし

(3) 消費生植物 (茎葉)

単位 (数量) : kg

植物名	生産国	2022		2023		2024	
		件数	数量	件数	数量	件数	数量
Apium graveolens(セリ)	スペイン	1	9				
Petroselinum sativum(=Petroselinum crispum)(オランダセリ(パセリ))	スペイン					2	5

(4) 消費木材

針葉樹については、寄主植物として特定された植物はないため、輸入検査実績は記載しない。

引用文献

- APQA (2023) Animal and Plant Quarantine Agency: Plant import prohibition list. (online), available from <https://www.qia.go.kr/plant/imQua/plant_no_imp.jsp>, (accessed 2025-09-30).
- Bertolini, E., G. R. Teresani, M. Loiseau, F. A. O. Tanaka, S. Barbé, C. Martínez, P. Gentit, M. M. López and M. Cambra (2015) Transmission of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in carrot seeds. *Plant Pathology* 64: 276-285.
- Bob, F., S. Ian, P. Andy, S. Grant, D. V. Jessica, G. G. Robin, T. Natasha and W. Graham (2013) TPP/Lso Supporting Research. The New Zealand Institute for Plant & Food Research Limited. (online), available from <<http://www.potatoesnz.co.nz/users/Image/Downloads/PDFs/Appdx-7-PNZ-Agronomists-Forum-13-TPP-Liberibacter.pdf>>, (accessed 2022-11-17).
- Burckhardt, D. (1985) Taxonomy and host plant relationships of the *Trioza apicalis* Förster complex (Hemiptera, Homoptera: Triozidae). *Entomologica Scandinavica* 16: 415-432.
- CABI (2019) *Trioza apicalis*. Crop Protection Compendium. (online), available from <<http://www.cabi.org/cpc/>>, (accessed 2019-11-19).
- Ellis, W. N. (2021) Leafminers and plant galls of Europe. (online), available from <<https://bladmineerders.nl/>>, (accessed 2021-06-07).
- EPPO (2012) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on carrots in Norway, in association with *Trioza apicalis*. EPPO Reporting Service 6: 4.
- EPPO (2013) '*Candidatus Liberibacter solanacearum*'. Datasheets on pests recommended for regulation. EPPO Bulletin 43: 197-201.
- EPPO (2018) First report of *Candidatus Liberibacter solanacearum* on carrot crops in Estonia. EPPO Reporting Service (2018/035) No. 02.
- FERA (2014) Rapid pest risk analysis for *Candidatus Liberibacter solanacearum*. The Food and Environment Research Agency.
- Hajri, A., M. Loiseau, P. Cousseau-Suhard, I. Renaudin and P. Gentit (2017) Genetic characterization of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' haplotypes associated with apiaceous crops in France. *Plant Disease* 101: 1383-1390.
- Hodkinson, I. D. and I. M. White (1979) Homoptera Psylloidea. Handbooks for the identification of British insects, Vol. II, Part 5 (a). Royal Entomological Society of London: 98 pp.
- Hodkinson, I. D. (1981) Status and taxonomy of the *Trioza (Bactericera) nigricornis* Förster complex (Hemiptera: Triozidae). *Bulletin of Entomological Research* 71: 671-679.
- Hodkinson, I. D. (2008) Life cycle variation and adaptation in jumping plant lice (Insecta: Hemiptera: Psylloidea): a global synthesis. *Journal of Natural History* 43: 65-179.
- Kristoffersen, L. and O. Anderbrant (2007). Carrot psyllid (*Trioza apicalis*) winter habitats - insights in shelter plant preference and migratory capacity. *Journal of Applied Entomology* 131: 174-178.
- Kuwayama, S. (1910) Die Psylliden Japans. II. Transactions of the Sapporo Natural History Society 3: 53-66.
- Láska, P. (2011) Biology of *Trioza apicalis* - a review. *Plant Protection Science* 47: 68-77.
- Loiseau, M., S. Garnier, V. Boirin, M. Merieau, A. Leguay, I. Renaudin, J. P. Renvoisé and P. Gentit (2014) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in carrot in France. *Plant Disease* 98: 839.
- Lethmayer, C. and R. A. Gottsberger (2020) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in common hogweed (*Heracleum sphondylium*) in Austria. *New Disease Reports* 42: 17.
- Meadow, R. (2010) The carrot psyllid, *Trioza apicalis* -biology and control. Bioforsk rapport Vol. 5 Nr.

- 151 2010. (online), available from
<<http://www.lr.no/media/ring/1043/Carrot%20psyllid%20BIOFORSK%20RAPPORT.pdf>>, (accessed 2022-11-17).
- Miyatake, Y. (1964) Psyllidae in the collection of the Osaka Museum of Natural History, with the description of a new species (Hemiptera: Homoptera). Bulletin of the Osaka Museum of Natural History 17: 19-32.
- Munyaneza, J. E., T. W. Fisher, V. G. Sengoda, S. F. Garczynski, A. Nissinen and A. Lemmetty (2010) Association of "*Candidatus Liberibacter solanacearum*" with the psyllid, *Trioza apicalis* (Hemiptera: Triozidae) in Europe. Journal of Economic Entomology 103: 1060-1070.
- Munyaneza, J. E., V. G. Sengoda, J. L. Buchman and T. W. Fisher (2012) Effects of temperature on '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' and zebra chip potato disease symptom development. Plant Disease 96: 18-23.
- Munyaneza, J. E., V. G. Sengoda, L. Sundheim and R. Meadow (2014) Survey of "*Candidatus Liberibacter solanacearum*" in carrot crops affected by the psyllid *Trioza apicalis* (Hemiptera: Triozidae) in Norway. Journal of Plant Pathology 96: 397-402.
- Nelson, W. R., T. W. Fisher and J. E. Munyaneza (2011) Haplotypes of "*Candidatus Liberibacter solanacearum*" suggest long-standing separation. European Journal of Plant Pathology 130: 5-12.
- New Zealand Government (2015) Pest risk assessment: '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' associated with imported carrot seeds for sowing. Ministry for Primary Industries NZ.
- Nissinen, A. I., M. Haapalainen, L. Jauhiainen, M. Lindman and M. Pirhonen (2014) Different symptoms in carrots caused by male and female carrot psyllid feeding and infection by '*Candidatus Liberibacter solanacearum*'. Plant Pathology 63: 812-820.
- 農林省 (1950) 植物防疫法施行規則 (昭和 25 年農林省令第 73 号) .
- Ouvrard, D. (2021) Psyllist - The World Psylloidea Database. Natural History Museum. (online), available from <<https://data.nhm.ac.uk/dataset/psyllist/resource/8746ceec-4846-4899-b607-9ba603002033>>, (accessed 2021-06-07).
- Sasaki, K. (1954) A list of the known species and their host-plants of the Psyllidae of Japan Homoptera. The scientific reports of the Matsuyama Agricultural College 14: 29-39.

IV. *Bactericera trigonica* (Lso のベクター)

IV-1. リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報

1. 学名及び分類

(1) 学名

Bactericera trigonica Hodkinson, 1981

(2) 英名、和名等 (Munyaneza, 2014)

英名 : carrot psyllid

和名 : なし

(3) 分類 (Ouvrard, 2014)

種類 : 節足動物

目 : Hemiptera (カメムシ目)

科 : Triozidae (トガリキジラミ科)

属 : *Bactericera*

(4) シノニム

情報なし。

2. 地理的分布

(1) 国又は地域 (詳細は別紙IV-1 参照)

中東 : イスラエル、イラン、トルコ

欧州 : イタリア、キプロス、ギリシャ、スイス、スペイン、スロバキア、セルビア、チェコ、ハンガリー、フランス、ポルトガル、マルタ

アフリカ : アルジェリア、エジプト、カナリア諸島、チュニジア、モロッコ

本種の分布地域は、地中海沿岸諸国と中東に限定され、カナリア諸島には本種以外の *Bactericera* 属はいない (FERA, 2014)。

(2) 生物地理区

本種は、旧北区及びエチオピア区の2区に分布する。

(3) 本種及び Lso が共に存在する国又は地域

イスラエル、トルコ、イタリア、ギリシャ、スペイン、セルビア、フランス、ポルトガル、カナリア諸島、チュニジア及びモロッコ

3. 寄主植物及びその日本国内での分布

(1) 寄主植物 (詳細は別紙IV-2 参照)

キク科 : ブタクサ (*Ambrosia artemisiifolia*)

セリ科 : セロリー (*Apium graveolens*)、ニンジン属 (*Daucus* spp.)

(2) Lso の宿主植物と共通の本種の寄主植物

セロリー及びニンジン

(3) 日本国内における寄主植物の分布及び栽培状況

本種の寄主植物であるセロリーは45都道府県、ニンジン47都道府県で栽培されている。

4. 寄生部位及びその症状

本種の成虫及び幼虫は、葉に寄生し、吸汁する(Hodkinson, 2009)。卵は葉に産み付けられる(Ouvrard, 2014)。展開した葉を加害し、変形を伴う虫こぶを形成する(Hodkinson, 2009)。

5. 移動分散方法

(1) 自然分散

本種に関しては情報が得られなかったが、通常は短距離飛翔で移動し、同属他種の飛翔能力から越冬地から繁殖地へ風により長距離飛翔が可能と考えられる。

(2) 人為分散

本種は、寄主植物(茎葉を含む苗、切葉、野菜等)に付着し、人為的に分散する可能性がある。

6. 有害動物の大きさ及び生態

(1) 有害動物の大きさ

成虫：前翅長が雄2.04~2.46 mm、雌2.26~2.63 mmであることから、体長は3 mm未満と考えられる(Hodkinson, 1981)。

(2) 繁殖様式

両性生殖。なお、単為生殖を行うことについての情報は無い。雌成虫は葉の表面に列状に産卵し、生涯400個くらいの卵を産む(Gerson, 2017)。

(3) 年間世代数

本種は、年間2~3世代発生する(Hodkinson, 2009)。地中海地域では年7~8世代の報告がある(Gerson, 2017)。

(4) 植物残さ中での生存

情報なし。

(5) 休眠性(越冬性)

本種の成虫は、針葉樹の樹皮のすき間で越冬する(Hodkinson, 2009)。

7. 媒介性又は被媒介性

本種は、セロリーやニンジンへLsoを媒介するベクターとなる。本種が媒介するLsoはハプロタイプD・Eである(Bertolini et al., 2015; Bob et al., 2013; CABI, 2014a; EPPO, 2013; FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Munyaneza et al., 2014)。同じLsoのベクターとして知られている同属の*Bactericera cockerelli*では垂直伝搬することが知られているが、本種でも垂直伝搬するかどうかは分かっていない(EPPO, 2013)。

8. 被害の程度

本種が媒介する Lso により、ニンジンでは、葉の変色・変形とそれに伴う根重量の低下が報告されている (Munyaneza et al., 2014)。フランスのあるほ場では、50%のニンジンで感染が確認され、収穫された種子の発芽率が 10~77%に低下したことから市場価値を失った (Loiseau et al., 2014)。ノルウェーでは商用栽培ほ場の 70~80%で Lso が発生し、発生ほ場における Lso の発症率は 10~100%であった (EPPO, 2012a)。

9. 防除

本種に関しては情報が得られなかったが、キジラミ類の防除には一般的に殺虫剤の使用が有効と考えられる。しかし、キジラミ類は非常に多産かつ世代間が短いため殺虫剤に対して抵抗性を持つものが現れる。したがって、本種の影響範囲と病害に関連した代替策を検討する必要があり、適切なほ場管理を加えた総合的な対処が求められる (CABI, 2014b)。

10. 日本における輸入検疫措置

本種は、植物防疫法施行規則 (農林省, 1950) 別表 1 に規定された検疫有害動物であり、同施行規則 1 の 2 に規定された国又は地域からの該当する寄主植物の生茎葉については、本種を発見するために適切と認められる方法による検査が行われ、かつ、本種に侵されていない旨 (本種について消毒を行った場合は、その旨を含む。) を検査証明書に特記することを要求している。

11. 諸外国における輸入検疫措置

大韓民国は、本種を禁止対象病害虫に指定しており、発生国からのニンジン及びセロリーの茎葉及び栽植用植物輸入を禁止している (APQA, 2023)。

12. 日本の輸入検査における *Bactericera trigonica* の発見件数 (2015~2024 年)

発見事例はなし。

IV-2. 病害虫リスクアナリシス

第1 開始（ステージ1）

1. 開始

Bactericera trigonica に対する現行の検疫措置の有効性を検討するため、病害虫リスクアナリシスを実施する。

2. 対象となる有害動植物

Bactericera trigonica を対象とする。

3. 対象となる経路

リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報の「2. 地理的分布」に示す「国又は地域」からの「3. 寄主植物及びその日本国内での分布」に示す「寄主植物」であって、「4. 寄生部位及びその症状」に示す「寄生部位」を含む植物を対象とする。

4. 対象となる地域

日本全域を対象とする。

5. 開始の結論

本種を開始点とし、その発生地域から輸入される植物を経路とした日本全域を対象とする病害虫リスクアナリシスを開始する。

第2 病害虫リスク評価（ステージ2）

1. 有害動植物の類別

ステージ1で特定された有害動植物について、国内における発生及び公的防除の有無、定着及びまん延の潜在性並びに経済的影響を及ぼす潜在性について調査し、検疫有害動植物となる潜在性を有するかを検討する。なお、以下の（1）～（3）の評価項目を満たしていない場合は、それが判明した時点で評価を中止できるものとする。

（1）有害動植物の国内での発生の有無及び公的防除の有無等

Bactericera trigonica は国内未発生である。

（2）定着及びまん延の潜在性

本種の寄主植物であるニンジン、47都道府県で栽培されていることから、本種が国内に入り込んだ場合、国内に定着及びまん延するおそれがある。

（3）経済的影響を及ぼす潜在性

本種はLsoのベクターであり、媒介するLsoによって、ニンジンでは葉の変色・変形とそれに伴う根重量の低下が報告されている。

したがって、本種は国内未発生であるが、本種が国内に入り込み、定着及びまん延した場合、経済的影響を及ぼすおそれがある。

（4）評価にあたっての不確実性

特になし。

（5）有害動植物の類別の結論

本種は国内未発生であるが、本種の寄主植物は47都道府県で栽培される。このことから、本種が国内に入り込んだ場合、定着及びまん延するおそれがある。また、本種はLsoのベクターであり、媒介するLsoによって、ニンジンでは葉の変色・変形とそれに伴う根重量の低下が報告されていることから、本種が国内に入り込み、定着及びまん延した場合、国内においても経済的影響を及ぼすことは否定できない。

したがって、本種は検疫有害動植物となる潜在性を有することから、引き続き「2. 農業生産等への影響の評価」で評価を行う。

2. 農業生産等への影響の評価

(1) 定着の可能性の評価

ア リスクアナリシスを実施する地域における潜在的検疫有害動植物の生存の可能性

(ア) 潜在的検疫有害動植物の生存の可能性

本種の寄主植物であるセロリーは45都道府県、ニンジンには47都道府県で栽培されている。施設栽培含め寄生部位は周年存在する。また、樹皮のすき間で越冬することができる。よって、本種が我が国に入り込んだ場合、生活環の維持が可能であり、国内に定着できると判断した。

(イ) リスクアナリシスを実施する地域における中間宿主の利用可能性

本種は有害動物なので評価しない。

(ウ) 潜在的検疫有害動植物の繁殖戦略

両性生殖。なお、単為生殖についての情報はない。よって、評価基準に基づき2点と評価した。

イ リスクアナリシスを実施する地域における寄主又は寄主植物の利用可能性及び環境の好適性

(ア) 寄主又は宿主植物の利用可能性及び環境の好適性

本種の寄主植物であるセロリーは45都道府県、ニンジンには47都道府県で栽培されており、本種にとって好適な環境が日本全域に存在することから、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 潜在的検疫有害動植物の寄主又は宿主範囲の広さ

本種は、セリ科及びキク科の2科の植物に寄生することが知られている。

(ウ) 有害動植物の侵入歴

本種は、旧北区及びエチオピア区の2区に分布する。よって、評価基準に基づき2点と評価した。

ウ 定着の可能性の評価結果

評価した項目の評価点の平均から、定着の可能性の評価点は5点満点中の3点となった。

(2) まん延の可能性の評価

ア 自然分散

(ア) 移動距離

本種に関しては情報が得られなかったが、通常は短距離飛翔で移動し、同属他種の飛翔能力から越冬地から繁殖地へ風により長距離飛翔が可能と考えられる。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 年間世代数

本種は、年間2～3世代発生する。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

イ 人為分散

(ア) 農作物を介した分散

本種の寄主植物であるセロリーは45都道府県、ニンジン47都道府県で栽培されている。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 非農作物を介した分散

情報なし。

ウ まん延の可能性の評価結果

評価した項目の評価点の平均から、まん延の可能性の評価点は5点満点中の5点となった。

(3) 経済的重要性の評価

ア 直接的影響

(ア) 影響を受ける農作物又は森林資源

Lsoの宿主植物と重複する本種の寄主植物である、ニンジン及びセロリーの農産物産出額の合計額は、666.2億円であることから、評価基準に基づき2点と評価した。

(イ) 生産への影響

本種の寄主植物であるセロリーは45都道府県、ニンジン47都道府県で栽培されている。これらの植物は生産農業所得統計の対象であり、発生国では、当該作期の商品生産に大きな支障を来す経済的被害や商品部位が直接的に被害を受けるもの又は1年生作物の高頻度の枯死が報告されている。よって、評価基準に基づき4点と評価した。

(ウ) 防除の困難さ

公的防除の情報はない。本種に関しては防除の情報が得られなかったが、キジラミ類の防除には一般的に殺虫剤の使用が有効であると考えられる。しかし、キジラミ類は非常に多産かつ世代間が短いため殺虫剤に対して抵抗性を持つものが現れる。したがって、本種の影響範囲と病害に関連した代替策を検討する必要があり、適切なほ場管理を加えた総合的な対処が求められる。

(エ) 直接的影響の評価結果

上記(ア)及び(イ)の評価点の積は8点となり、評価基準に基づき直接的影響の評価点は2点と評価した。

イ 間接的影響

(ア) 農作物の政策上の重要性

本種の寄主植物であるニンジンは「野菜生産出荷安定法施行令」で定める農作物に該当する。よって、評価基準に基づき1点と評価した。

(イ) 輸出への影響

大韓民国は、本種を禁止対象病害虫に指定しており、発生国からのニンジン、セロリー等の茎葉、栽植用植物及び栽植用種子の輸入を禁止している。よって、日本で本種が発生した場合、輸出の制限を受けることから評価基準に基づき1点と評価した。

ウ 経済的重要性の評価結果

直接的影響の評価点と間接的影響の評価点の和から、経済的重要性の評価点は5点満点中の4点となった。

(4) 評価における不確実性

本種の移動距離については情報が得られず、同属他種の情報を用いて評価したため、自然分散の評価には不確実性を伴う。

(5) 農業生産等への影響評価の結果（病害虫固有のリスク）

定着及びまん延の可能性並びに経済的重要性の各項目の評価点の積は60点となり、本種の農業生産等への影響の評価を「中程度」と結論付けた。

3. 入り込みの可能性の評価

項目	評価における判断の根拠等		
(1) 寄生部位	本種は幼虫・成虫共に葉の地上部に寄生し（外部寄生性）、雌成虫は葉の表面に列状に産卵する（外部寄生性）。また、成虫が越冬時に針葉樹の樹皮のすき間に入り込むこともある。		
(2) 国内に入り込む可能性のある経路	入り込む可能性のある経路は、〔栽植用植物〕、〔消費用生植物〕及び〔消費用木材（樹皮付き）・樹皮〕が考えられる。		
	用途	部位	経路となる可能性
	ア 栽植用植物	葉、針葉樹の樹皮のすき間	○
	イ 消費用生植物	葉、針葉樹の樹皮のすき間	○
ウ 消費用木材（樹皮付き）・樹皮	針葉樹の樹皮のすき間	○	
(3) 寄主植物の輸入検査量	別紙IV-3参照		

(4) 入り込みの可能性の評価

ア 栽植用植物

(ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）

輸送中及び貯蔵中に生存率に影響を与えるような加工は実施されない。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ

本種は外部寄生で、成虫の体長は3mm未滿。よって、評価基準に基づき2点と評価した。

(ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性

栽植用植物は、栽培施設、ほ場等へ直接持ち込まれる。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(エ) 輸入品目からの自然分散の可能性

栽植用植物は、栽植用として利用されることで入り込みが完了する。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

- (オ) 評価における不確実性
特になし。

栽植用植物からの入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の評価点の平均値は4.3点（小数第二位を四捨五入）であり、栽植用植物を経路とした場合の本種の入り込みの可能性の評価を「高い」と結論付けた。

イ 消費用生植物

- (ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）
輸送中及び貯蔵中に生存率に影響を与えるような加工は実施されない。よって、評価基準に基づき5点と評価した。
- (イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ
本種は外部寄生で、成虫の体長は3mm未満。よって、評価基準に基づき2点と評価した。
- (ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性
本種の主要な寄主植物であるセロリーは45都道府県、ニンジンも47都道府県で生産されている。よって、評価基準に基づき4点と評価した。
- (エ) 輸入品目からの自然分散の可能性
本種に関しては情報が得られなかったが、通常は短距離飛翔で移動し、同属他種の飛翔能力から、風により長距離飛翔が可能と考えられる。よって、評価基準に基づき3点と評価した。
- (オ) 評価における不確実性
本種の移動距離については情報が得られず、同属他種の情報を用いて評価したため、自然分散の評価には不確実性が伴う。

消費用生植物からの入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の評価点の平均値は3.5点であり、消費用生植物を経路とした場合の本種の入り込みの可能性の評価を「中程度」と結論付けた。

ウ 消費用木材（樹皮付き）・樹皮

- (ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）
輸送中及び貯蔵中に生存率に影響を与えるような加工は実施されない。よって、評価基準に基づき5点と評価した。
- (イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ
本種の成虫は樹皮のすき間で越冬するため、成虫が対象となり、成虫の体長は3mm未満。よって、評価基準に基づき4点と評価した。
- (ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性
本種の主要な寄主植物であるセロリーは45都道府県、ニンジンも47都道府県で生産されている。よって、評価基準に基づき4点と評価した。
- (エ) 輸入品目からの自然分散の可能性
対象は越冬中の成虫の自然分散であるが、越冬中又は越冬明け直後の成虫が長距離飛翔を行うか不明であるため、評価基準に基づき2点と評価した。
- (オ) 評価における不確実性

越冬中の成虫の飛翔に関する情報はないため、短距離飛翔として評価を行ったことから、自然分散の可能性の評価については不確実性が伴う。

消費用木材（樹皮付き）・樹皮からの入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の評価点の平均値は3.8点（小数第二位を四捨五入）であり、消費用木材（樹皮付き）・樹皮を経路とした場合の本種の入り込みの可能性の評価を「中程度」と結論付けた。

4. *Bactericera trigonica* の病害虫リスク評価の結論

本種は検疫有害動物であり、栽植用植物、消費用生植物及び消費用木材（樹皮付き）・樹皮を経路として入り込み、農業生産等へ影響を及ぼす可能性があるとして評価した。

農業生産等への影響評価の結論 (病害虫固有のリスク)	入り込みの可能性の評価		病害虫リスク評価の結論
	用途	結論	
中程度	栽植用植物	高い	中程度（入り込みの可能性が高い）
	消費用生植物	中程度	低い
	消費用木材（樹皮付き）・樹皮	中程度	低い

Bactericera trigonica の発生国等の根拠

国又は地域	ステータス	根拠文献	備考
中東			
イスラエル※	発生	Ouvrard and Burckhardt, 2012; Ouvrard, 2014	
イラン	発生	Ouvrard and Burckhardt, 2012; Ouvrard, 2014	
トルコ※	発生	Ouvrard and Burckhardt, 2012; Ouvrard, 2014	
欧州			
イタリア※	発生	Ouvrard and Burckhardt, 2012; Ouvrard, 2014	
キプロス	発生	Ouvrard and Burckhardt, 2012; Ouvrard, 2014	
ギリシャ※	発生	Ouvrard and Burckhardt, 2012; Ouvrard, 2014	
スイス	発生	Ouvrard and Burckhardt, 2012; Ouvrard, 2014	
スペイン※	発生	Bob et al., 2013; CABI, 2014a; EPPO, 2013; FERA, 2014; Loiseau et al., 2014; Munyaneza et al., 2014; Ouvrard and Burckhardt, 2012; Ouvrard, 2014	
スロバキア	発生	Ouvrard and Burckhardt, 2012; Ouvrard, 2014	
セルビア※	発生	EPPO, 2019b; Jerinić-Prodanović et al., 2017; Trkulja et al., 2021	
チェコ	発生	Ouvrard and Burckhardt, 2012; Ouvrard, 2014	
ハンガリー	発生	EPPO, 2019b; Ouvrard and Burckhardt, 2012; Ripka et al., 2008	
フランス※	発生	Coussy et al., 2017; EPPO, 2019b; Ouvrard and Burckhardt, 2012	
ポルトガル※	発生	Ouvrard and Burckhardt, 2012; Ouvrard, 2014	
マルタ	発生	Ouvrard and Burckhardt, 2012; Ouvrard, 2014	
アフリカ			
アルジェリア	発生	Ouvrard and Burckhardt, 2012; Ouvrard, 2014	
エジプト	発生	Ouvrard and Burckhardt, 2012; Ouvrard, 2014	
カナリア諸島※	発生	Bob et al., 2013; CABI, 2014a; EPPO, 2012b, 2013; FERA, 2014; Loiseau et al., 2014; Munyaneza et al., 2014; Ouvrard and Burckhardt, 2012; Ouvrard, 2014	
チュニジア※	発生	Ben Othmen et al., 2018a, b; EPPO, 2019a, b	
モロッコ※	発生	EPPO, 2019b; Tahzima et al., 2017	

※ 'Candidatus Liberibacter solanacearum' の発生国

Bactericera trigonica の寄主植物の根拠

科名	学名	シノニム	和名		英名	根拠文献	備考
			属名	種名			
キク科 (Compositae)	<i>Ambrosia artemisiifolia</i>		ブタクサ属	ブタクサ		Ouvrard, 2014	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Apium graveolens</i> [※]		オランダミツバ属	セロリー	celery	Bob et al., 2013; CABI, 2014a; EPPO, 2013; FERA, 2014; Munyaneza et al., 2014	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Daucus</i> spp.		ニンジン属			Ouvrard, 2014	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Daucus carota</i> [※]		ニンジン属	ニンジン	carrot	Bob et al., 2013; CABI, 2014a; EPPO, 2012b, 2013; FERA, 2014; Munyaneza et al., 2014; Ouvrard, 2014	

※ 'Candidatus Liberibacter solanacearum' の宿主植物

***Bactericera trigonica* の寄主植物に関連する経路の年間輸入検査量
(発生国からの貨物、郵便物及び携帯品)**

(1) 栽植用植物

実績なし

(2) 消費用生植物 (切り花)

実績なし

(3) 消費用生植物 (茎葉)

単位 (数量) : kg

植物名	生産国	2022		2023		2024	
		件数	数量	件数	数量	件数	数量
Apium graveolens(セリ)	スペイン	1	9				

(4) 消費用木材

針葉樹については、寄主植物として特定された植物はないため、輸入検査実績は記載しない。

引用文献

- APQA (2023) Animal and Plant Quarantine Agency: Plant import prohibition list. (online), available from <https://www.qia.go.kr/plant/imQua/plant_no_imp.jsp>, (accessed 2025-09-30).
- Ben Othmen, S., F. E. Morán, I. Navarro, S. Barbé, C. Martínez, E. Marco-Noales and M. M. López (2018a) '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' haplotypes D and E in carrot plants and seeds in Tunisia. *Journal of Plant Pathology* 100: 197-207.
- Ben Othmen, S., K. Abbes, M. El Imem, D. Ouvrard, C. Rapisarda and B. Chermiti (2018b) *Bactericera trigonica* and *B. nigricornis* (Hemiptera: Psylloidea) in Tunisia as potential vectors of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on Apiaceae. *Oriental Insects* 53: 1-13. (online), available from <<https://doi.org/10.1080/00305316.2018.1536003>>, (accessed 2022-11-17).
- Bertolini, E., G. R. Teresani, M. Loiseau, F. A. O. Tanaka, S. Barbé, C. Martínez, P. Gentit, M. M. López and M. Cambra (2015) Transmission of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in carrot seeds. *Plant Pathology* 64: 276-285.
- Bob, F., S. Ian, P. Andy, S. Grant, D. V. Jessica, G. G. Robin, T. Natasha and W. Graham (2013) TPP/Lso supporting research. The New Zealand Institute for Plant & Food Research Limited. (online), available from <<http://www.potatoesnz.co.nz/users/Image/Downloads/PDFs/Appdx-7-PNZ-Agronomists-Forum-13-TPP-Liberibacter.pdf>>, (accessed 2022-11-17).
- CABI (2014a) *Candidatus Liberibacter solanacearum*. Crop Protection Compendium. (online), available from <<http://www.cabi.org/cpc/>>, (accessed 2014-08-25).
- CABI (2014b) *Bactericera cockerelli*. Crop Protection Compendium. (online), available from <<http://www.cabi.org/cpc/>>, (accessed 2014-08-25).
- Coussy, B., E. Morel, G. Fourment and D. Ouvrard (2017) Identification of the psyllid *Bactericera trigonica* Hodkinson in carrot seed crop in France. In: *Écologie Chimique: nouvelles contributions à la protection des cultures contre les ravageurs et 11e Conférence Internationale sur les Ravageurs et Auxiliaires en Agriculture*, 24 au 26 octobre 2017. Montpellier, France: 110-117. (Abstract).
- EPPO (2012a) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on carrots in Norway, in association with *Trioza apicalis*. EPPO Reporting Service 6: 4.
- EPPO (2012b) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in Honduras. EPPO Reporting Service 6: 2.
- EPPO (2013) '*Candidatus Liberibacter solanacearum*'. EPPO Bulletin 43: 197-201.
- EPPO (2019a) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' and its vectors *Bactericera trigonica* and *B. nigricornis* in Tunisia. EPPO Reporting Service (2019/020).
- EPPO (2019b) *Bactericera trigonica*. EPPO Global Database. (online), available from <<https://gd.eppo.int/taxon/BCTCTR/>>, (accessed 2019-11-25).
- FERA (2014) Rapid pest risk analysis for *Candidatus Liberibacter solanacearum*. The Food and Environment Research Agency.
- Gerson, U. (2017) Plant pests on the Middle East. (online), available from <http://www.agri.huji.ac.il/mepests/pest/Bactericera_trigonic/>, (accessed 2022-11-17).
- Halbert, S. and J. E. Munyaneza (2012) Potato psyllids and their associated pathogens: A diagnostic aid. (online), available from <http://www.fsca-dpi.org/Homoptera_Hemiptera/Potato_psyllids_and_associated_pathogens.pdf>, (accessed 2022-11-17).
- Hodkinson, I. D. (1981) Status and taxonomy of the *Trioza (Bactericera) nigricornis* Förster complex

- (Hemiptera: Triozidae). Bulletin of Entomological Research 71: 671-679.
- Hodkinson, I. D. (2009) Life cycle variation and adaptation in jumping plant lice (Insecta: Hemiptera: Psylloidea): a global synthesis. Journal of Natural History 43: 65-179.
- Jerinić-Prodanović, D., A. Obradović, M. Ivanović, A. Prokić, N. Zlatković and Ž. Pavlović (2017) Rasprostranjenost, biologija i štetnost mrkvine lisne buve *Bactericera trigonica* (Hodkinson, 1981) (Hemiptera, Triozidae) u Srbiji. Biljni lekar/Plant Doctor 45: 375-384. (online), available from <<http://aspace.agrif.bg.ac.rs/bitstream/id/3077/4548.pdf>>, (accessed 2022-11-17).
- Loiseau, M., S. Garnier, V. Boirin, M. Merieau, A. Leguay, I. Renaudin, J. P. Renvoisé and P. Gentit (2014) First report of 'Candidatus Liberibacter solanacearum' in carrot in France. Plant Disease 98: 839.
- Munyaneza, J. E., V. G. Sengoda, L. Sundheim and R. Meadow (2014) Survey of "Candidatus Liberibacter solanacearum" in carrot crops affected by the psyllid *Trioza apicalis* (Hemiptera: Triozidae) in Norway. Journal of Plant Pathology 96: 397-402.
- Munyaneza, J. E. (2014) Biology and management of 'Candidatus Liberibacter solanacearum' in Solanaceous crops: Case of zebra chip disease of potato. USDA. (online), available from <http://www.symphosiumbacterias.mx/files/magistrales/biology_of_zebra_chip.pdf>, (accessed 2018-02-06).
- 農林省 (1950) 植物防疫法施行規則 (昭和 25 年農林省令第 73 号) .
- Ouvrard, D. and D. Burckhardt (2012) First record of the onion psyllid *Bactericera tremblayi* (Wagner, 1961) in France (Insecta: Hemiptera: Sternorrhyncha: Psylloidea), new symptoms on leek crops and reassessment of the *B. nigricornis*-group distribution. Bulletin OEPP/EPPO Bulletin 42: 585-590. (Abstract). (online), available from <<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/pdf/10.1111/epp.12005>>, (accessed 2019-11-25).
- Ouvrard, D. (2014) Psyllist - The World Psylloidea Database. Natural History Museum. (online), available from <<https://data.nhm.ac.uk/dataset/psyl-list/resource/8746ceec-4846-4899-b607-9ba603002033>>, (accessed 2014-08-26).
- Ripka, G. and K. Balazs (2008) További adatok a hazai parlagfüállományokban előforduló Levélbolha-Fajok (Hemiptera: Psylloidea) ismeretéhez. Növényvédelem 44: 257-261.
- Tahzima, R., S. Massart, E. H. Achbani, J. E. Munyaneza and D. Ouvrard (2017) First report of 'Candidatus Liberibacter solanacearum' associated with the psyllid *Bactericera trigonica* Hodkinson on carrots in Northern Africa. Plant Disease 101: 242.
- Trkulja, V., P. Mitrovic, J. M. Salapura, R. Iličić, B. Ćurković, I. Djalovic and T. Popović (2021) First report of 'Candidatus Liberibacter solanacearum' on carrot in Serbia. Plant Disease 105: 1188.

V. *Bactericera nigricornis* (Lso のベクター)

V-1. リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報

1. 学名及び分類

(1) 学名

Bactericera nigricornis (Foerster, 1848)

(2) 英名、和名等 (Avidov and Harpaz, 1969)

英名 : carrot psylla

和名 : なし

(3) 分類 (Ouvrard, 2014)

種類 : 節足動物

目 : Hemiptera (カメムシ目)

科 : Triozidae (トガリキジラミ科)

属 : *Bactericera*

(4) シノニム

Trioza nigricornis Foerst. (Avidov and Harpaz, 1969; Halbert and Munyaneza, 2012; Ouvrard, 2014; Rivnay, 1962)

Trioza brassicae (Vasil'ev 1922) (Halbert and Munyaneza, 2012; Ouvrard, 2014)

Enbactericera nigricornis (Foerster, 1848) (Ouvrard, 2014)

Bactericera brassicae (Vasil'ev) (Halbert and Munyaneza, 2012; Ouvrard, 2014)

2. 地理的分布

(1) 国又は地域 (詳細は別紙V-1参照)

アジア : インド、中華人民共和国、ネパール、モンゴル

中東 : アフガニスタン、イスラエル、イラン、トルコ、レバノン

欧州 : アゼルバイジャン、アルメニア、イタリア、ウズベキスタン、オーストリア、オランダ、カザフスタン、ジョージア、スイス、スウェーデン、スペイン、スロバキア、スロベニア、セルビア、タジキスタン、チェコ、ドイツ、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、リトアニア、ルーマニア、ロシア

アフリカ : アルジェリア、チュニジア、モロッコ

本種は、欧州、中央アジア、中東及び北アフリカに分布する (Avidov and Harpaz, 1969; FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Malenovský et al., 2012; Rivnay, 1962)。

(2) 生物地理区

本種は、旧北区、東洋区、及びエチオピア区の3区に分布する。

(3) 本種及びLsoが共に存在する国又は地域

イスラエル、イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、セルビア、ドイツ、ノルウェー、フィンランド、フランス、ベルギー、チュニジア及びモロッコ

3. 寄主植物及びその日本国内での分布

(1) 寄主植物（詳細は別紙V-2参照）

アカザ科：シロザ (*Chenopodium album*)、テンサイ (*Beta vulgaris*)

アブラナ科：エリシムム・ケイラントイデス (エゾスズシロ) (*Erysimum cheiranthoides*)、グンバイナズナ (*Thlaspi arvense*)、セイヨウノダイコン (*Raphanus raphanistrum*)、ナズナ (*Capsella bursa-pastoris*)、ハツカダイコン (*Raphanus sativus* var. *sativus*)、アブラナ属 (*Brassica* spp.)

キク科：セイヨウトゲアザミ (*Cirsium arvense*)、ノボロギク (*Senecio vulgaris*)、ブタクサ (*Ambrosia artemisiifolia*)

セリ科：オランダゼリ (*Petroselinum crispum* (= *P. hortense*, *P. sativum*))、ニンジン (*Daucus carota*)

ナス科：シロバナヨウシュチヨウセンアサガオ (*Datura stramonium*)、ナス属 (*Solanum* spp.)

ヒルガオ科：セイヨウヒルガオ (*Convolvulus arvensis*)

ユリ科：タマネギ (*Allium cepa*)

(2) Lso の宿主植物と共通の本種の寄主植物

オランダゼリ、ニンジン、シロザ及びバレイショを含むナス属の数種

(3) 日本国内における寄主植物の分布及び栽培状況

本種の寄主植物であるニンジン、バレイショ等は47都道府県で栽培されている。

4. 寄生部位及びその症状

成虫は葉に産卵し、幼虫はふ化した場所に寄生し、完全に発育するまでは移動しない (Avidov and Harpaz, 1969)。展開した葉を加害し、変形を伴う虫こぶを形成する (Hodkinson, 2009)。

5. 移動分散方法

(1) 自然分散

本種に関しては情報が得られなかったが、通常は短距離飛翔で移動し、同属他種の飛翔能力から越冬地から繁殖地へ風により長距離飛翔が可能と考えられる。

(2) 人為分散

寄主植物（茎葉を含む苗、切葉、野菜等）に付着し人為的に分散する可能性がある。

6. 有害動物の大きさ及び生態

(1) 有害動物の大きさ

卵は黄赤色で0.4 mm、成虫は体長（翅端まで）4 mmである (Rivnay, 1962)。

(2) 繁殖様式

両性生殖。なお、単為生殖についての情報はない。

(3) 年間世代数

ニンジンの葉の裏側に卵を 300~400 個産卵する。卵はそれぞれの間隔を少し置いて並ぶ。幼虫はふ化した場所に寄生し、完全に発育するまでは移動しない。卵は 20°C でふ化し、幼虫は 17°C で 24 日間。最適条件下では 35~40 日で卵から成虫になる。1 年間で 7~8 世代まで発生する (Avidov and Harpaz, 1969; Rivnay, 1962)。

(4) 植物残さ中での生存 情報なし。

(5) 休眠性 (越冬性)

成虫は様々な野生の針葉樹の樹皮のすき間で越冬する (Avidov and Harpaz, 1969; Hodkinson, 1981)。

7. 媒介性又は被媒介性

本種は、ニンジンやバレイショへ Lso を媒介するベクターとなる可能性が指摘されている (FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Munyaneza, 2014)。イランでは本種の発生しているバレイショほ場から、zebra chip と示唆される被害が報告されており、Lso との関連が疑われている (イランは Lso の発生地域とされていない) (Alyokhin et al., 2012; Fathi, 2011; Halbert and Munyaneza, 2012)。同じ Lso のベクターとして知られている同属の *Bactericera cockerelli* では垂直伝搬することが知られているが (EPPO, 2013)、本種が垂直伝搬するかどうか情報は無い。

8. 被害の程度

本種の排せつ物によってニンジンの葉にすす病を引き起こすことがあり、葉が汚れることで生育が弱り、生育が止まることがある。被害が著しい場合、ニンジンの幼苗は枯死し、畑が全滅することもある (Avidov and Harpaz, 1969)。本種の加害では葉の萎縮は起こらない (Rivnay, 1962)。本種は Lso を媒介すると考えられており、ニンジン、バレイショ等に大きな被害を及ぼすと考えられる。

また、本種はイランにおけるバレイショの重要病害虫であり、深刻な被害を引き起こす。加害されたバレイショ塊茎では、zebra chip と示唆される症状が増加している。しかし、本種によってバレイショに Lso による zebra chip 症状が発生するのかについての調査研究は行われていない (Alyokhin et al., 2012)。

9. 防除

本種の一般的な防除方法は、殺虫剤 (ダイアジノン、マラチオン、デメトン-S-メチル及びホスファミドン) の散布である (Avidov and Harpaz, 1969; Rivnay, 1962)。また、抵抗性品種 (バレイショ : Agria) の導入が個体増加率を低減させ、雌の産卵数を減少させることが報告されている (Potatoes New Zealand Growing together, 2011)。

10. 日本における輸入検疫措置

本種は、植物防疫法施行規則 (農林省, 1950) 別表 1 に規定された検疫有害動物であり、同施行規則 2 の 2 に規定された国又は地域からの該当する寄主植物の生茎葉及び生果実については、本種を発見するために適切と認められる方法による検査が行われ、かつ、本種に侵されていない旨 (本種について消毒を行った場合は、その旨を含む。) を検査証明書に特記することを要求し

ている。

1 1. 諸外国における輸入検疫措置

本種を対象に輸入禁止等の検疫措置を講じている国はない。

1 2. 日本の輸入検査における *Bactericera nigricornis* の発見件数 (2015~2024 年)

発見事例はなし。

V-2. 病害虫リスクアナリシス

第1 開始（ステージ1）

1. 開始

Bactericera nigricomis に対する現行の検疫措置の有効性を検討するため、病害虫リスクアナリシスを実施する。

2. 対象となる有害動植物

Bactericera nigricomis を対象とする。

3. 対象となる経路

リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報の「2. 地理的分布」に示す「国又は地域」からの「3. 寄主植物及びその日本国内での分布」に示す「寄主植物」であって、「4. 寄生部位及びその症状」に示す「寄生部位」を含む植物を対象とする。

4. 対象となる地域

日本全域を対象とする。

5. 開始の結論

本種を開始点とし、その発生地域から輸入される植物を経路とした日本全域を対象とする病害虫リスクアナリシスを開始する。

第2 病害虫リスク評価（ステージ2）

1. 有害動植物の類別

ステージ1で特定された有害動植物について、国内における発生及び公的防除の有無、定着及びまん延の潜在性並びに経済的影響を及ぼす潜在性について調査し、検疫有害動植物となる潜在性を有するかを検討する。なお、以下の（1）～（3）の評価項目を満たしていない場合は、それが判明した時点で評価を中止できるものとする。

（1）有害動植物の国内での発生の有無及び公的防除の有無等

Bactericera nigricomis は国内未発生である。

（2）定着及びまん延の潜在性

本種の寄主植物であるニンジン、バレイショ等は、47都道府県で栽培されていることから、本種が国内に入り込んだ場合、国内に定着及びまん延するおそれがある。

（3）経済的影響を及ぼす潜在性

本種はLsoを媒介すると考えられており、加害されたバレイショ塊茎では、zebra chipと示唆される症状が増加しているとの報告がある。また、本種の排せつ物によってニンジンの葉にすす病を引き起こすことがあり、葉が汚れることで生育が弱り、生育が止まることがある。被害が著しい場合、ニンジンの幼苗は枯死し、畑が全滅することもある。

したがって、本種は国内未発生であるが、本種が国内に入り込み、定着及びまん延した場合、経済的影響を及ぼすおそれがある。

（4）評価にあたっての不確実性

特になし。

(5) 有害動植物の類別の結論

本種は国内未発生であるが、本種の寄主植物は47都道府県で栽培される。このことから、本種が国内に入り込んだ場合、定着及びまん延するおそれがある。また、本種はLsoを媒介すると考えられており、加害されたバレイショ塊茎では、zebra chipと示唆される症状が増加しているとの報告がある。本種の排せつ物によってニンジンの葉にすす病を引き起こすことがあり、葉が汚れることで生育が弱り、生育が止まることがある。被害が著しい場合、ニンジンの幼苗は枯死し、畑が全滅することもあることから、本種が国内に入り込み、定着及びまん延した場合、国内においても経済的影響を及ぼすことは否定できない。

したがって、本種は検疫有害動植物となる潜在性を有することから、引き続き「2. 農業生産等への影響の評価」で評価を行う。

2. 農業生産等への影響の評価

(1) 定着の可能性の評価

ア リスクアナリシスを実施する地域における潜在的検疫有害動植物の生存の可能性

(ア) 潜在的検疫有害動植物の生存の可能性

本種の寄主植物であるニンジン、バレイショ等は47都道府県で栽培されている。施設栽培含め寄生部位が周年存在する。また、樹皮のすき間で越冬することができる。よって、本種が我が国に入り込んだ場合、生活環の維持が可能であり、国内に定着できると判断した。

(イ) リスクアナリシスを実施する地域における中間宿主の利用可能性

本種は有害動物なので評価しない。

(ウ) 潜在的検疫有害動植物の繁殖戦略

両性生殖。なお、単為生殖についての情報はない。よって、評価基準に基づき2点と評価した。

イ リスクアナリシスを実施する地域における寄主又は寄主植物の利用可能性及び環境の好適性

(ア) 寄主又は宿主植物の利用可能性及び環境の好適性

本種の寄主植物であるニンジン、バレイショ等は47都道府県で栽培されており、本種にとって好適な環境が日本全域に存在することから、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 潜在的検疫有害動植物の寄主又は宿主範囲の広さ

本種はアカザ科、アブラナ科、キク科、セリ科、ナス科、ヒルガオ科及びユリ科の7科の植物に寄生することが知られている。

(ウ) 有害動植物の侵入歴

本種は、旧北区、東洋区及びエチオピア区の3区に分布する。よって、評価基準に基づき3点と評価した。

ウ 定着の可能性の評価結果

評価した項目の評価点の平均から、定着の可能性の評価点は5点満点中の3.3点（小数第二位を四捨五入）となった。

(2) まん延の可能性の評価

ア 自然分散

(ア) 移動距離

本種に関しては情報が得られなかったが、通常は短距離飛翔で移動し、同属他種の飛翔能力から越冬地から繁殖地へ風により長距離飛翔が可能と考えられる。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 年間世代数

本種は年間で7～8世代まで発生する。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

イ 人為分散

(ア) 農作物を介した分散

本種の寄主植物であるニンジン、バレイショ等は47都道府県で栽培されている。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 非農作物を介した分散

情報なし。

ウ まん延の可能性の評価結果

評価した項目の評価点の平均から、まん延の可能性の評価点は5点満点中の5点となった。

(3) 経済的重要性の評価

ア 直接的影響

(ア) 影響を受ける農作物又は森林資源

Lsoの宿主植物と重複する本種の寄主植物であるバレイショ、ニンジン等の農産物産出額の合計額は、1,756億円であることから、評価基準に基づき3点と評価した。

(イ) 生産への影響

寄主植物であるニンジン、バレイショ等は47都道府県で栽培されている。これらの植物は生産農業所得統計の対象であり、発生国では、当該作期の商品生産に大きな支障を来す経済的被害や商品部位が直接的に被害を受けるもの又は1年生作物の高頻度の枯死が報告されている。よって、評価基準に基づき4点と評価した。

(ウ) 防除の困難さ

公的防除の情報はない。本種の一般的な防除方法は、殺虫剤（ダイアジノンやマラチオン、あるいはデメトン-S-メチルやホスファミドン）の散布である。また、抵抗性品種（バレイショ：Agria）の導入が個体増加率を低減させ、雌の産卵数を減少させることが報告されている。

(エ) 直接的影響の評価結果

上記（ア）及び（イ）の評価点の積は12点となり、評価基準に基づき直接的影響の評価点は3点と評価した。

イ 間接的影響

(ア) 農作物の政策上の重要性

寄主となるニンジンは「野菜生産出荷安定法施行令」で定める農作物に該当する。よって、評価基準に基づき1点と評価した。

(イ) 輸出への影響

特になし。

ウ 経済的重要性の評価結果

直接的影響の評価点と間接的影響の評価点の和から、経済的重要性の評価点は5点満点中の4点となった。

(4) 評価における不確実性

本種の移動距離については情報が得られず、同属他種の情報を用いて評価したため、自然分散の評価には不確実性を伴う。

(5) 農業生産等への影響評価の結果（病害虫固有のリスク）

定着及びまん延の可能性並びに経済的重要性の各項目の評価点の積は66.7点（小数第二位を四捨五入）となり、本種の農業生産等への影響の評価を「高い」と結論付けた。

3. 入り込みの可能性の評価

項目	評価における判断の根拠等		
(1) 寄生部位	本種は幼虫・成虫共に葉に寄生し（外部寄生性）、葉に卵を産み付ける（外部寄生性）。また、成虫が越冬時に針葉樹の樹皮のすき間に入り込むこともある。		
(2) 国内に入り込む可能性のある経路	入り込む可能性のある経路は、〔栽植用植物〕、〔消費用生植物〕及び〔消費用木材（樹皮付き）・樹皮〕が考えられる。		
	用途	部位	経路となる可能性
	ア 栽植用植物	葉、針葉樹の樹皮のすき間	○
	イ 消費用生植物	葉、針葉樹の樹皮のすき間	○
ウ 消費用木材（樹皮付き）・樹皮	針葉樹の樹皮のすき間	○	
(3) 寄主植物の輸入検査量	別紙V-3参照		

(4) 入り込みの可能性の評価

ア 栽植用植物

(ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）

輸送中及び貯蔵中に生存率に影響を与えるような加工は実施されない。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ

本種は外部寄生で、成虫の大きさは4mm、卵は0.4mm。よって、評価基準に基づき2点と評価した。

(ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性

栽植用植物は、栽培施設、ほ場等へ直接持ち込まれる。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

(エ) 輸入品目からの自然分散の可能性

栽植用植物は、栽植用として利用されることで入り込みが完了する。よって、評価基準

- に基づき5点と評価した。
(オ) 評価における不確実性
特になし。

栽植用植物からの入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の評価点の平均値は4.3点（小数第二位を四捨五入）であり、栽植用植物を経路とした場合の本種の入り込みの可能性の評価を「高い」と結論付けた。

イ 消費用生植物

- (ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）
輸送中及び貯蔵中に生存率に影響を与えるような加工は実施されない。よって、評価基準に基づき5点と評価した。
- (イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ
本種は外部寄生で、成虫の大きさは4mm、卵は0.4mm。よって、評価基準に基づき2点と評価した。
- (ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性
本種の主要な寄主植物であるバレイショ、ニンジン等は47都道府県で生産されている。よって、評価基準に基づき4点と評価した。
- (エ) 輸入品目からの自然分散の可能性
本種に関しては情報が得られなかったが、同属他種の飛翔能力から、風により長距離飛翔が可能と考えられる。評価基準に基づき3点と評価した。
- (オ) 評価における不確実性
本種の移動距離については情報が得られず、同属他種の情報を用いて評価したため、自然分散の評価には不確実性が伴う。

消費用生植物からの入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の評価点の平均値は3.5点であり、消費用生植物を経路とした場合の本種の入り込みの可能性の評価を「中程度」と結論付けた。

ウ 消費用木材（樹皮付き）・樹皮

- (ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）
輸送中及び貯蔵中に生存率に影響を与えるような加工は実施されない。よって、評価基準に基づき5点と評価した。
- (イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ
本種の成虫は樹皮のすき間で越冬するため、成虫が対象となり、成虫の大きさは4mm。よって、評価基準に基づき3点と評価した。
- (ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性
本種の主要な寄主植物であるバレイショ、ニンジン等は47都道府県で生産されている。よって、評価基準に基づき4点と評価した。
- (エ) 輸入品目からの自然分散の可能性
対象は越冬中の成虫の自然分散であるが、越冬中又は越冬明け直後の成虫が長距離飛翔を行うか不明であるため、評価基準に基づき2点と評価した。
- (オ) 評価における不確実性

越冬中の成虫の飛翔に関する情報はないため、短距離飛翔として評価を行ったことから、自然分散の可能性の評価については不確実性が伴う。

消費用木材（樹皮付き）・樹皮からの入り込みの可能性の評価の結論
 評価を行った項目の評価点の平均値は3.5点であり、消費用木材（樹皮付き）・樹皮を経路とした場合の本種の入り込みの可能性の評価を「中程度」と結論付けた。

4. *Bactericera nigricornis* の病害虫リスク評価の結論

本種は検疫有害動物であり、栽植用植物、消費用生植物及び消費用木材（樹皮付き）・樹皮を経路として入り込み、農業生産等へ影響を及ぼす可能性があるとして評価した。

農業生産等への影響評価の結論 (病害虫固有のリスク)	入り込みの可能性の評価		病害虫リスク評価の結論
	用途	結論	
高い	栽植用植物	高い	高い
	消費用生植物	中程度	中程度（農業生産等への影響が高い）
	消費用木材（樹皮付き）・樹皮	中程度	中程度（農業生産等への影響が高い）

Bactericera nigricornis の発生国等の根拠

国又は地域	ステータス	根拠文献	備考
アジア			
インド	発生	Halbert and Munyaneza, 2012	
中華人民共和国	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Ouvrard, 2014	
ネパール	発生	Halbert and Munyaneza, 2012	
モンゴル	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Malenovský et al., 2012; Ouvrard, 2014	
中東			
アフガニスタン	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981; Ouvrard, 2014	
イスラエル*	発生	Avidov and Harpaz, 1969; Halbert and Munyaneza, 2012; Rivnay, 1962	
イラン	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Malenovský et al., 2012; Ouvrard, 2014	
トルコ	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981; Malenovský et al., 2012; Ouvrard, 2014	
レバノン	発生	Ouvrard, 2014	
欧州			
アゼルバイジャン	発生	Halbert and Munyaneza, 2012	
アルメニア	発生	Halbert and Munyaneza, 2012	
イタリア*	発生	Halbert and Munyaneza, 2012	
ウズベキスタン	発生	Malenovský et al., 2012; Ouvrard, 2014	
オーストリア*	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981	
オランダ	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981	
カザフスタン	発生	FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Ouvrard, 2014	
ジョージア	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Ouvrard, 2014	
スイス	発生	Halbert and Munyaneza, 2012	
スウェーデン*	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981; Ouvrard, 2014	
スペイン*	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981	
スロバキア	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981	
スロベニア	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Ouvrard, 2014	
セルビア*	発生	Halbert and Munyaneza, 2012	
タジキスタン	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Malenovský et al., 2012; Ouvrard, 2014	
チェコ	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981	
ドイツ*	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981	

ノルウェー※	発生	FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Ouvrard, 2014	
ハンガリー	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981; Ouvrard, 2014;	
フィンランド※	発生	FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981	
フランス※	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981	
ブルガリア	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981	
ベルギー※	発生	EPPO, 2018;	
ポーランド	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981	
リトアニア	発生	FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Ouvrard, 2014	
ルーマニア	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981	
ロシア	発生	Malenovský et al., 2012; Ouvrard, 2014	
アフリカ			
アルジェリア	発生	Halbert and Munyaneza, 2012; Ouvrard, 2014	
チュニジア※	発生	Ben Othmen et al., 2018a, 2018b; EPPO, 2019	
モロッコ※	発生	FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981	

※ ‘*Candidatus Liberibacter solanacearum*’の発生国

Bactericera nigricornis の寄主植物の根拠

科名	学名	シノニム	和名		英名	根拠文献	備考
			属名	種名			
アカザ科 (Chenopodiaceae)	<i>Beta vulgaris</i>		フダンソウ属	テンサイ	beet	Hodkinson, 1981; Rivnay, 1962;	
アカザ科 (Chenopodiaceae)	<i>Chenopodium album</i> **		アカザ属	シロザ		Hodkinson, 1981	
アブラナ科 (Cruciferae)	<i>Brassica</i> spp.		アブラナ属			Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981; Ouvrard, 2014	
アブラナ科 (Cruciferae)	<i>Brassica campestris</i>		アブラナ属			Hodkinson, 1981	
アブラナ科 (Cruciferae)	<i>Brassica oleracea</i> var. <i>capitata</i>		アブラナ属	キャベツ	cabbage	Rivnay, 1962	
アブラナ科 (Cruciferae)	<i>Brassica rapa</i>		アブラナ属			Hodkinson, 1981	
アブラナ科 (Cruciferae)	<i>Brassica rapa</i> subsp. <i>chinensis</i>	<i>Brassica chinensis</i>	アブラナ属	チンゲンサイ	pak choi	Ouvrard, 2014	
アブラナ科 (Cruciferae)	<i>Capsella bursa-pastoris</i>		ナズナ属	ナズナ		Hodkinson, 1981	
アブラナ科 (Cruciferae)	<i>Erysimum cheiranthoides</i>		エリシムム属	エリシムム・ケイラントイデス (エゾスズシロ)	treacle mustard	Hodkinson, 1981	
アブラナ科 (Cruciferae)	<i>Raphanus raphanistrum</i>		ダイコン属	セイヨウノダイコン	wild radish	Hodkinson, 1981	

アブラナ科 (Cruciferae)	<i>Raphanus sativus</i> var. <i>sativus</i>		ダイコン属	ハツカダイコン		Hodkinson, 1981	
アブラナ科 (Cruciferae)	<i>Thlaspi arvense</i>		ゲンバイナズ ナ属	ゲンバイナズナ		Hodkinson, 1981	
キク科 (Compositae)	<i>Ambrosia artemisiifolia</i>		ブタクサ属	ブタクサ		Ouvrard, 2014	
キク科 (Compositae)	<i>Cirsium arvense</i>		アザミ属	セイヨウトゲアザ ミ		Ouvrard, 2014	
キク科 (Compositae)	<i>Senecio vulgaris</i>		セネキオ属	ノボロギク		Ouvrard, 2014	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Daucus carota</i> ※		ニンジン属	ニンジン	carrot	FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981; Ouvrard, 2014; Rivnay, 1962	
セリ科 (Umbelliferae)	<i>Petroselinum crispum</i> ※	<i>P. hortense</i> , <i>P. sativum</i>	オランダゼリ 属	オランダゼリ	parsley	Hodkinson, 1981	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Datura stramonium</i>		ダツラ属	シロバナヨウシュ チョウセンアサガ オ	jimsonweed	Hodkinson, 1981	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Solanum</i> spp.		ナス属			Ouvrard, 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Solanum nigrum</i>		ナス属	イヌホオズキ	black nightshade	Hodkinson, 1981	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Solanum tuberosum</i> ※		ナス属	バレイショ	potato	FERA, 2014; Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981; Ouvrard, 2014; Rivnay, 1962	
ヒルガオ科 (Convolvulaceae)	<i>Convolvulus arvensis</i>		セイヨウヒル ガオ属	セイヨウヒルガオ	field bindweed	Hodkinson, 1981	

ユリ科 (Liliaceae)	<i>Allium cepa</i>		ネギ属	タマネギ	onion	Halbert and Munyaneza, 2012; Hodkinson, 1981; Ouvrard, 2014	
--------------------	--------------------	--	-----	------	-------	---	--

※ 'Candidatus Liberibacter solanacearum'の宿主植物

***Bactericera nigricornis* の寄主植物に関連する経路の年間輸入検査量**
(発生国からの貨物、郵便物及び携帯品)

(1) 栽植用植物

単位(数量) : 本

植物名	生産国	2022		2023		2024	
		件数	数量	件数	数量	件数	数量
Brassica oleracea var. capitata(キャベツ)	イタリア					1	20

(2) 消費生植物(切り花)

単位(数量) : 本

植物名	生産国	2022		2023		2024	
		件数	数量	件数	数量	件数	数量
Thlaspi arvense(ガンパックス)	イスラエル	57	48,400	43	39,600	41	26,500

(3) 消費生植物(茎葉)

単位(数量) : kg

植物名	生産国	2022		2023		2024	
		件数	数量	件数	数量	件数	数量
Allium cepa(タマネギ加工)	イタリア					1	1
	インド	2	2			2	2
	オランダ	1	1	1	1	1	1
	ドイツ	2	2	1	1	1	1
	トルコ	2	2			1	1
	フィンランド	1	1				
	フランス					1	1
	中国	5,551	197,411,242	5,566	198,052,941	5,790	211,736,705
Allium cepa(タマネギ)	アゼルバイジャン					1	1
	イスラエル			1	1	1	1
	イタリア	79	1,451	67	1,201	46	743
	イラン					6	6
	インド	182	62,766	182	23,886	133	2,034

	ウズベキスタン					1	1
	オランダ	111	2,411,339	42	326,080	73	1,228,918
	スイス			1	1		
	スウェーデン	2	2			1	1
	スペイン	7	200,950				
	チュニジア					1	3
	ドイツ	9	12	6	505	5	533
	トルコ	4	4	5	5	8	9
	ネパール	10	13	2	7	8	9
	フィンランド					1	1
	フランス	6	11	12	122	10	9,026
	ポーランド					2	2
	モロッコ					1	1
	リトアニア					1	1
	ロシア	3	4	1	1	1	1
	中国	1,896	56,928,339	1,518	37,257,145	2,018	47,825,297
Beta vulgaris var. cicla(フタソウ、スイスチャード)	イタリア	10	77	53	426	33	276
	ドイツ			1	10		
Beta vulgaris(ビート/テンサイ/フタソウ)	イタリア	8	55	2	12		
Brassica chinensis(タイサイ)	オランダ					1	12
	中国					1	194
Brassica oleracea var. capitata(キャベツ)	イタリア			9	78	3	32
	スペイン					1	12
	フランス	1	70	1	1		
	中国	729	10,656,490	893	12,232,964	1,381	22,898,800
Brassica rapa(カブ)	イタリア	25	234	18	228	21	277
Brassica(アブラナ属)	イタリア			6	304	1	50
	中国	1	3			2	852
Daucus carota var. sativa(ニンジン)	ネパール			1	1		
Petroselinum sativum(=Petroselinum crispum)(オランダゼリ(パセリ))	イスラエル	4	110				
	オランダ	1	5	2	13	2	8
	スペイン					2	5
	中国	1	297	3	321		

(4) 消費用木材

針葉樹については、寄主植物として特定された植物はないため、輸入検査実績は記載しない。

引用文献

- Alyokhin, A., C. Vincent and P. Giordanengo (2012) Insect pests of potato: global perspectives on biology and management. Academic Press, Cambridge, MA, USA: 616 pp.
- Avidov, A. and I. Harpaz (1969) Plant pests of Israel. Israel Universities Press, Jerusalem, Israel: 75 pp.
- Ben Othmen, S., F. E. Morán, I. Navarro, S. Barbé, C. Martínez, E. Marco-Noales and M. M. López (2018a) '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' haplotypes D and E in carrot plants and seeds in Tunisia. *Journal of Plant Pathology* 100: 197-207.
- Ben Othmen, S., K. Abbes, M. El Imem, D. Ouvrard, C. Rapisarda and B. Chermiti (2018b). *Bactericera trigonica* and *B. nigricornis* (Hemiptera: Psylloidea) in Tunisia as potential vectors of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on Apiaceae. *Oriental Insects* 53: 1-13. (online), available from <<https://doi.org/10.1080/00305316.2018.1536003>>, (accessed 2022-11-17).
- EPPO (2013) '*Candidatus Liberibacter solanacearum*'. EPPO Bulletin 43: 197-201.
- EPPO (2018) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' on carrot crops in Belgium. EPPO Reporting Service (2018/034).
- EPPO (2019) First report of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' and its vectors *Bactericera trigonica* and *B. nigricornis* in Tunisia. EPPO Reporting Service (2019/020).
- Fathi, S. A. A. (2011) Population density and life-history parameters of the psyllid *Bactericera nigricornis* (Förster) on four commercial cultivars of potato. *Crop Protection* 30: 844-848.
- FERA (2014) Rapid pest risk analysis for *Candidatus Liberibacter solanacearum*. The Food and Environment Research Agency.
- Halbert, S. and J. E. Munyaneza (2012) Potato psyllids and their associated pathogens: A diagnostic aid. (online), available from <http://www.fsca-dpi.org/Homoptera_Hemiptera/Potato_psyllids_and_associated_pathogens.pdf>, (accessed 2022-11-17).
- Hodkinson, I. D. (1981) Status and taxonomy of the *Trioza (Bactericera) nigricornis* Förster complex (Hemiptera: Triozidae). *Bulletin of Entomological Research* 71: 671-679.
- Hodkinson, I. D. (2009) Life cycle variation and adaptation in jumping plant lice (Insecta: Hemiptera: Psylloidea): a global synthesis. *Journal of Natural History* 43: 65-179.
- Malenovský, I., P. Lauterer, E. Labina, D. Burckhardt (2012) Jumping plant-lice (Hemiptera: Psylloidea) of Afghanistan. *Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae* 52: 1-22.
- Munyaneza, J. E. (2014) Biology and management of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' in Solanaceous crops: Case of zebra chip disease of potato. USDA. (online), available from <http://www.simpodiumbacterias.mx/files/magistrales/biology_of_zebra_chip.pdf>, (accessed 2018-02-06).
- 農林省 (1950) 植物防疫法施行規則 (昭和 25 年農林省令第 73 号) .
- Ouvrard, D. (2014) Psyllist - The World Psylloidea Database. Natural History Museum. (online), available from <<https://data.nhm.ac.uk/dataset/psyll-list/resource/8746ceec-4846-4899-b607-9ba603002033>>, (accessed 2014-08-26).
- Potatoes New Zealand Growing together (2011) Psyllid News. (online), available from <<http://www.potatoesnz.co.nz/users/Image/Downloads/PDFs/Psyllid%20News%20September%202011.pdf>>, (accessed 2022-11-17).
- Rivnay, E. (1962) Field Crop Pests in the Near East. *Monographiae Biologicae* vol. 10. Springer, Dordrecht: 340-342.

B. 病害虫リスクアナリシス（病害虫リスク管理（ステージ3））

病害虫リスク評価の結果、Lso 及びベクター4種（*Bactericera cockerelli*、*B. nigricornis*、*B. trigonica* 及び *Trioza apicalis*）はリスク管理措置が必要な検疫有害動植物であると判断されたことから、ステージ3において、発生国からの宿主植物の輸入による入り込みの可能性を低減するための適切な管理措置について検討する。

ただし、Lso のベクター4種については、それぞれ分布地域、寄主植物、媒介するLso のハプロタイプが異なるものの、生態及び性質は極めて類似しており、Lso のベクターとしてのリスクを低減する管理措置は4種とも同一として差し支えない。

なお、Lso のベクター4種に対する管理措置の検討に当たっては、Lso のベクターとなる可能性のある害虫類が現在は日本に存在しないことを考慮する必要がある。

1. Lso 及びそのベクター4種に対するリスク管理措置の選択肢の検討

(1) Lso

選択肢	方法	有効性及び実行可能性の検討	実施主体 (時期)	有効性	実行 可能性
①病害虫無発生 の地域、 生産地又は 生産用地の 設定及び維 持	ISPM 4 (FAO, 2024) 又は 10 (FAO, 2025) に基 づき設定及び 維持する。	〔有効性〕 ●ISPM に基づき輸出国植物防 疫機関が設定、管理及び維持 する病害虫無発生地域、生 産地又は生産用地であって、 ベクターの管理ができれば、 有効である。 〔実行可能性〕 ●輸出国において適切に管理さ れること（ベクターの管理を 含む。）が必要であるが、実 行可能と考えられる。	輸出国 (輸出前)	○	○
②システムズ アプローチ	ISPM 14 (FAO, 2021) に基 づき実施す る。	少なくとも二つ以上の互いに 独立して作用し、かつ累積的 な効果を有する管理措置を一 つに統合して適用するシステ ムズアプローチの有効性及び 実行可能性については、具体 的に提案される管理措置の内 容を検討する必要がある。	輸出国 (輸出前)	—	—
③栽培地検査	栽培期間中に 生育場所にお いて植物の症 状等を観察す る。	〔有効性〕 ●栽培期間中に症状を明瞭に現 す場合は有効である。 ●Lso は、宿主植物にロゼット 化、葉の黄化、葉巻等の症状 を現すことから有効である。	輸出国 (栽培中)	▽	○

		<ul style="list-style-type: none"> ●しかし、バレイショ及びニンジンに無病徴感染する等の報告があるため、効果は限定的である。 <p>[実行可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●輸出国において適切な検査が行われることが必要であるが、実行可能と考えられる。 			
④精密検定	血清学的診断法、遺伝子診断法等による精密検定を実施する。	<p>[有効性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Lso は、特異的なプライマー等を利用したリアルタイムPCR 法等によって検出可能であるため有効である。 ●症状を現している部位の師部を含むサンプルや根・塊茎等が検定に適するが、症状を現していない場合でも検出は可能であるため有効である。 <p>[実行可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●輸出入国において検定施設を有するとともに、プライマー及びポジティブコントロールが必要であるが、実行可能と考えられる。 	<p>輸出国 (輸出前)</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>輸入国 (輸入時)</p> <p>○</p> <p>○</p>		
⑤検査証明書への追記	輸出国での目視検査の結果、Lsoに感染していないことを確認し、その旨を検査証明書に追記する。	<p>[有効性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Lso は、宿主植物にロゼット化、葉の黄化、葉巻等の症状を現すが、バレイショ及びニンジンに無症状感染する等の報告があるため、効果は限定的である。 ●また、バレイショ塊茎においては、内部組織にえそ斑、放射状の条斑等の症状を現すことから、切開等が必要となるため、効果は限定的である。 <p>[実行可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●輸出国において適切な検査が行われることが必要であるが、実行可能と考えられる。 	<p>輸出国 (輸出時)</p> <p>▽</p> <p>○</p>		

⑥輸出入検査 (目視検査)	植物の症状等を確認する。	<p>[有効性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Lso は、宿主植物にロゼット化、葉の黄化、葉巻等の症状を現すが、バレイショ及びニンジンに無症状感染する等の報告があるため、効果は限定的である。 ●また、バレイショ塊茎においては、内部組織にえそ斑や放射状の条斑等の症状を現すことから、切開等が必要となるため、効果は限定的である。 <p>[実行可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●輸出入国において通常実施されている検査であり、実行可能である。 	<p>輸出国 (輸出時)</p> <p>輸入国 (輸入時)</p>	▽	○
⑦隔離栽培中の検査	輸入後、国内の施設において一定期間栽培し、症状の確認や精密検定を実施する。	<p>[有効性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●栄養繁殖するバレイショ塊茎等は輸入後、国内の施設において一定の期間栽培し、生物検定や精密検定を実施することは、Lso の潜在感染の有無の確認のため、有効である。 ●また、Lso を発病した場合の検定法は確立されており、かつ全量検査を行うことができるため、有効である。 <p>[実行可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多年生植物は、隔離栽培中の検査が実行可能であるが、隔離栽培ができる施設が限られており、検査できる数量等が制限される。そのため、隔離栽培運用基準（農林省, 1968）に規定されていない宿主植物を新たに隔離栽培する場合は、隔離施設の整備及び栽培管理のための条件を整える必要があることから、限定条件下で実行可能である。 	輸入国 (輸入後)	○	▽ (バレイショ塊茎) ○)

		● なお、バレイショ塊茎は、同運用基準で対象とされているため、実行可能である。			
--	--	---	--	--	--

- 有効性 ○：効果が高い
 ▽：限定条件下で効果がある
 ×：効果なし
 -：検討しない
- 実行可能性 ○：実行可能
 ▽：限定条件下で実行可能
 ×：実行困難
 -：検討しない

(2) Lso のベクター4種

選択肢	方法	有効性及び実行可能性の検討	実施主体 (時期)	有効性	実行可能性
①病害虫無発生地域の設定及び維持	ISPM 4 に基づき設定及び維持する。	〔有効性〕 ● ISPM に基づき輸出国植物防疫機関が設定、管理及び維持する病害虫無発生地域であれば、有効である。 〔実行可能性〕 ● 輸出国において適切に管理されることが必要であるが、実行可能と考えられる。	輸出国 (輸出前)	○	○
②病害虫無発生生産地又は生産用地の設定及び維持	ISPM 10 に基づき設定及び維持する。	〔有効性〕 ● ISPM に基づき輸出国植物防疫機関が設定、管理及び維持する病害虫無発生生産地又は生産用地であれば、有効であるが、当該生産地又は生産用地に本種が入り込まないことを確実にする必要がある。 ● 病害虫無発生生産地については、対象種の成虫は長距離飛翔も可能なため、対象種の寄主植物が存在しない緩衝地帯の設定は困難である。 ● 病害虫無発生生産用地（ガラスハウス等の本種の入り込みが防げる施設）については、施設内に本種の発生	輸出国 (輸出前)	○ (病害虫無発生生産地×)	○

		<p>が確認されていないければ、有効である。</p> <p>〔実行可能性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●輸出国において適切に管理されることが必要であるが、実行可能と考えられる。 			
③システムズアプローチ	ISPM 14 に基づき実施する。	<p>少なくとも二つ以上の互いに独立して作用し、かつ累積的な効果を有する管理措置を一つに統合して適用するシステムズアプローチの有効性及び実行可能性については、具体的に提案される措置の内容を検討する必要がある。</p>	輸出国 (輸出前)	—	—
④栽培地検査	栽培期間中に生育場所において植物の症状等を観察する。	<p>〔有効性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象種による以下の症状等を目視で確認できるため、有効である。 <ul style="list-style-type: none"> ・成虫の体長は2.0~4.0 mm 程度。 ・成虫や幼虫は、葉全体や果実を吸汁し、粘着性の白い排せつ物を多量に排出することがある。 ・対象種による症状としては、果実、生長点、葉、根、茎、栄養器官、全身等に様々な症状が報告されている。 ●しかし、卵は、葉の表面に1個ずつ（生涯に合計 300～500 個）産下されることから、目視では見逃す可能性があるため、効果は限定的である。 <p>〔実行可能性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●輸出国において適切に実施されることが必要であるが、実行可能と考えられる。 	輸出国 (栽培中)	▽	○
⑤ほ場における寄主植物に対する防	化学的防除法、物理的防除法等を実施	<p>〔有効性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●殺虫剤のイミダクロプリドやアバメクチンは、対象種 	輸出国 (栽培中)	▽	○

除	する。	<p>の成虫の活動を大きく抑えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●しかし、キジラミ類の管理には一般的に殺虫剤の利用が有効であるが、非常に多産かつ世代間が短いため殺虫剤に対して抵抗性を持つものが現れる。そのため、適切なほ場管理を加えた総合的な防除が求められることから、化学的防除法等の単独では、効果は限定的である。 <p>[実行可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●輸出国において適切に実施されることが必要であるが、実行可能と考えられる。 			
⑥熱処理、低温処理、くん蒸処理（リン化水素、臭化メチル等）及び放射線照射処理		<p>[有効性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●他国において本種に対して本措置を植物検疫措置として利用している事例は確認できなかった。 ●我が国の輸入検査不合格時に実施している措置であり、有効である。 <p>[実行可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●輸出入国において適切に実施されることが必要であるが、実行可能と考えられる。 ●輸出国によっては、臭化メチルくん蒸処理が認められていない可能性がある。 ●日本において、食用植物への放射線照射処理は、食品衛生法（厚生省, 1947）に基づきバレイシヨの発芽防止を除いて認められていない。 	輸出国（輸出前）	○	○ （臭化メチルくん蒸処理及び放射線照射処理▽）
⑦検査証明書への追記	輸出国での目視検査の結果	[有効性]	輸出国	▽	○

	果、対象種に寄生されていないことを確認し、その旨を検査証明書に追記する。	<ul style="list-style-type: none"> ●対象種による以下の症状等は目視で確認できるため、有効である。 <ul style="list-style-type: none"> ・成虫の体長は2.0～4.0 mm 程度。 ・成虫や幼虫は、葉全体や果実を吸汁し、粘着性の白い排せつ物を多量に排出することがある。 ●しかし、雌成虫は、葉の表面に卵を1個ずつ（生涯に合計で300～500個）産み付けるため、卵のみの場合、付着密度が低い等の場合は、目視では見逃す可能性があるため、効果は限定的である。 ●なお、消費用木材（樹皮付き）及び樹皮については、成虫が越冬のために付着するだけであり、卵及び幼虫の寄生はない。そのため、樹皮の隙間等に注意して検査することにより目視で確認できるため、有効である。 <p>[実行可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●輸出国において適切な検査が行われることが必要であるが、実行可能と考えられる。 	(輸出時)	(消費 用木材 (樹皮 付き) 及び樹 皮○)	
⑧輸出入検査 (目視検査)	植物の症状等を確認する。	<p>[有効性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象種による以下の症状等は目視で確認できるため、有効である。 <ul style="list-style-type: none"> ・成虫の体長は2.0～4.0 mm 程度。 ・成虫や幼虫は、葉全体や果実を吸汁し、粘着性の白い排せつ物を多量に排出することがある。 ●しかし、雌成虫は、葉の表面に卵を1個ずつ産み付けるため、卵のみの場合、付着密度が低い等の場合は、目視では 	輸出国 (輸出時)	▽ (消費 用木材 (樹皮 付き) 及び樹 皮○)	○
			輸入国 (輸入時)	▽ (消費 用木材 (樹皮 付き)	○

		見逃す可能性があるため、効果は限定的である。 ●なお、消費用木材（樹皮付き）及び樹皮については、成虫が越冬のために付着するだけであり、卵及び幼虫の寄生はない。そのため、樹皮の隙間等に注意して検査することにより目視で確認できるため、有効である。 〔実行可能性〕 ●輸出入国において通常実施されている検査であり、実行可能である。		及び樹皮○)	
⑨隔離栽培中の検査	輸入後、国内の施設において一定期間栽培し、対象種の寄生の有無について確認する。	〔有効性〕 ●多年生植物は、一定期間栽培することにより、対象種の寄生の有無を確認できるため、有効である。 ●しかし、対象種の成虫は長距離飛翔することも可能であることから、施設内外にまん延する可能性があるため、有効ではない。	輸入国（輸入後）	×	—

- 有効性 ○：効果が高い
▽：限定条件下で効果がある
×：効果なし
—：検討しない
- 実行可能性 ○：実行可能
▽：限定条件下で実行可能
×：実行困難
—：検討しない

2. 経路ごとのLso及びそのベクター4種に対するリスク管理措置の選択肢の検討

Lsoに関連する経路である栽植用植物、栽植用球根類（バレイショ塊茎）、消費用生植物、消費用木材（樹皮付き）及び樹皮に対して、以下に示す選択肢が妥当と判断した。なお、上記1の管理措置以外の措置を適用する場合は、上記1の管理措置を参考に判断する。

(1) 栽植用植物

ア Lso

(ア) 検討結果

病害虫無発生の地域、生産地又は生産用地の設定及び維持（選択肢①）は、Lsoの入り込みの可能性に対して有効な管理措置である。しかしながら、病害虫無発生地域等の設定

及び維持においては、Lso のベクター4種に対する管理が必要である。また、病害虫無発生地域等における宿主植物の栽培環境、病害虫管理等を含む各種要因に影響を受けるため、個別案件ごとに具体的な内容を輸出国植物防疫機関が示し、日本がその許諾を判断する必要がある。

精密検定（選択肢④）は、Lso を検出するための精度の高い精密検定法が報告されているため、有効な管理措置である。

（イ）リスク管理措置の特定

栽植用植物に対する管理措置として、Lso の入り込みの可能性を低減させることが可能であり、かつ必要以上に貿易制限的でないと判断し、以下を特定した。なお、以下のいずれかの管理措置を実施する必要がある。

- 輸出国（輸出前）において、輸入植物検疫規程（農林省, 1950）別表第1の6項2号の規定に基づく検査量相当について目視検査を行う。また、疑似症状部位及び無作為に抽出した検体についてPCR法等の遺伝子診断法による検定を行い、Lso に侵されていないことを確認し、その旨を検査証明書に追記する。
- 輸入国（輸入時）において、同検疫規程別表第1の6項2号の規定に基づく検査量について目視検査を行う。また、疑似症状部位及び無作為に抽出した検体についてPCR法等の遺伝子診断法による検定を行い、Lso に侵されていないことを確認する。

輸入植物検疫規程（農林省, 1950）別表第1の6項2号		
検査荷口の大きさ		検査する数量
1,000 本未満		30%以上
1,000 本以上	1,841 本未満	300 本以上
1,841 本以上	4,601 本未満	400 本以上
4,601 本以上	9,201 本未満	500 本以上
9,201 本以上	24,001 本未満	600 本以上
24,001 本以上		800 本以上

イ Lso のベクター4種

（ア）検討結果

病害虫無発生地域の設定及び維持（選択肢①）並びに病害虫無発生生産用地の設定及び維持（選択肢②）は、Lso のベクター4種の入込みの可能性に対して有効な管理措置である。しかしながら、病害虫無発生地域等の設定及び維持は、寄主植物の栽培環境、病害虫管理等を含む各種要因に影響を受けるため、個別案件ごとに具体的内容を輸出国植物防疫機関が示し、日本がその許諾を判断する必要がある。

熱処理、低温処理、くん蒸処理（リン化水素、臭化メチル等）及び放射線照射処理（選択肢⑥）は、科学的に有効であることが証明された処理であれば、有効な管理措置である。

検査証明書への追記（選択肢⑦）は、輸出国に対し検査対象種を明示し、付着が想定される部位に対する綿密な検査を求めることにより、成虫及び幼虫の付着は発見できるが、卵を見逃す可能性があるため、ほ場における寄主植物に対する防除（選択肢⑤）を併用することで入り込みの可能性を低減することにより有効な管理措置となり得る。

(イ) リスク選択枝の特定

栽植用植物（葉（*Bactericera cockerelli* は茎葉及び果実））に対する管理措置として、Lso のベクター4種の入り込みの可能性を低減させることが可能であり、かつ必要以上に貿易制限的でない判断し、以下を特定した。

- 輸出国（栽培中）において、ほ場における輸出対象植物に対する防除を行うとともに、輸出時において、目視検査でLsoのベクター4種が寄生していないことを確認し、その旨を検査証明書に追記する。

(2) 栽植用球根類（バレイショ塊茎）

ア Lso

(ア) 検討結果

病害虫無発生地域、生産地又は生産用地の設定及び維持（選択枝①）並びに精密検定（選択枝④）は、栽植用球根（バレイショ塊茎）において有効な管理措置である。

隔離栽培中の検査（選択枝⑦）は、一定期間栽培することにより、Lsoの潜在感染の有無を確認でき、Lsoを発病した場合及び無症状感染した場合の検定法が確立されていることから、有効な管理措置である。

(イ) リスク管理措置の特定

栽植用球根類（バレイショ塊茎）に対する管理措置として、Lsoの入り込みの可能性を低減させることが可能であり、かつ必要以上に貿易制限的でない判断し、以下を特定した。なお、以下のいずれかの管理措置を実施する必要がある。

- 輸出国（輸出前）において、輸入植物検疫規程（農林省、1950）別表第1の4項の規定に基づく検査量（全量）相当について目視検査を行う。また、疑似症状部位及び無作為に抽出した検体についてPCR法等の遺伝子診断法による検定を行い、Lsoに侵されていないことを確認し、その旨を検査証明書に追記する。
- 輸入国（輸入後）において、全量を隔離栽培中の検査対象として、国内の施設において一定期間栽培し、Lsoによる症状の確認や精密検定を行い、Lsoに侵されていないことを確認する。

(3) 消費生植物（葉（*Bactericera cockerelli* は茎葉及び果実））

ア Lsoのベクター4種

(ア) 検討結果

病害虫無発生地域の設定及び維持（選択枝①）、病害虫無発生生産用地の設定及び維持（選択枝②）並びに熱処理、低温処理及びくん蒸処理（リン化水素、臭化メチル等）（選択枝⑥）は、消費生植物において有効な管理措置である。

検査証明書への追記（選択枝⑦）及び輸出入検査（目視検査）（選択枝⑧）は、雌成虫が葉の表面に卵を1個ずつ産み付けるため、卵のみの場合、付着密度が低い等の場合に見逃す可能性があるが、以下の点を踏まえると、有効な管理措置となり得る。

- ・ 卵が産み付けられる部位に注意して検査を行えば、見逃しの可能性を低減できる。
- ・ 消費生植物は、輸入後短期間のうちに消費され、直接栽培地に持ち込まれる可能性が低い。

(イ) リスク管理措置の特定

消費生植物（葉（*Bactericera cockerelli*は茎葉及び果実））に対する管理措置として、Lso のベクター4種の入り込みの可能性を低減させることが可能であり、かつ必要以上に貿易制限的でないとは判断し、以下を特定した。

- 輸出国（輸出時）及び輸入国（輸入時）において、Lso のベクター4種の寄生の有無について目視検査を行い、Lso のベクター4種が寄生していないことを確認する。

(4) 消費生木材（樹皮付き）及び樹皮

ア Lso のベクター4種

(ア) 検討結果

病害虫無発生地域の設定及び維持（選択肢①）、病害虫無発生生産用地の設定及び維持（選択肢②）並びに熱処理、低温処理、くん蒸処理（リン化水素、臭化メチル等）及び放射線照射処理（選択肢⑥）は、消費生木材（樹皮付き）及び樹皮において有効な管理措置である。

検査証明書への追記（選択肢⑦）及び輸出入検査（目視検査）（選択肢⑧）は、付着が想定される部位に対する綿密な検査を求めることにより、越冬している成虫を容易に見えるため、有効な管理措置である。

(イ) リスク選択肢の特定

消費生木材（樹皮付き）及び樹皮に対する管理措置として、Lso のベクター4種の入り込みの可能性を低減させることが可能であり、かつ必要以上に貿易制限的でないとは判断し、以下を特定した。

- 輸出国（輸出時）及び輸入国（輸入時）において、Lso のベクター4種の寄生の有無について目視検査を行い、Lso のベクター4種が寄生していないことを確認する。

引用文献

FAO (2024) International Standard for Phytosanitary Measures 4 (ISPM 4), The use of integrated measures in a systems approach for pest risk management, International Plant Protection Convention (IPPC), Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO).

FAO (2025) International Standard for Phytosanitary Measures 10 (ISPM 10), Requirements for the establishment of pest free places of production and pest free production sites, International Plant Protection Convention (IPPC), Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO).

FAO (2021) International Standard for Phytosanitary Measures 14 (ISPM 14), The use of integrated measures in a systems approach for pest risk management, International Plant Protection Convention (IPPC), Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO).

厚生省 (1947) 食品衛生法 (昭和 22 年 12 月 24 日法律第 233 号) .

農林省 (1950) 輸入植物検疫規程 (昭和 25 年農林省告示第 206 号) .

農林省 (1968) 隔離栽培運用基準 (昭和 43 年 5 月 20 日付け 43 農政 B 第 916 号農政局長通達) .